

平成 22・23 年度

# 沖縄美ら海水族館年報

## 第 8 号



---

ANNUAL REPORT OF OKINAWA CHURAUMI AQUARIUM

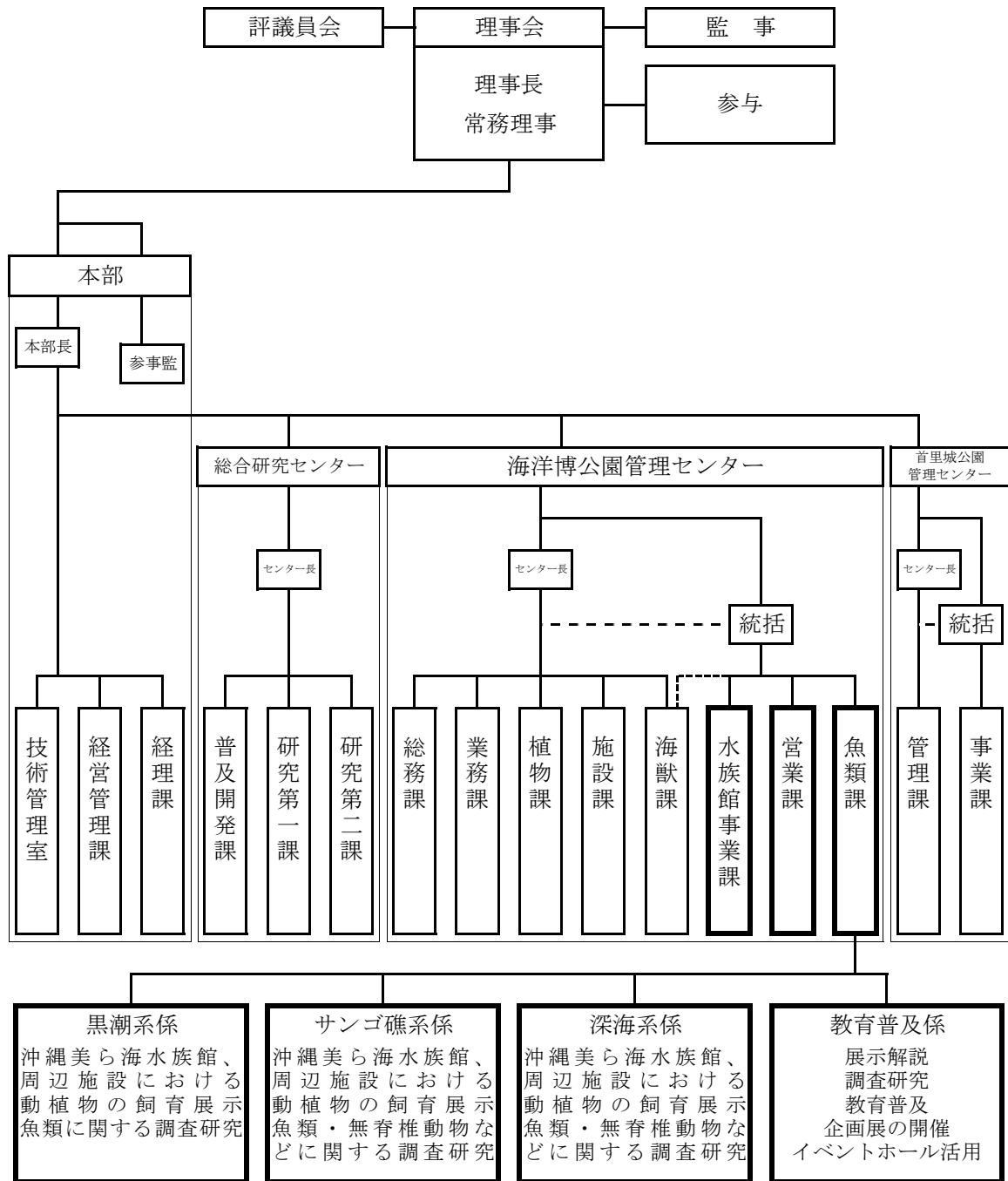
No.8 April 2010—March 2012

---

### Ⅲ 管理・運営

#### (1) 組織

財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団<sup>※</sup> 組織図  
並びに 沖縄美ら海水族館 飼育・展示関係業務所掌



平成23年4月1日現在

※ 「財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団」は平成24年10月1日、「一般財団法人 沖縄美ら島財団」に名称変更いたしました。

# 目次

I	名称・所在地・営業資料	2
II	沿革	2
III	管理・運営	
(1)	組織	3
(2)	入館者数	4
(3)	主な活動・出来事	4
(4)	主な長期飼育動物・繁殖動物	9
(5)	業務入館	9
(6)	取材状況	14
(7)	学会発表、講演等	20
IV	業務報告	
(1)	調査研究活動	
	平成 22 年度	23
	平成 23 年度	45
(2)	教育普及活動	
	平成 22 年度	54
	平成 23 年度	67
IV	付属資料	
(1)	飼育動物一覧	78
(2)	水槽規格	92
(3)	取水海水温	93

表紙 写真  
裏表紙写真

移動水族館の様子（撮影：横山季代子）  
チュラコシオリエビ *Galathea chura*（撮影：東地拓生）

## I 名称・所在地・営業資料

名称 沖縄美ら海水族館  
 所在地 〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 424  
 (国営沖縄記念公園海洋博覧会地区内)  
 電話：0980-48-3748 FAX：0980-48-4444 (代表)  
 電話：0980-48-2742 FAX：0980-48-4399 (魚類課)  
 HP：http://oki-churaumi.jp  
 営業資料 開館時間：通常期(10月 - 2月) 08:30 - 18:30  
 夏期(3月 - 9月) 08:30 - 20:00  
 休館日：12月の第一水曜日とその翌日

### 入館料金

	入館時間			年間パスポート
	8:30 - 16:00 (通常料金)		16:00 - 入館締切 (4時からチケット)	
	一般	団体(20名以上)		
大人	1,800円	1,440円	1,260円	3,600円
中人(高校生)	1,200円	960円	840円	2,400円
小人(小・中学生)	600円	480円	420円	1,200円
6歳未満	無料			—

## II 沿革

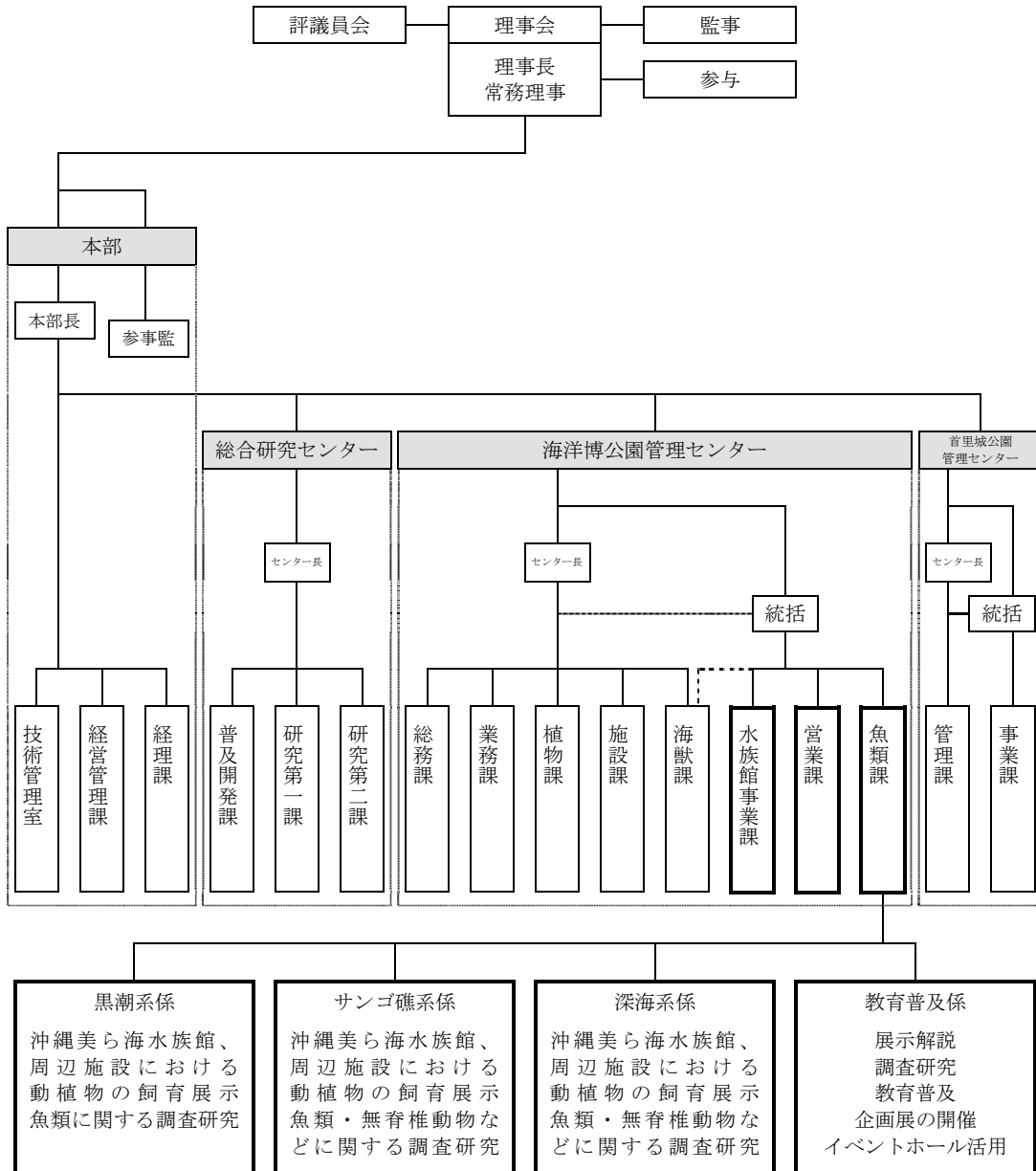
昭和 63年度 海洋性大規模集客施設整備構想  
 平成 元年度 海洋性大規模集客施設基本計画策定  
 平成 6年度 新水族館基本設計 着手  
 平成 7年度 新水族館実施設計 新水族館工事前道路工事 着手  
 平成 8年度 新水族館基盤整備工事 着手

平成 14年11月 1日 新水族館開館、愛称を「沖縄美ら海水族館」とする  
 平成 15年 2月28日 入館者 100万人達成  
 平成 15年 3月25日 沖縄美ら海水族館博物館登録  
 平成 15年 7月26日 入館者 200万人達成  
 平成 15年12月 6日 入館者 300万人達成  
 平成 16年 5月 4日 入館者 400万人達成  
 平成 16年10月24日 入館者 500万人達成  
 平成 18年11月11日 入館者 1,000万人達成  
 平成 20年 7月23日 入館者 1,500万人達成  
 平成 22年 3月30日 入館者 2,000万人達成  
 平成 24年 2月 3日 入館者 2,500万人達成

### Ⅲ 管理・運営

#### (1) 組織

財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団※ 組織図  
並びに 沖縄美ら海水族館 飼育・展示関係業務所掌



平成 23 年 4 月 1 日現在

※ 「財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団」は平成 24 年 10 月 1 日、  
「一般財団法人 沖縄美ら島財団」に名称変更いたしました。

## (2) 入館者数

月	有料	無料	合計	月	有料	無料	合計
平成 22 年度				平成 23 年度			
4	206,425	19,515	225,940	4	153,774	19,535	173,309
5	216,031	36,482	252,513	5	183,483	34,343	217,826
6	163,110	17,723	180,833	6	148,618	18,409	167,027
7	208,794	25,127	233,921	7	202,497	27,535	230,032
8	284,079	26,652	310,731	8	274,890	31,246	306,136
9	237,905	23,102	261,007	9	220,585	31,837	252,422
10	221,955	20,779	242,734	10	236,102	24,227	260,329
11	196,137	17,042	213,179	11	200,132	18,804	218,936
12	174,493	15,464	189,957	12	194,479	18,787	213,266
1	176,936	16,868	193,804	1	189,615	18,795	208,410
2	179,584	16,465	196,049	2	185,659	17,755	203,414
3	195,862	18,560	214,422	3	248,141	21,639	269,780
計	2,461,311	253,779	2,715,090	計	2,437,975	282,912	2,720,887

## (3) 主な活動・出来事

月日	内容	場所
平成 22 年度		
4月12 - 14日	日動水飼育HB編集委員会・教育部会	東京
4月14日	沖縄尚学院専門学校概要説明	水族館
4月16日	沖縄高専学校講義	名護市
4月20日	大阪動植物海洋専門学校バックヤード見学	水族館
4月23日	滋賀県高島市立今津中学校インタビュー	水族館
4月29日	伊平屋中学校自然体験学習	伊平屋村
4月29日 - 5月9日	危険生物展	水族館
5月12日	熊本県水川中学校インタビュー	水族館
5月18日	名護小学校イノー観察会事前学習会	名護市
5月20日	介護施設移動水族館	宜野湾市
5月21日	ツノザメ麻酔実験	蓄養棟
5月22日	ジンベエサメ衛星タグ標識放流	読谷村
5月22 - 23日	環境教育学会	那覇市
5月22 - 28日	広島大学調査船 乗船調査	東シナ海
5月26 - 28日	平成22年度日動水通常総会・協議会	山口
5月28日	ジンベエサメ標識放流	読谷村
5月28日	ツノザメ麻酔実験	蓄養棟
5月28日	名護小学校イノー観察会	本部町
6月1 - 10日	サンゴの卵と幼生観察会	水族館
6月4日	リュウキュウアユ放流会	名護市、国頭村
6月4日	花火打ち上げ海域調査	本部町
6月15日 - 7月31日	「まるごと沖縄クリーンビーチキャンペーン2010」パネル展示	水族館
6月11 - 14日	移動水族館	久米島町
6月16・8日	ウェルススポーツ専門学校職場体験学習	水族館
6月19 - 26日	インド・太平洋サンゴ礁学会	タイ
6月19日	インド太平洋魚類会議組織委員会	宜野湾市
6月20日	北中城社会福祉協議会しおさい公苑移動水族館	北中城村
6月15 - 20日	こども環境調査隊事前調査	インドネシア
6月20 - 23日	長崎大学長崎丸調査乗船	東シナ海
6月24日	昨年生まれマンタ展示	水族館
6月24 - 26日	メガマウス調査	静岡
6月26日	国際精子学シンポジウム一般講演	名護市
6月26日	ナンヨウマンタ出産	水族館
6月29 - 30日	瀬底中学校・本部中学校職場体験学習	水族館
6月30日	国際精子学シンポジウムサテライトシンポジウム	総合研究センター
7月2日	大阪経営者協会講演会	総合研究センター

月日	内容	場所
7月4日	境港総合技術高校バックヤード見学	水族館
7月6日	ジンベエザメタグ放流	読谷村
7月17日 - 9月30日	黒潮探検自由観覧開始	水族館
7月17 - 25日	コロラド大学飼育実習	水族館
7月19日	花火海洋環境調査	エメラルドビーチ
7月19日 - 8月31日	ソニーアクアリウム	東京
7月20日	ジンベエザメタグ放流	読谷村
7月22日	子供環境調査隊事前学習会	総合研究センター
7月23 - 26日	ソニーアクアリウム出張授業・ガイドツアー	東京
7月24日 - 8月31日	ジンベエザメ展	水族館
7月25日	万国津梁館移動水族館	名護市
7月26-31日	B&G海洋体験セミナー講演	本部町
7月27 - 28日	サンゴ野外調査	本部町
7月28日 - 8月7日	学芸員実習	水族館
7月30日	国立病院機構沖縄病院移動水族館	西原町
7月30日 - 8月2日	ソニーアクアリウム出張授業・ガイドツアー	東京
7月31日	夏休み親子美ら海水族館海上イクス体験（読売新聞共催）	生け簀・総合研究センター
7月末	長崎県五島ジンベエザメ標識放流調査	長崎
8月3日	本部町教員10年目研修	水族館
8月4日	上本部小学校見学	水族館
8月4日	子供環境調査隊ジュノーケリング講習	恩納村
8月6 - 10日	ソニーアクアリウム出張授業・ガイドツアー	東京
8月7日	イタチザメ麻酔搬入	読谷村
8月7日	美ら海体験祭り対応	エメラルドビーチ
8月7日	子供環境調査隊事前学習会	恩納村
8月7日	金武町ビーチクリーンパネル展示	金武町
8月8日	美ら海自然教室(深海魚)	総合研究センター
8月9日	ソニーアクアリウム館長特別講演	東京
8月10日	北部農林高校職場体験学習	水族館
8月10 - 16日	東海大学飼育実習	水族館
8月11 - 13日	北部農林高校職場体験学習	水族館
8月10 - 16日	ソニーアクアリウム出張授業・ガイドツアー	東京
8月13日	リュウキュウアユ放流	名護市
8月14日	社会福祉法人みさき移動水族館	うるま市
8月14 - 20日	子ども環境調査隊事前調査	インドネシア
8月15日	アジア青年の家バックヤード見学	水族館
8月16日 - 9月16日	水路記念日ポスター展示	水族館
8月20日	県立北部病院移動水族館	名護市
8月20 - 23日	ソニーアクアリウム出張授業・ガイドツアー	東京
8月20日 - 9月2日	北里大学獣医実習	水族館
8月21 - 26日	サンゴ調査	本部町
8月25 - 31日	北海道エココミュニケーション専門学校飼育実習	水族館
8月27日	クロヘリメジロ出産	水族館
8月27 - 30日	ソニーアクアリウム出張授業・ガイドツアー	東京
9月1 - 7日	近畿大学飼育実習	水族館
9月3 - 16日	岐阜大学獣医実習	水族館
9月3日	長崎大学練習船見学	水族館
9月9 - 12日	石垣島サメ駆除	石垣市
9月8 - 14日	沖縄工業高等専門学校飼育実習	水族館
9月10日	近畿大学バックヤード見学	水族館
9月11日	子供環境調査隊学習会	那覇市
9月13 - 14日	今帰仁中学校職場体験学習	水族館
9月15 - 21日	宮崎大学飼育実習	水族館
9月16日	河川調査	名護市
9月16 - 17日	沖縄県立盲学校中学部職場体験学習	水族館
9月18日	子供環境調査隊学習会	那覇市
9月21日	タマカイ麻酔実験	水族館
9月22日	介護老人施設ありあけの郷移動水族館	那覇市
9月22 - 26日	日本魚類学会年会	三重
9月24日	南部医療センター移動水族館	那覇市
9月26日	子供環境調査隊シンポジウム	那覇市
9月27日 - 10月10日	岐阜大学獣医実習	水族館
9月30日	タマカイ麻酔実験、CT検査	水族館
10月1日	天久台病院移動水族館	那覇市
10月1日	リュウキュウアユ復元拡大会議	浦添市
10月4日	ジンベエザメ調査	読谷村
10月5 - 7日	沖縄水産高校職場体験学習	水族館
10月7日	千葉県立盲学校来館	水族館
10月7日	愛知県立名古屋聾学校来館	水族館
10月8日	ジンベエザメ調査	読谷村
10月9日	トラックの日イベント	那覇市
10月19 - 20日	東大海洋研共同利用シンポジウム	千葉
10月20 - 22日	タマカイ外科手術	水族館

月日	内容	場所
10月21 - 24日	新上五島列島ジンベエザメタグ放流	長崎
10月23日	南九州臨床微生物研究会	本部町
11月5日	トカゲハゼ飼育環境調査	那覇市
11月5 - 6日	本部高校職場体験学習	水族館
11月8 - 11日	日動水種保存委員会類別拡大会議	東京
11月9日	福井高専バックヤード見学	水族館
11月10 - 11日	名護高校職場体験学習	水族館
11月12日	日本甲殻類学会一般公開シンポジウム	西原町
11月12日	名古屋大学付属高校インタビュー学習	水族館
11月15日	本部中学校インタビュー学習	水族館
11月16日	国頭中学校職場体験学習	水族館
11月16 - 17日	名護中学校職場体験学習	水族館
11月16 - 22日	長崎大学練習船長崎丸乗船調査	東シナ海
11月16 - 25日	東京農業大学・琉球大学博物館実習	水族館
11月17 - 18日	北山高校職場体験学習	水族館
11月20 - 23日	アクアラボ特別展示	水族館
11月21日	神戸動物専門学校インタビュー学習	水族館
11月23日	海洋環境情報センター一般開放展示協力	名護市
11月24日	東海大学就職セミナー講演会	静岡
11月24 - 25日	羽田中学校職場体験学習	水族館
11月24 - 25日	排水口水質調査	本部町
11月26日	大宮国際動物専門学校見学	水族館
11月27日	大宮国際動物専門学校インタビュー学習	水族館
12月1 - 5日	日本サンゴ礁学会評議員会・大会	茨城
12月3 - 7日	日本サンゴ礁学会大会	茨城
12月7 - 8日	屋部中学校職場体験	水族館
12月9 - 12日	板鯉類シンポジウム、潜水シンポジウム	東京、神奈川
12月10日	JICA研修対応	水族館
12月11日	九州沖縄地区高専フォーラム	名護市
12月18日 - 1月10日	黒潮探検自由観覧	水族館
12月20日	沖縄の環境と社会について講義	西原町
12月26日 - 1月3日	干支水槽展示	水族館
1月6日	サンゴ調査	本部町
1月8日	神戸夢・未来号・沖縄バックヤード案内	水族館
1月9日	美ら海自然教室（サメの秘密を探る）	総合研究センター
1月12 - 14日	ユネスコキッズ出前授業	埼玉
1月12 - 14日	第52回弱視教育研究全国大会	大阪
1月19 - 21日	新興真菌感染症会議	千葉
1月21 - 26日	石垣サンゴ調査（飼育サンゴ生態調査）	石垣市
1月25日	ZIMSワークショップ	東京
1月27日	沖縄水産高校見学	水族館
1月27日	JICA研修生来館	水族館
1月30日	美ら海自然教室（深海サンゴの秘密を探ろう）	総合研究センター
1月31日	JICA研修生概要説明	水族館
2月2 - 5日	日本動物園水族館協会水族館技術者研究会	岐阜
2月5 - 9日	国際洋ラン博オープニングセレモニー	熱帯ドリームセンター
2月5 - 9日	宮古島サンゴ調査（飼育サンゴ生態調査）	宮古島市
2月11 - 15日	波左間ウバザメ調査	千葉
2月14 - 19日	世界らん展日本大賞2011水槽出展	東京
2月14 - 20日	宮古島市役所・海中公園プロジェクト室飼育実習	水族館
2月15日	富山県立有磯高等学校漁業科バックヤード案内	水族館
2月21日	GODAC講演会	名護市
2月21 - 27日	東海大学飼育実習	水族館
2月24 - 25日	日動水協九州ブロック大会	沖縄市
2月25 - 27日	サンゴサンプリング調査（飼育サンゴ生態調査）	座間味村（阿嘉島）
2月28日 - 3月6日	沖縄ペットワールド専門学校飼育実習	水族館
3月1 - 31日	日本大学生物資源科学部獣医実習	水族館
3月8 - 11日	フラワードーム2011	愛知
3月9日	サンゴ調査	本部町
3月11 - 17日	福岡エコ・コミュニケーション専門学校飼育実習	水族館
3月19日	サンゴ調査	本部町
3月19日	美ら海自然教室	総合研究センター
3月19 - 31日	春休み黒潮探検自由観覧	水族館
3月24日	リュウキュウアユ放流	名護市
3月26 - 31日	日本藻類学会	富山
平成23年度		
4月2日	介護老人保健施設桜山荘移動水族館	那覇市
4月9日	国立科学博物館「宝石サンゴ展」講演	東京
4月11日	ソニーアクアリウムキックオフミーティング	水族館
4月13日	介護老人保健施設サクラピア移動水族館	糸満市
4月14日	身体障害者療護施設ソフィア移動水族館	糸満市
4月14日	国立台湾海洋大学一行来館	水族館
4月14 - 15日	平成23年度日動水九州・沖縄ブロック前期園館長会議	福岡



月日	内容	場所
4月15 - 18日	日本貝類学会	福岡
4月25 - 27日	新興真菌感染症調査	兵庫
4月29日 - 5月8日	GW特別企画「海の危険生物展」	水族館
5月1日	リュウキュウアユ放流会	名護市
5月9 - 12日	板鰐類麻酔実験	水族館、蓄養棟
5月11日	エコ・ペットビジネス総合学院インタビュー学習	水族館
5月17 - 20日	平成23年度日本動物園水族館協会総会・協議会開催	恩納村
5月27日	介護老人施設桜山荘移動水族館	豊見城市
5月27日	イノー観察会に関する講演	名護市
5月31日	オオメジロザメ麻酔実験	蓄養棟
6月3日	名護小学校イノー観察会	本部町
6月4 - 5日	日本動物分類学会	西原町
6月8 - 10日	ウエル専門学校飼育体験	水族館
6月16日	定置網生物調査	読谷村
6月16日	老人保健施設西原敬愛園移動水族館	西原町
6月17日	定置網迷入ジンベエザメ調査	読谷村
6月17 - 26日	サンゴの幼生観察会	水族館
6月18日	定置網迷入ジンベエザメ標識放流調査	読谷村
6月24日	ナンヨウマンタ出産	水族館
6月25日	特別養護老人ホーム首里偕生園移動水族館	那覇市
6月25日	バリアフリーダイビング協会視覚障害者来館対応	水族館
6月27 - 28日	上本部中学職場体験学習	水族館
6月27 - 28日	身障者授産施設コロニーワークショップ移動水族館	沖縄市
7月4 - 5日	伊豆味中学職場体験学習	水族館
7月5 - 6日	日動水鯨類会議	兵庫
7月7日	大宮小学校職場体験	水族館
7月9日	境港総合技術高等学校バックヤード見学	水族館
7月13日	介護老人保健施設池田苑移動水族館	西原町
7月14日	特定医療法人葦の会オリブ山病院移動水族館	那覇市
7月14日	安富祖小中学校講師派遣	恩納村
7月18日	ソニーアクリウムオープンニングセレモニー	東京
7月22 - 25日	ソニーアクリウム講演	東京
7月23日 - 8月31日	夏期イベント「繁殖賞展」	水族館
7月26日	日本視覚障害社会科教育研究会来館	水族館
7月26日	B&G海洋体験セミナー	本部町
7月27日	ジンベエザメ標識放流調査	読谷村
7月29日	国立沖縄病院移動水族館	宜野湾市
7月29日 - 8月7日	博物館実習	水族館
7月30日	B&G海洋体験セミナー	本部町
8月 2日	インタビュー学習	水族館
8月2 - 6日	近畿地方盲学校触察授業	京都、大阪、兵庫
8月3日	特別介護付養護老人ホームとよさき移動水族館	豊見城市
8月6日	金武町社会福祉協議会マリナーズ大作戦	金武町
8月7日	美ら海教室	総合研究センター
8月8 - 14日	北里大学飼育実習	水族館
8月9日	さつき小学校インタビュー学習	水族館
8月10日	中国泉州市交流事業来館	水族館
8月11日	本部町職員10年研修	水族館
8月13日	美ら海体験祭り	エメラルドビーチ
8月13日	兼次小学校職場見学	水族館
8月14日	山内小学校職場見学	水族館
8月15 - 21日	岡山理科大学飼育実習	水族館
8月16日 - 9月16日	水路記念パネル展	水族館
8月19日	神戸市立盲学校視察	水族館
8月22日	本部町職員10年研修	水族館
8月22日	身体障害者療護施設青葉園移動水族館	糸満市
8月22 - 28日	東海大学飼育実習	水族館
8月23日	特別養護老人ホーム沖縄偕生園移動水族館	糸満市
8月26 - 27日	日本獣医学生交流会講演	神奈川
8月30日	源河小学校職場見学	水族館
8月31日	大阪動物園専門学校バックヤード見学	水族館
9月3日	ディサービスグルクン移動水族館	那覇市
9月3日	長崎大学学生見学	水族館
9月4 - 10日	九州産業大学飼育実習	水族館
9月7日	韓国水産研究所所長案内	海洋博公園
9月10日	美ら島教室（沖縄の川のいきものたちを源河川でさがしてみよう）	名護市
9月12 - 13日	今帰仁中学校職場体験学習	水族館
9月15 - 21日	長崎大学飼育実習	水族館
9月19 - 21日	日本獣医学会	大阪
9月22 - 28日	日本獣医生命科学大学飼育実習	水族館
9月27 - 28日	種保存委員会	兵庫
9月27 - 29日	ソフトコーラル調査	本部町
9月28日 - 10月1日	日本魚類学会	青森

月日	内容	場所
9月28日 - 10月3日	JATA旅博	東京
9月30日	南部医療センター移動水族館	南風原町
10月1日	ディスカバー沖縄	嘉手納町
10月3 - 9日	北里大学飼育実習	水族館
10月4日	沖縄愛楽園移動水族館	名護市
10月5日	埼玉盲学校触察	水族館
10月6日	名古屋聾学校バックヤードツアー	水族館
10月7日	リュウキュウアユ会議	浦添市
10月13日	千葉県立盲学校触察	総合研究センター
10月15日	伊是名中学校バックヤード案内	水族館
10月18 - 19日	マンタ麻酔実験	水族館
10月20日	とわの森三愛高校講演	総合研究センター
10月21日	宜野湾市立真志喜中学校インタビュー学習	水族館
10月22日	ケアセンターきらめき移動水族館	読谷村
10月23日	わんさか大浦パーク活魚車展示	名護市
10月23日	生簀底質調査	本部町
10月27日 - 11月2日	日本大学飼育実習	水族館
10月30日 - 11月5日	漁業調査	静岡
10月31日 - 11月1日	本部高校職場体験学習	水族館
11月1日	沖縄県立盲学校プラスチーション触察	水族館
11月3 - 6日	「科学ヘジャンプ」地方版東京地区デイキャンプ	東京
11月6日	埼玉県立桶川高校インタビュー学習、バックヤード見学	水族館
11月10 - 16日	日本大学飼育実習	水族館
11月11日	神戸動植物専門学校インタビュー学習	水族館
11月12 - 13日	豊かな海づくり大会	糸満市
11月12 - 16日	カツオフォーラム、甌島定置網漁業調査	鹿児島
11月15日	木更津高校インタビュー学習	水族館
11月15日	本部中学校インタビュー学習	水族館
11月15 - 16日	北山高校職場体験学習	水族館
11月16日	札幌学院大学インタビュー学習	総合研究センター
11月17 - 21日	博物館実習	水族館
11月21 - 22日	羽地中学校職場体験学習	水族館
11月21 - 27日	日本大学飼育実習	水族館
11月23日	国際海洋環境情報センター標本展示	名護市
11月27日	国立療養所宮古南静園移動水族館	宮古島市
11月27日 - 12月9日	SMM学会参加及び新興真菌調査	南北アメリカ大陸
11月28日 - 12月4日	日本大学飼育実習	水族館
12月9 - 11日	水生生物の生殖に関するシンポジウム	総合研究センター
12月14日	沖縄水産高校バックヤード見学	水族館
12月21 - 22日	ソフトコーラル調査	総合研究センター
12月23日 - 3月11日	宝石サンゴ展	水族館
12月26日 - 1月9日	干支水槽展示	水族館
12月27日	函館豆記者対応	水族館
1月7日	神戸夢未来号	水族館
1月7 - 31日	日動水産保存委員会20周年記念パネル展	水族館
1月8日	宝石サンゴ展講演会	水族館
1月13日	北海道札幌啓成高等学校インタビュー学習	水族館
1月18日	介護老人保健施設緑寿園移動水族館	那覇市
1月20日	東京都立瑞穂農芸高等学校講演	水族館
1月20 - 28日	KONKUK大学実習生	水族館
1月23日	山崎名誉館長認証書授与式	水族館
1月25日	オキナワインターナショナルスクールインタビュー学習	水族館
1月25 - 27日	鹿児島巻き網船採集調査	鹿児島
1月26日	沖縄県立沖縄水産高等学校バックヤード見学	水族館
1月26日	介護老人保健施設 桃源の郷移動水族館	名護市
1月27日	デイサービス アミーゴ移動水族館	那覇市
1月27 - 28日	九州沖縄ブロック飼育技術者研究会	福岡
1月30日 - 2月5日	ラ・トロープ大学実習	水族館
2月1 - 4日	第56回日本動物園協会水族館飼育技術者研究会	山口
2月10 - 12日	国頭産業祭り	国頭村
2月11日	デイサービスセンターおおさと移動水族館	南城市
2月13 - 15日	本部漁協サメ駆除	本部町
2月14 - 20日	日本大学実習	水族館
2月18 - 28日	世界らん展	東京
2月24日	本部水産協議会講演会	本部町
2月29日	介護老人保健施設白寿園移動水族館	糸満市
3月2 - 4日	科学ヘジャンプ「五感ラウンジ」	神奈川
3月14日	介護老人保健施設 養生の里移動水族館	豊見城市
3月15日	源河小学校総合学習	名護市
3月16 - 19日	東海大学実習	水族館
3月20日	美ら海プラザ開館	美ら海プラザ
3月20 - 26日	鹿児島大学飼育実習	水族館
3月22日	サンゴ同定講座	総合研究センター

月日	内容	場所
3月23日	筑波大学附属盲学校触察	水族館
3月24日	西原町身体障害者協会触察	水族館
3月24日 - 4月8日	復興支援パネル展	美ら海プラザ
3月30日	リュウキュウアユ放流	名護市

#### (4) 主な長期飼育動物・繁殖動物

主な長期飼育動物

(平成24年3月31日現在)

種名	性別	推定年齢	飼育年数	搬入年月日
トゲスギミドリイシ	不明	不明	16年 6ヶ月	1995. 9. 搬入
フカトゲキクメイシ	不明	不明	22年 5ヶ月	1989. 1. 搬入
オオテンジクザメ	♂	不明	23年	1989. 4. 10 搬入
トラフザメ	♂	20	20年 6ヶ月	1991. 9. 23 ふ化
ジンベエザメ	♂	不明	17年	1995. 3. 13 搬入
オオメジロザメ	♂	不明	33年 9ヶ月	1978. 6. 21 搬入
ネムリブカ	♂	29	29年 8ヶ月	1982. 8. 3 出産
ナンヨウマンタ	♂	不明	19年 10ヶ月	1992. 5. 25 搬入

繁殖動物

完全哺育：6ヶ月以上生存

種名	繁殖個体数	完全哺育数
平成22年度		
トゲスギミドリイシ	◎	*40
ウスエダミドリイシ	◎	*143
オオテンジクザメ	1	0
ナガサキトラザメ	6	6
ヒョウザメ	9	9
ガンギエイ	1	1
オグロオトメエイ	8	5
ヒョウモンオトメエイ	4	2
ウシバナトビエイ	1	0
ナンヨウマンタ	2	1
クロウミウマ	343	75

種名	繁殖個体数	完全哺育数
平成23年度		
ウスエダミドリイシ	◎	*23
コエダミドリイシ	◎	*1
トラフザメ	1	1
ナンヨウマンタ	1	1

\*サンゴ類については群体数

#### (5) 業務入館

月日	来館者	人数	業務内容
平成22年度			
4月5日	リザンコーポレーション(株)新人社員他	15	沖縄観光地学習の一環としての視察研修
4月6日	沖縄ツーリスト(株)観光部仕入手配課・コールセンター	4	「エンジョイ美ら海号」コース新設に伴う社員研修
4月7日	(株)日本公園緑地協会主任研究員他	2	デジタルインフォメーション運用状況の確認
4月9日	在韓国旅行会社・アナシア航空(OCVB)	10	現地地下見
4月10日	沖縄ツーリスト(株)新人社員他	15	現地視察研修
4月16日	韓国メディア(OCVB)	11	沖縄観光施設の視察
4月16日	JR九州旅行事業本部・沖縄支店課長他	4	「JR九州沖縄キャンペーン」の社員現地研修
4月17日	(株)ジャンボツアーズ記者	3	沖縄香港EGLツアーズツアー再開の取材
4月20日	JTB香港営業所担当者他	6	香港大手企業報酬旅行の事前視察
4月22日	沖縄総合事務局開発建設部技術管理官他	2	飼育展示・管理運営状況の視察
4月25日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
4月29日	海洋博公園マリンパレットフェスティバル参加者	980	施設見学

月日	来館者	人数	業務内容
5月6日	Connection Hotels Resorts	2	飼育展示・設備の下見
5月10日	上海吉祥航空有限公司他所長他	8	航空路線の沖縄就航にあたっての視察
5月12日	韓国ランド社沖縄企画販売担当者	15	飼育展示・施設下見
5月18日	ANAセールス(株)訪日旅行社社員	11	沖縄を素材とする新規ツアーコースの視察
5月19日	内閣府沖縄振興局振興第一他	5	飼育展示・管理運営状況の視察
5月20日	(株)日本動物園水族館協会通常総会	106	飼育展示・管理運営状況の視察
5月20日	JR九州他	2	沖縄観光施設の状況把握のための視察
5月22日	韓国気象変動研究所他研究員	3	飼育展示・管理運営状況の視察
5月26日	内閣府 沖縄担当部局参事官他	4	飼育展示・管理運営状況の視察
5月30日	JR東海ツアーズ販売員他	20	沖縄企画商品販売に伴う沖縄観光施設の視察
6月2日	JTB九州提携販売事業部課長他	8	視察研修
6月2日	ANAセールス(株)訪日旅行社社員	11	新規ツアーコース設定の為の視察研修
6月3日	上海中国青年旅行社社員	15	視察研修
6月5日	上海中国青年旅行社社員	15	視察研修
6月16日	文部科学省研究開発局海洋地球課課長他	6	飼育展示・管理運営状況の視察
6月17日	沖縄少年院教官他	6	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
6月17日	JR九州営業部副課長他	2	商品造成のための視察研修
6月19日	JR九州財務部取締役部長	3	ICカード導入に向けての現地視察
6月20日	JTB首都圏トラベルゲート有楽町支店長他	3	主要観光施設の現地視察
6月20日	総合事務局他参事官他	4	沖縄観光の産業復興を目的とした視察研修
6月20日	(株)近畿日本ツーリスト社員	15	視察研修
6月21日	ハワイ州高校生他	15	海外遊飛プロジェクトに係る視察見学
6月23日	内閣府参事官他	4	沖縄の産業振興の参考にするための視察
6月25日	沖縄県農業研究センター名護支所研究員他	4	熱帯植物管理技術講習会関係者による見学
6月28日	中国福建省福州市人民政府外事僑務弁公室	6	沖縄県の観光を広くPRするための視察
6月28日	中国市場緊急事業一行	10	旅行商品造成のための視察
6月29日	ロシア旅行社等役員他	10	ロシア旅行社の沖縄観光施設の視察研修
6月29日	北海道南富良野町職員他	20	本都町親善交流事業の一環
7月2日	滝川市他理事長他	25	名護市友好親善交流事業の一環
7月4日	香港海洋公園施設担当	4	水族館濾過システムの見学及び意見交換
7月9日	(株)CNインターボイス関西支店担当者他	5	飼育展示の視察
7月10日	名桜大学学生(留学生) 他	10	ウミガメ放流会実施に伴う協力団体の施設見学
7月13日	沖縄少年院法務教官他	7	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
7月17日	兵庫県立フラワーセンター事業課長	1	希少動植物の視察調査
7月26日	日本障害社会科教育研究会顧問他	15	施設及びプラスチネーション標本に関する視察
7月26日	資生堂国際事業部次長	4	MICE事業の一環としての視察
7月26日	上海インターナショナルレポートグループ	4	寄港時におけるツアー先としての視察
7月27日	ベトナム社会主義協和国研修員他	10	観光関連産業振興研修の一環としての視察
7月28日	沖縄総合事務局開発建設部次長他	2	飼育展示・管理運営状況の視察
7月28日	韓国日報	10	旅行商品造成のための視察
7月28日	駐日本国中華人民協和大使館大使他	7	県内視察の一環としての視察
7月30日	Ahngraphics編集者他	2	アジア航空機内誌の撮影の為
8月3日	在亜沖縄県人連合会	58	ジュニアスタディーツアー事業の一環
8月4日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
8月4日	沖縄県教育庁団長他	80	被災者児童生徒夏休みスタディーツアーの一環
8月4日	ボーイスカウト福島連盟理事他	22	被災者児童沖縄サマーキャンプ2011の一環
8月8日	沖縄県ユースホステル協会カウンセラー	4	東日本大震災被災者福島県の児童の引率
8月12日	日本動物園水族館協会事務局長他	8	飼育展示・管理運営状況の視察
8月13日	試験研究機構・神内南方系果樹研究所	1	希少動植物の視察調査
8月14日	沖縄県ユースホステル協会事務局長他	3	東日本大震災被災者福島県の児童の引率
8月17日	一般社団法人つなぐ光事務局長他	10	東日本大震災被災者福島県の児童の引率
8月17日	海外青年ブルネイ他	40	人材育成プログラム事業実施の一環
8月17日	沖縄県立農業大学校助教授	1	希少動植物の視察調査
8月23日	中国旅行社総社マネージャー	3	冬場に向けてのツアー造成の視察
8月25日	アフリカ英語圏査察官他	12	人材育成プログラムの一環
8月26日	那覇バス(株)定期観光事務所ガイド	5	那覇バス定期観光バスガイドの研修
8月31日	那覇バス(株)定期観光事務所ガイド	5	那覇バス定期観光バスガイドの研修
9月3日	沖縄ツーリスト(株)取締役室長他	10	飼育展示の社員研修
9月5日	沖縄少年院法務教官	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
9月7日	韓国鯨類研究所他博士他	3	動物の飼育・健康管理に関する情報収集
9月7日	Cosmos Express co.,Ltd	6	風評被害対策緊急事業の一環としての視察
9月17日	(株)ジャルパック執行役員他	3	視察
9月19日	JTB関西なんば支店国内課店頭販売員	1	店頭販売強化のため
9月21日	東亜銀行北京支店常務副支店長他	19	沖縄県の観光資源の視察
9月26日	沖縄科学技術研究基盤整備機構	25	「沖縄アジア・太平洋ユース科学交流フォーラム」視察
9月27日	JTB福岡法人営業担当他	11	MICE事業の一環としての視察
9月27日	MODEツアー	55	MICE事業の一環としての視察
9月29日	在グアム旅行会社社員他	16	グアム定期就航に伴う下見
10月3日	沖縄少年院法務教官	3	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
10月7日	大和IPパートナーズ(株)取締役会長他	2	沖縄県の観光資源調査他
10月19日	大阪府国際交流観光課他	11	中国人観光客の集客促進のための視察
10月21日	沖縄少年院法務教官	11	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
10月22日	海外技術研修員他	6	国際交流事業の一環

月日	来館者	人数	業務内容
10月25日	国際華商観光協会会員	120	MICEツアーの一環としての視察
11月10日	ANA松山支店管轄旅行社販売員他	15	松山沖縄就航を記念しての沖縄研修の一環
11月10日	北九州販売店他	14	沖縄現地研修
11月12日	中国第一歴史档案馆他複製処長他	6	管理運営状況の視察
11月16日	沖縄科学技術大学院大学他	18	管理運営状況の視察
11月13日	鉄道事業本部長常務取締役他	4	観光施設としての視察
11月17日	沖縄少年院法務教官	7	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
11月17日	韓国・旅行博士・釜山支店他	3	韓国からの旅行造成に係る下見
11月18日	Venture他	25	海外の訪日旅行商品造成担当者の視察
11月18日	香港旅行会社MICE担当者他	2	MICE事業の一環としての視察
11月24日	石垣空港ターミナル備施設課長他	2	飼育展示・管理運営状況の視察
11月25日	Science, Jeju National University教授他	15	琉球大学主催国際ワークショップの一環
11月25日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
11月26日	東京都技監他建設局長他	4	飼育展示・管理運営状況の視察
11月27日	㈱ネオ倶楽部ツアークリエイションオアシス	15	視察
11月29日	トラベル山河他	4	販売促進のための視察
12月2日	㈱ユーカリトラベル代表取締役社長	7	販売促進のための視察
12月3日	内蒙古自治区会区他主席他	10	視察研修
12月4日	中国共産党福州市委員会他	9	那覇市の国際友好都市交流事業の一環
12月6日	中国福州市教育局他	20	那覇市の国際友好都市交流事業の一環
12月8日	内閣府賞勲局局長他	3	北部観光における拠点施設として調査
12月9日	ハイアットリージェンシー東京他	25	ANAセールス東日本パートナー会の視察研修
12月13日	外務省大洋州課他	9	第6回太平洋・島サミットに伴う事前視察
12月17日	東武トラベル㈱企画仕入部他	2	視察研修
12月19日	東武トラベル㈱東東京支店支店長他	3	視察研修
12月20日	神戸運輸監理部総務企画部次長他	4	管理運営状況の視察
12月21日	廈門健発国際旅行社副州分社他	11	沖縄送客拡大のための下見研修
12月21日	東武トラベル㈱ふじみ駅支店支店長他	2	視察研修
12月27日	函館市立本通小学校他校長他	16	豆記者交歓会交流事業の一環
1月7日	阪急交通社大阪団体支店阪神航空営業課	7	ダイネキッドレディスゴルフナントに伴う視察
1月8日	ランド社 HI JAPAN他	15	沖縄企画商品販売強化のための研修
1月11日	㈱JTB東海他カウンター担当	15	知識取得及び販売強化のための視察研修
1月13日	中国国際航空社他对外合作部副部长	20	視察研修
1月15日	JTB中国四国岡山支店支店長他	20	販売強化のための視察研修
1月16日	Florida University准教授他	8	動物の飼育・健康管理に関する情報収集
1月16日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
1月18日	森俊雄事務所コーディネーター他	7	カタログ撮影の下見
1月21日	沖縄観光コンベンションビューロー	4	パッケージ旅行造成目的の視察研修
1月24日	Royal Caribbean他	3	沖縄の観光商品造成の為の下見
1月26日	㈱ジェアール東海ツアーズ社員	5	販売強化のための視察研修
1月27日	九州地整都市住宅整備課他	9	今後の業務の参考にするための視察
2月1日	Orchid Society Of Thailand他	50	沖縄国際洋蘭博覧会関係者の視察（～4日）
2月2日	ベッセルホテルカンパナ沖縄フロント	3	水族館を案内するための調査・下見
2月3日	沖縄工業高等専門学校機械システム工学科	40	電気・機械設備見学
2月4日	本省公園緑地景観課他	5	飼育展示・管理運営状況の視察
2月4日	左手小学校教務主任他	3	沖縄国際洋蘭博覧会参加者の見学
2月4日	内閣府政策統括官付企画担当参事官室	3	情報収集及び視察
2月6日	クロス劇団代表者他	4	沖縄国際洋蘭博覧会イベント参加者の視察見学
2月9日	マリンワールド海の中道営業本部営業課長他	2	MICE対応及び会場風景の視察等
2月15日	第一観光高等学校校長他	9	教育旅行地としての沖縄視察
2月15日	沖縄少年院法務教官他	7	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
2月15日	ダイキン工業㈱秘書室他	4	ダイネキッドレディスゴルフナントに伴う視察
2月16日	中国ハルビン市旅行社社員他	12	沖縄県内視察の一環としての視察
2月16日	JICA研修員	12	人材育成プログラムの一環としての視察
2月17日	名古屋港管理組合（水族館）議会議員	1	展示業務等の視察
2月20日	香港新華有限公司他社員	13	沖縄県内観光施設の視察の一環
2月21日	全日空上海・杭州支店他訪日団体担当社員他	5	沖縄の代表的な観光施設の視察
2月22日	浙江中山国際旅行社他経理担当他	6	沖縄の代表的な観光施設の視察
2月22日	独立行政法人都市再生機構本社都市施設部	3	飼育展示・管理運営状況の視察
2月28日	ロシア旅行社他	15	沖縄県とJAL本社とのタイアップ事業の一環
3月1日	中国地方整備局総務課他	4	飼育展示・管理運営状況の視察
3月1日	国土交通省総合政策局国際政策課	4	交通政策会議後視察の事前視察
3月4日	中青旅他	14	商品造成に向けた視察
3月4日	アジアナ航空他代表理事他	46	商品造成に向けた視察
3月4日	国土交通省他政務官他	5	飼育展示・管理運営状況の視察
3月7日	上海錦江旅遊有限公司他副社長他	4	クルーズ船寄港地ツアーに関する事前調査
3月8日	熊本県天然草地域振興局他	6	生物収集についての情報交換
3月8日	IMP大学院生他	15	管理運営体制の視察
3月8日	中国康輝旅行社集団有限責任公司担当者他	6	インセンティブ旅行グループ招請事業に伴う視察
3月10日	中青旅日本株式会社他代表取締役他	4	商品造成に向けた視察
3月12日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
3月15日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
3月16日	社会医療法人敬愛会中頭病院他	4	被災地の高齢者沖縄招待ツアーの引率

月日	来館者	人数	業務内容
3月22日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	6	見学
3月24日	千葉大学園芸学部教授他	2	水槽、展示手法の視察
3月27日	韓国旅行社INTERPARK他	12	沖縄旅行商品企画のための下見
3月28日	沖縄県ユースホテル協会他	10	青少年支援プロジェクト（福島県）の引率
平成23年度			
4月6日	ジョンソン・エント・ジョンソン(株)企画担当他	6	飼育・展示状況視察
4月6日	沖縄ツーリスト(株)観光部	4	「エンジョイパス」立ち寄り施設視察
4月6日	会計検査院第3局国土交通検査第一課	2	管理運営状況視察
4月8日	那覇市公園協会企画運営課	5	管理運営状況視察、聞き取り調査
4月10日	名古屋港水族館飼育展示部他	3	飼育展示活動、海洋生物に関する情報交換
4月11日	沖縄ツーリスト(株)新入社員	33	観光施設視察
4月15日	国立台湾海洋大学教授	5	視察及び意見交換
4月15日	財務省主計局主計官他	7	予算執行調査
4月17日	中国東方航空、上海旅行会社企画担当他	22	沖縄県内主要観光施設の視察
4月22日	KNT2010年メイト沖縄取扱カウンターセキス担当他	105	現地研修
4月27日	(株)JTB西日本営業担当他	16	「日本の旬沖縄」提案素材の現地視察
4月27日	(株)JTB西日本提携販売店店頭・団体営業担当	17	「日本の旬沖縄」提案素材の現地視察
4月30日	沖縄県観光商工部参事監	2	管理運営状況視察
5月4日	元内閣総理大臣 元内閣総理大臣他	6	展示状況等視察
5月9日	東武トラベル(株)カウンター・営業担当	14	「ぶるぶる沖縄」コース立ち寄り施設視察
5月10日	旭川市議会議員	1	展示状況、運営管理視察
5月11日	(株)JTB中国四国各支店担当	30	夏期沖縄商品増売へ向けた研修
5月13日	埼玉県朝霞市議会議員他	9	管理運営状況の視察
5月13日	八重山漁協青年部漁師他	10	生物収集についての情報交換
5月15日	(株)オリオンツアー大学生協旅行カウンター担当	28	沖縄観光地現地研修
5月15日	酪農学園大学獣医学部教授他	3	診療施設、治療の情報交換
5月19日	JTB首都圏 提携販売店店頭販売担当他	26	沖縄販促強化対象店舗による沖縄研修
5月24日	沖縄少年院法務教官他	3	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
5月25日	佐賀県議会議員	9	観光振興策への取組等聞き取り調査
5月25日	日本旅行赤い風船提携販売店店頭販売担当他	35	九州事業部取扱提携店リーダー社員研修
5月27日	(株)ICSコンベンションデザイン (OCVB)	3	県の観光・MICE誘致のための視察
5月30日	在ロシア旅行会社 (OCVB)	21	ロシアからの観光客誘致のための視察
6月2日	パナソニックシステムソリューションズ ジャパン(株)	4	Q&A端末設備機器の確認等
6月5日	沖縄ツーリスト(株)香港康泰旅行社販売スタッフ	17	香港旅行会社を対象としたFAMツアー
6月8日	ANAセールス(株)名古屋支店販売部販売グループ	10	販売商品知識向上へ向けた現地視察
6月10日	韓国観光公社海外マーケティング企画担当他	5	管理運営状況の聞き取り、展示状況の視察
6月11日	サンシャイン国際水族館展示部	4	施設見学、意見交換
6月16日	ニューヨーク水族館設備チーフ	1	水処理施設に関する視察
6月16日	沖縄県・ハワイ州交流事業団	30	沖縄県・ハワイ州高校生交流事業の一環
6月17日	大阪市立自然史博物館学芸員	4	施設見学、意見交換
6月21日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
6月21日	東京都建設局東京都建設局職員	5	管理運営状況視察及び聞き取り調査
6月22日	国立科学博物館研究部長他	13	沖縄の水生生物多様性等に関する情報交換
6月23日	在北京マスコミ (OCVB)	15	北京FAMツアーにおける視察
6月23日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
6月25日	香港旅行会社企画担当 (OCVB)	11	県内観光施設視察
6月26日	那覇市立病院人間ドック室長他	5	診療施設、治療の情報交換
6月28日	韓国旅行会社 (OCVB)	13	沖縄観光施設の視察
6月28日	カナダ旅行会社 (OCVB)	3	視察
6月29日	那覇空港ビルディング(株)施設部 施設部長 他	8	管理状況他視察
6月30日	北海道南富良野町本部町親善交流事業団	26	親善交流事業の一環
7月2日	(株)前田産業専務取締役他	7	MICE実施へ向けた下見入館
7月2日	(株)フジトラベルサービス代表取締役社長他	3	沖縄県への誘客・送客を目的とした現地研修
7月4日	沖縄国際センター (JICA)研修員	22	ウミガメ放流会協力団体の見学
7月4日	ソニー(株)総務センター長他	2	43rd Sony Aquariumへ向けた展示状況見学
7月9日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
7月13日	NECネットワークスエスアイ(株)主任技師他	3	ネットワーク状況についての調査
7月17日	サマーフェスティバルステージイベント出演者	5	展示状況の見学
7月19日	香港オーシャンパーク館長他	3	飼育展示状況の視察
7月21日	沖縄個人タクシー事業協同組合	20	観光施設の視察研修
7月21日	ジュニアスタディーツアー2010「ラジ」沖縄県人会	55	沖縄県内児童との交流及び体験学習
7月22日	ザ・ブセナテラス料飲部調理グループ	4	MICE実施へ向けた下見入館
7月23日	沖縄少年院法務教官他	5	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
7月25日	(株)サンシャインシティ代表取締役社長他	5	管理運営状況の視察
7月24日	アジアナ航空釜山支店	4	釜山チャーター便運航商品造成視察
7月26日	沖縄ツーリスト(株)コールセンター担当	3	「エンジョイパス」立ち寄り施設の視察
8月3日	ザ・ブセナテラス料飲部料理長他	3	MICE実施へ向けた下見入館
8月4日	沖縄総合事務局北部ダム事務所	4	飼育展示状況の視察
8月13日	沖縄少年院法務教官他	3	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
8月19日	財務省主計局沖縄担当主査他	7	予算執行調査のための視察
8月20日	内閣府沖縄振興局参事官他	3	管理運営状況の視察
8月25日	(株)全国旅行業協会佐賀県支部支部会	14	商品造成・販売促進のための現地施設見学
8月25日	ハートマイニンググループ (あいら観光) 社員	18	研修

月日	来館者	人数	業務内容
8月26日	㈱JTB沖縄国内商品事業部販売促進課長他	13	MICE実施へ向けた下見入館
8月27日	四川航空㈱企業管理部マネージャー他	9	ツアー立ち寄り施設見学
9月1日	沖縄県教育委員会委員長他	6	学校教材への活用に関する下見・視察
9月1日	JTB首都圏カウンターセールス担当	21	「日本の旬沖縄」視察研修
9月2日	国土交通省道路局国道・防災課	3	飼育展示・管理運営状況の視察
9月5日	台湾海洋大学研究助手	1	水族館展示生物に関する視察
9月6日	宮津エネルギー研究所水族館名誉館長他	2	飼育展示状況、意見交換
9月6日	㈱沖縄観光コンベンションビューロー	15	MICE実施へ向けた下見入館
9月6日	㈱knt!近畿日本ツーリスト沖縄法人担当他	11	MICE実施へ向けた下見入館
9月6日	㈱沖縄観光コンベンションビューロー	8	MICE実施へ向けた下見入館
9月6日	㈱日本旅行MICE営業部他	10	MICE実施へ向けた下見入館
9月6日	トップツアー㈱法人事業部他	12	MICE実施へ向けた下見入館
9月8日	水産総合研究センター支援研究員他	2	鯨類のCT画像の情報交換のため
9月9日	韓国Hanwhaマーケティングディレクター	4	視察
9月18日	沖縄タイムス社編集部社会部記者他	3	取材
9月20日	沖縄県立石川高等学校元教諭	1	タッチ水槽周辺の海岸植物の視察
9月20日	近畿日本ツーリスト㈱首都圏メイト事業部	1	商品造成のための立ち寄り施設の視察
9月22日	㈱JTB関東沖縄分室マネージャー他	8	修学旅行PRを目的とした見学
9月24日	国土交通省都市・地域整備局公園緑地・警官課	2	緑地・景観等に関する環境整備等視察
9月28日	JTB首都圏カウンターセールス担当	26	「JTB日本の旬沖縄」視察研修
9月29日	国土交通省土地・水資源局企画専門官他	3	視察
10月1日	㈱アドベンチャー国内部訪日旅行担当主任	1	観光施設の現地視察
10月5日	㈱JTB東北東北商品企画販売事業部	2	「日本の旬 沖縄」現地視察
10月5日	㈱JTB中部代表取締役社長他	3	沖縄への誘客商品企画のための視察
10月9日	九州旅客鉄道㈱旅行事業本部販売課	6	企画旅行商品造成のための現地視察
10月14日	沖縄少年院法務教官他	3	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
10月15日	米国ダイビング専門旅行会社商品造成担当者他	11	観光客誘致のためのメディア等による視察
10月19日	HANA TOUR JAPAN社長他	3	在韓国旅行会社社長による現地視察
10月21日	諏訪市議会委員長他	4	観光拠点としての整備と運営についての視察
10月22日	HANA TOUR営業担当他	14	沖縄地域販売活性化へ向けた視察
10月23日	ふじのくに交流団（静岡県議会）	4	
11月4日	沖縄少年院法務教官他	4	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
11月6日	九州経営者協会九州各県経営者協会会長	7	
11月7日	韓国 釜山旅行会社	24	沖縄観光施設の視察
11月7日	NPO法人沖縄文化民間交流協会理事長他	5	展示状況見学
11月9日	福井工業高等専門学校環境都市工学科	42	
11月9日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
11月12日	クラブツーリズム㈱代表取締役会長他	6	視察
11月13日	中国第一歴史档案館館長他	5	管理運営状況の視察
11月14日	ドイツ、シュトラールズント海洋博物館館長他	2	飼育展示状況の視察
11月16日	JTBトラベランド関東ブロック社員	42	沖縄ウェディング商品の増売を目的とした研修
11月17日	近畿日本ツーリスト提携販売店社員	10	販売向上のための現地視察
11月17日	魚津市議会自民党議員会代表他	9	施設、展示状況に関する視察
11月18日	沖縄県観光商工部交流推進課	6	国際交流事業の一環
11月20日	東ティモールJICA研修生	29	視察見学及び情報交換のため
11月22日	元海洋博事業団	26	視察見学及び情報交換のため
11月22日	マニラ海洋公園ホワイトハウス監理官他	2	視察見学及び情報交換のため
11月27日	JTB西日本メディア販売担当者	18	沖縄エスコート商品増売を目的とした視察研修
11月30日	内閣府沖縄振興局参事官補佐他	2	飼育展示・管理運営状況の視察
12月4日	JTB西日本メディア販売担当者	27	沖縄エスコート商品増売を目的とした視察研修
12月5日	Incentive Showcase 2010 香港旅行社	8	観光庁主催の旅行社招請事業に伴う視察
12月6日	メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン	5	見学
12月7日	在韓ダイビング専門雑誌社韓国雑誌社編集部	7	韓国からの観光客誘致のための視察
12月9日	沖縄少年院法務教官 他	5	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
12月13日	沖縄少年院法務教官 他	5	社会復帰準備教育の一環としての社会見学
12月18日	JTB西日本メディア販売担当者	27	沖縄エスコート商品増売を目的とした視察研修
12月18日	九州旅客鉄道㈱鹿児島支店カウンターセールス担当	3	販売促進及び旅行企画のための現地視察
12月19日	㈱農協観光香川支店セールス担当者	14	沖縄への送客促進のための現地研修
12月20日	沖縄工業高等専門学校機械システム工学科	42	バックヤード（電気・機械設備）見学
12月28日	函館市・沖縄県豆記者交歓会	22	函館市・沖縄県交流事業の一環
1月11日	在日インド大使館代理大使他	3	展示生物の視察
1月12日	JTB関東トラベルサロン宇都宮店頭販売担当者	5	社員研修旅行での観光施設視察のため
1月13日	(独)都市再生機構九州支社九州公園事務所	2	飼育展示・管理運営状況、機械設備の視察
1月14日	国土交通省大臣官房審議官	6	飼育展示・管理運営状況の視察
1月14日	衆議院議員	14	管理運営状況の視察
1月15日	JTB西日本メディア販売担当者	17	沖縄エスコート商品増売を目的とした視察研修
1月17日	東方航空FAMツアー在中国上海旅行会社	15	中国上海からの誘致に向けた視察
1月19日	沖縄修学旅行現地視察研修会	32	県外旅行会社による現地視察研修会の一環
1月19日	JR九州沖縄支店支店長他	3	JRグループ九州電機システム社員旅行の下見
1月20日	㈱ジェイアール東海ツアーズ営業部通信販売課	10	沖縄旅行増売へ向けた視察
1月20日	環境省地球環境局IPCC研究員	50	IPCC沖縄会合のエクスカージョンとしての入館
1月21日	沖縄ファミトリップタイ国内旅行会社スタッフ	33	沖縄観光施設下見
1月26日	中国河南博物院副院長他	2	日本における博物館展示方法の調査のため

月日	来館者	人数	業務内容
1月27日	JICA研修員(アフリカ)	26	人材育成プログラムの一環としての視察
1月30日	クラブツーリズム(株)第2国内旅行センター	32	視察研修
2月1日	中央水産研究所図書館長他	2	標本収蔵品と飼育設備の聞き取り調査
2月2日	国営常陸海浜公園ひたち公園管理センター	11	管理運営状況についての視察
2月2日	内閣府沖縄振興局参事官補佐他	2	飼育展示・管理運営状況の視察
2月4日	雪だるま親善大使福島県猪苗代町児童	6	施設見学(福島県・沖縄県交流事業の一環)
2月7日	財務省主計局公共事業第一係	13	飼育展示・管理運営状況の視察
2月8日	(株)ジェイ・ビー・東日本国内商品事業部	2	現地施設見学
2月10日	品川プリンスホテル エンタメ品川アクアスタジアム	2	施設、展示状況に関する視察
2月10日	岡山大学医学部歯学部付属病院小児歯科教授	1	診療施設および治療の情報交換
2月11日	(株)日本旅行代表取締役社長他	6	現地施設見学
2月14日	在香港旅行社販売業務担当者	10	沖縄旅行商品開発のための視察
2月23日	海の中道海洋生態科学館イルカ飼育係	1	施設、絵展示状況に関する視察
3月5日	日本通運(株)首都圏旅行支店	6	販売促進及び施設下見
3月8日	沖縄ツーリスト(株)旅行開発部	4	FM横浜主催旅行にかかる下見入館
3月8日	在中国広東省旅行会社(沖縄トラベルマート)	11	現地視察
3月9日	在韩国旅行会社(沖縄トラベルマート)	11	現地視察
3月9日	在上海、北京旅行会社(沖縄トラベルマート)	11	現地視察
3月9日	在タイ旅行会社(沖縄トラベルマート)	10	現地視察
3月9日	(株)日本旅行赤い風船取扱店カクサーセルズ担当	30	沖縄担当新人研修及び販売拡大研修
3月11日	(株)ジャルツアーズ商品企画担当	2	商品造成のための現地施設見学
3月15日	香港EGLツアー社員他	6	視察
3月22日	在中国旅行エージェンツ社員他	17	沖縄観光資源の下見
3月31日	JR九州沖縄支店支店長他	3	Suica展開に向けて観光施設での決済状況視察

## (6) 取材状況

実施日時	区分	媒体	目的・内容等
平成22年度			
4月2日	TV	韓国教育放送公社「ドキュブライム」	食物アレルギーを持つ子供の親の会に同行取材
4月2日	TV	TBSテレビニュース報道	食物アレルギーを持つ子供の親の会に同行取材
4月4日	雑誌	旅行情報誌「アクティブじゃらん」	沖縄の人気観光スポットとして水族館を撮影
4月6日	TV	沖縄テレビ	NR「ジンベエザメの入替」への打返し
4月8日	その他	本部町観光協会	イベントのCM・ポスターを水族館で撮影
4月8日	TV	朝日放送「僕らの沖縄海物語」	水族館を紹介
4月10日	新聞	琉球新報「GW別刷特集」	わくわくアクアラボ、黒潮探検等を紹介
4月8 - 23日	TV	テレビ東京「ガイアの夜明け」	GWの準備をする飼育員に密着取材
4月15日	雑誌	みずほ銀行プレミアムクラブだより「華」	水族館で撮影
4月15日	雑誌	沖縄海あそび2010(ガイドブック)	沖縄の海に行く前に予習する設定で撮影
4月16 - 17日	雑誌	UCカード会員誌「てんとう虫」	全国の水族館を紹介する特集の撮影
4月16日	雑誌	JAL中国語観光雑誌「翔」	水族館を紹介
4月17 - 18日	TV	中部日本放送特番「花咲かタイムズSP」	水族館を紹介
4月18 - 20日	その他	PHP出版「沖縄美ら海水族館物語」	「黒潮の海」が出来るまでを取材
4月18日	雑誌	女性誌「Oggi今日風采」	海洋博公園を紹介するため水族館で撮影
4月19日	その他	ギョフンポウル	大型パネルに実物大ジンベエザメ画像を掲示
4月21日	雑誌	観光情報誌	水族館を紹介
4月26日	TV	テレビ北海道「遊びなD」サタデー	水族館を紹介
4月26・28日	雑誌	世界遺産「琉球王国のグスク」	水族館を紹介
4月27日	新聞	琉球新報	NR「無料入館日」への打返し
4月27日	新聞	毎日新聞	日本一の水槽とジンベエザメとマンタの取材
4月28日	新聞	沖縄タイムス	GW誘客について取材
4月29日	新聞	沖縄タイムス	伊平屋中学校自然体験学習会について取材
4月30日	HP	本部町HP	PR用資料映像として水族館を撮影
4月30日	雑誌	るるぶ「子どもと行く沖縄11」	水族館の見どころを子ども目線で紹介
4月30日	雑誌	motteco書店(電子書店)	水族館を紹介
5月5日	TV	NHK沖縄	NR「GWイベント」への打返し
5月6日	雑誌	こどもファッション雑誌「sesami」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
5月7 - 8日	雑誌	幼年向けコミック情報誌「ケロロランド」	水族館を紹介
5月8日	新聞	本部町観光協会	本部町PR用資料の撮影
5月10 - 15日	その他	2011年水族館カレンダー(ハゴロモ)	水族館で撮影
5月16 - 19日	その他	「43rd Sony Aquarium 3D」	3D映像を撮影
5月19日	雑誌	旅行ガイドブック(台湾)	沖縄旅行の訪問先として海洋博公園を紹介
5月26日	新聞	沖縄タイムス	NR「サンゴ放卵放精」への打返し
5月26日	新聞	琉球新報	NR「サンゴ放卵放精」への打返し
5月27日	TV	沖縄テレビ	NR「サンゴ放卵放精」への打返し
5月27日	TV	NHK沖縄名護報道室	NR「サンゴ放卵放精」への打返し
5月27日	TV	琉球朝日放送北部通信員	NR「サンゴ放卵放精」への打返し
5月27日	雑誌	ファミリー向け雑誌「家楽手帖」	沖縄「自然環境」特集にて水族館を紹介
5月28日	ラジオ	中部日本放送	ジンベエザメ・マンタ等の長期飼育を紹介
5月25日	新聞	日本経済新聞大阪本社	沖縄美ら海水族館の取水方法について確認
6月3日	HP	ワシントンポスト	人気の観光施設として海洋博公園を紹介
6月4日	雑誌	子ども雑誌『科学東亜』	沖縄の観光スポットとして水族館を取材・撮影



実施日時	区分	媒体	目的・内容等
6月5日	TV	日本テレビ「DON!」	『世界初の飼育下マンタの出産』を取り上げる
6月7日	その他	財団広報誌「南ぬ風 夏号」	水族館館長を紹介
6月9日	TV	沖縄テレビ報道部	NR「リュウキュウアユ放流会」への打返し
6月10日	TV	九州ブロックネット番組	水族館を楽しむモデル家族の様子を撮影
6月13日	新聞	沖縄タイムス	久米島の移動水族館を取材
6月13日	新聞	琉球新報	久米島の移動水族館を取材
6月18日	その他	今帰仁村「今帰仁グスク桜まつり」PR-V	観光スポットとして水族館を紹介
6月19日	新聞	東京新聞・中日新聞等『大図鑑』	水族館特集で沖縄美ら海水族館を紹介
6月21日	その他	フジテレビCS放送番組「アイドリング」	出演者が水族館を観光する様子を撮影
6月22日	HP	ウェブ情報サイト「All Aboutご当地旅グルメ」	観光スポットの一つとして水族館を紹介
6月23日	TV	九州ブロックネット番組	旅行プランの中で水族館を紹介
6月24日	TV	NHK沖縄	NR「マンタの兄妹展示」への打返し
6月24日	TV	沖縄テレビ	NR「マンタの兄妹展示」への打返し
6月24日	新聞	琉球新報	NR「マンタの兄妹展示」への打返し
6月24日	新聞	沖縄タイムス	NR「マンタの兄妹展示」への打返し
6月27日	新聞	沖縄タイムス	NR「マンタの出産」への打返し
6月27日	新聞	琉球新報	NR「マンタの出産」への打返し
6月27日	TV	NHK沖縄	NR「マンタの出産」への打返し
6月27日	TV	沖縄タイムス	NR「マンタの出産」への打返し
6月27日	TV	琉球新報	NR「マンタの出産・兄妹展示」への打返し
6月28日	その他	かんぽの宿会員向け雑誌「旅PLUS」	観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月2日	TV	「FOX Backstage Pass～沖縄バジャル～」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
7月3日	その他	携帯動画サイト「BEETV 1000人美少女」	背景として水族館を撮影
7月6日	雑誌	雑誌「マップルマガジン沖縄2011」	水族館および海洋博公園を特集
7月7日	その他	パナソニック製品取扱説明書・Web用素材	モデルが水族館を観光する様子を撮影
7月8日	その他	東芝製品の店頭用3D映像素材	水族館の景観を3D撮影
7月12日	TV	テレビ東京「空から日本を見てみよう」	水族館を紹介
7月13日	TV	テレビ東京「虎ノ門市場便り」	沖縄県本部の観光スポットとして水族館紹介
7月14日	TV	BSフジ「わがまま!気まま!旅気分」	パワースポットとして水族館を紹介
7月14日	新聞	琉球新報社会面	老人介護施設が水族館を訪れる様子を紹介
7月15日	新聞	週刊ほ～むぶらざ「夏休み向け特別企画」	水族館を紹介
7月16日	TV	日本テレビ「ズームイン!!SUPER」	水族館を訪れる中国人観光客に密着し取材
7月19日	TV	沖縄テレビ	NR「夏休みイベント情報」への打返し
7月20日	TV	沖縄テレビ	読谷村・都屋漁港でのジンベエザメ放流を取材
7月20日	TV	中国旅行チャンネル「旅游衛視」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月21日	HP	楽天トラベル「沖縄Edyトリップ」	入館チケットをEdyで購入する様子を撮影
7月22日	雑誌	ホストクラブMICE専門雑誌「mice.net」・「CIM」	沖縄MICEの観光候補地として水族館を紹介
7月23日	雑誌	韓国「美男(イケメン)ですね」公式ガイドブック2	ロケ地となった公園の核施設として撮影
7月23日	その他	東京外国語大学広報誌「GLOBE Voice」	卒業生として内田館長を紹介
7月23日	TV	中国旅行チャンネル「旅游衛視」	沖縄の観光スポットで中国人家族を取材
7月25日	TV	NHK科学文化部	ジンベエザメ館山沖定置入網に関する取材
7月25日	TV	東日本放送	宮城県「沖縄遊YOU塾」の子ども達を撮影
7月26日	TV	フジテレビ	千葉で捕獲されたジンベエザメについての取材
7月26日	新聞	読売新聞	千葉で捕獲されたジンベエザメについての取材
7月27日	TV	長崎文化放送	五島列島沖で捕獲されたジンベエザメの取材
7月27日	ラジオ	RBCiラジオ	NR「夏休みイベント情報」への打返し
7月29日	TV	琉球放送	NR「夏休みイベント情報」への打返し
7月31日	TV	琉球放送・ユネスコキッズ特別番組	「親子イクス体験」の様子を紹介
8月2日	新聞	琉球新報「こども新聞」	飼育員に子ども記者が取材
8月5日	TV	NHK沖縄	死亡事故に関連してオニダルマオコゼの取材
8月5日	TV	日本テレビ	死亡事故に関連してオニダルマオコゼの取材
8月5日	TV	読売テレビニュース番組「ten」	「高齢者の介護付き旅行」に同行取材
8月5日	新聞	共同通信社沖縄支局	死亡事故に関連してオニダルマオコゼの取材
8月5日	新聞	読売新聞社沖縄支局	死亡事故に関連してオニダルマオコゼの取材
8月6日	TV	琉球放送	死亡事故に関連してオニダルマオコゼの取材
8月10日	新聞	読売新聞	NR「シンカイサンゴガニ」への打返し
8月10日	新聞	共同通信社	NR「シンカイサンゴガニ」への打返し
8月10日	新聞	沖縄タイムス	NR「シンカイサンゴガニ」への打返し
8月11日	TV	沖縄テレビ	NR「シンカイサンゴガニ」への打返し
8月11日	TV	NHK沖縄	NR「シンカイサンゴガニ」への打返し
8月13日	新聞	沖縄タイムス	「美ら島高校総体」の高校生を取材
8月14日	TV	日本テレビ「スーパー漁師列伝」	説明映像として水族館のイタチザメを撮影
8月15日	TV	テレビ番組	「アジア青年の家」参加者を取材
8月16日	TV	とちぎテレビ	栃木県「沖縄遊YOU塾」に同行取材
8月17日	新聞	長崎新聞上五島支局	五島列島沖で捕獲されたジンベエザメの取材
8月17日	新聞	沖縄タイムス政経部	MICE受け入れについての取材
8月18日	新聞	琉球新報経済部	MICE受け入れについての取材
8月19日	新聞	沖縄タイムス	NR「飼育マンタの和名変更について」の打返し
8月20日	新聞	沖縄タイムス社会部	美ら島高校総体開催による影響についての取材
8月20日	新聞	琉球新報	北部病院での移動水族館について取材
8月24日	TV	フジテレビ「スーパーニュース」	イタチザメの取材、紹介映像として撮影
8月26日	雑誌	雑誌「地球の歩き方」	観光スポットとして水族館を紹介
8月29日	TV	朝日放送「おはよう朝日土曜日です」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介

実施日時	区分	媒体	目的・内容等
8月31日	TV	フジテレビ	水族館の入館者数についてお問い合わせ
8月31日	雑誌	雑誌「沖縄・離島情報」	水族館を特集
9月1日	その他	JCBカード会員誌「J-B Style」	サンゴ特集での取材
9月1日	TV	TBSテレビ「金曜ブリティ」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
9月2日	HP	Webサイト「沖縄観光ロコミーぐる」	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
9月3日	その他	「PENTAX」のWeb・カタログ	作例として使用する画像を撮影
9月4日	TV	沖縄テレビ「発見 人間力」	ツアーで水族館を訪れるバスガイドに同行取材
9月6日	TV	NHK「ニュース610」「おはよう九州」	マンタの給餌を特集
9月7日	その他	タレント「中川翔子」写真集	タレントが水族館を観覧する様子を撮影
9月9日	その他	財団広報誌「南ぬ風」	サメに関する取材・撮影
9月12日	TV	沖縄テレビ	美ら島総体期間における入館者数について取材
9月16日	雑誌	旅行雑誌「るるぶ沖縄」	絶対よりたい観光スポットとして水族館を紹介
9月18日	新聞	沖縄タイムス「水曜グラフ」	水族館の舞台裏を写真で紹介
9月21日	TV	テレビ朝日「奇跡の地球物語」	沖縄周辺に住む生物を紹介
9月27日	TV	NHK「save the future」	ジンベエザメの生態を紹介
10月11日	TV	NHK「save the future」	「黒潮の海」水槽前で生中継
10月12日	その他	「相川結」プロモーションDVD	水族館を観覧する様子を撮影
10月14日	ラジオ	九州8局ネット「匠の蔵-words of meister-」	内田館長の仕事に対するこだわりを紹介
10月15日	雑誌	米国ダイビング専門旅行誌	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
10月19日	TV	朝日放送「おはよう朝日です」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
10月19日	雑誌	ドライブ情報誌「MOCO」	ドライブの立ち寄りスポットとして紹介
10月21日	雑誌	観光ガイド「travel style book」	海洋博公園の見どころを紹介
10月22日	雑誌	観光雑誌「るるぶ沖縄'11」	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
10月25日	その他	PC機器メーカー「ロジクール」	Webカメラ性能紹介映像として黒潮の海を撮影
10月27日	TV	NHKスペシャル	横浜市立戸塚高校の修学旅行に同行取材
10月30日	雑誌	中国旅行雑誌「広東びあ」	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
11月1日	TV	NHK沖縄	NR「沖縄美ら海水族館開館8周年」への打返し
11月1日	TV	琉球朝日放送	NR「沖縄美ら海水族館開館8周年」への打返し
11月2日	HP	沖縄お仕事啓発まんが	沖縄の主な観光地をまんがを通して紹介
11月4日	TV	上海碧美的文化伝播有限公司	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月4日	HP	スポーツ雑誌(ワウ)「RunFun」創刊号	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
11月6-7日	その他	書籍「沖縄美ら海水族館のさかなたち」	水族館内の様子や生き物を写真撮影
11月7日	TV	韓国情報番組「TODAY釜山」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月8日	その他	トヨタファイナンス会員誌「Harmony」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月9日	TV	札幌テレビ放送「どさんこワイド179」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月13日	TV	韓国のショッピング番組	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月18日	その他	iPhon携帯コンテンツ「OKINAWA2GO!」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月24日	TV	岡山放送「温たいむ」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月25日	TV	フジテレビ「ウォーキングプラス」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月26日	雑誌	週刊誌「週刊新潮」水族館ガイドシリーズ	沖縄美ら海水族館を紹介
11月29日	新聞	沖縄タイムス	NR「水族館でのMICE開催」への打返し
11月29日	TV	沖縄テレビ	NR「水族館でのMICE開催」への打返し
11月29日	TV	琉球朝日放送	NR「水族館でのMICE開催」への打返し
12月6日	TV	NHK沖縄	NR「トゲヒラタエビ展示中!」への打ち返し
12月8日	新聞	朝日新聞「新年別刷り特集」	日本一大きな水槽として「黒潮の海」水槽を紹介
12月16日	HP	㈱ダイニチ	自社商品の使用例として海上イクスを掲載
12月17日	その他	ビクター新ビデオカメラPV	新商品のカメラで水族館を撮影
12月23日	TV	NHK沖縄	「黒潮探検自由観覧」のイベント風景の撮影
12月24日	TV	韓国旅行番組	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月25日	TV	上海テレビ「第一財經チャンネル」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月25日	TV	沖縄テレビ	沖縄ツアーを紹介する上海テレビ局に同行取材
12月25-29日	その他	国立科学博物館企画展「宝石珊瑚」	水族館で飼育している宝石サンゴを紹介
12月26日	新聞	沖縄タイムス	NR「千支水槽」への打ち返し
12月27日	TV	琉球朝日放送	NR「千支水槽」への打ち返し
1月1日	新聞	琉球新報	NR「千支水槽」への打ち返し
1月1日	TV	NHK沖縄	NR「千支水槽」への打ち返し
1月8日	新聞	神戸新聞社「神戸・夢未来号」	「神戸・夢未来号」の子供たちと同行取材
1月13日	TV	フジテレビ報道局スーパーニュース	オオメジロザメの生態について取材
1月17日	新聞	沖縄タイムス「わらび-くいず」	ジンベエザメ「ジンタ」のクイズを内容確認
1月19日	TV	TBS「はなまるマーケット」	観光スポットの一つとして水族館を紹介
1月22日	その他	国際言語文化センター付属学校PR・DVD	水族館を観覧する生徒を撮影
1月22-24日	TV	NHK「爆笑問題ニッポンの教養」	黒潮の海水槽前で館長との対談等を撮影
1月29日	その他	ホテル「アインガ イラッヅ沖縄」パンフレット	観光スポットの一つとして水族館を紹介
1月19-30・31日	その他	公園新施設内紹介映像	水族館施設紹介
2月2日	その他	展示会「スマートグリッドエキスポ2011」	電気自動車充電中に楽しむ観光施設として紹介
2月7日	TV	テレビ朝日	電気自動車レンタカー導入にあたり紹介
2月12日	TV	フジテレビ「めざましテレビ」	観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月14日	新聞	千葉日報館山支局	千葉県館山市沖入網のウバザメについて取材
2月15日	その他	「ワルミ大橋建設記録映画」	古宇利島への交通の利便性向上シーンを撮影
2月23日	TV	韓国ケーブルテレビ「グレートフィッシング」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月24-25日	その他	短編映画	ロボットが水族館を観覧する様子を撮影
2月27日	TV	フジテレビ「スーパーニュース」	国際結婚25周年の夫婦に密着取材

実施日時	区分	媒体	目的・内容等
2月28日	その他	中国ブログ	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を撮影
3月1日	TV	NHK沖縄	NR「メガマウスザメ解剖」への打ち返し
3月1日	新聞	沖縄タイムス	NR「メガマウスザメ解剖」への打ち返し
3月1日	TV	琉球朝日放送	NR「メガマウスザメ解剖」への打ち返し
3月2日	TV	沖縄テレビ	NR「メガマウスザメ解剖」への打ち返し
3月2日	TV	琉球新報	NR「メガマウスザメ解剖」への打ち返し
3月1-2日	TV	日本報道協会	NR「メガマウスザメ解剖」への打ち返し
3月3日	TV	基地内TV	水族館内の危険生物を撮影
3月5日	その他	中国ツカチム冬季キャンプ誘致PRビデオ	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月7日	その他	新日本製菓会員誌「シンシア」5月号	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月14日	雑誌	旅行雑誌地球の歩き方「沖縄の歩き方」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月14-15日	その他	月刊絵本「キンダーブック」8月号	「すごいぞ!ジンベエザメ」特集にて紹介
3月15日	その他	日中合作映画「天上の風」	主人公が水族館を案内する様子を撮影
3月16日	新聞	日本経済新聞那覇支局	東日本大震災後の入館者数について取材
3月17日	雑誌	女性向けファッション雑誌「PS」	沖縄旅行企画でモデル撮影
3月22日	TV	青森放送「ふらりフライト旅気分・沖縄編」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月23日	雑誌	旅行雑誌「るるぶ」	水族館を紹介
3月29日	その他	沖縄明治乳業「美ら海ウォーター」	水族館前で撮影
3月25日・ 4月3・4日	TV	テレビ東京「岡村ほんこんしあわせプロジェクト」	観光スポットの一つとして水族館を紹介
平成23年度			
4月7-9日	その他	海洋文化館映像コンテンツ	公園各施設の紹介映像を撮影
4月12日	その他	「かりゆし58」ベストアルバム付録本	観光スポットの一つとして水族館を紹介
4月15日	新聞	琉球新報社	NR「黒潮探検自由観覧」への打ち返し
4月15日	新聞	朝日新聞社	NR「無料入館日」への打ち返し
4月15日	新聞	読売新聞社	東日本大震災の影響について
4月18日	新聞	中国フリーペーパー「時代報」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
4月19日	その他	海洋博公園休憩施設の展示映像	施設の景観を撮影
4月20日	その他	ヤマト運輸会報誌「クロネコだより」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
4月20日	新聞	沖縄タイムス	水族館の震災後の入館者数について取材
4月25日	TV	韓国KBS「麗水世界博覧会2012」関連番組	沖縄観光における公園の貢献をインタビュー
4月27日	その他	「敵爵」アルバムのミュージックビデオ	水族館内をアーティストが観覧する様子を撮影
4月27日	雑誌	香港の雑誌・新聞	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
4月27日	雑誌	雑誌付録「パチスロ実践術DVD」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
4月28日	新聞	琉球新報社	久米島でとれたリュウグウノツカイについて取材
4月30日	TV	毎日放送「知っとこ!」	全国のおススメ水族館の一つとして紹介
5月1日	TV	沖縄テレビ	NR「リュウキュウアユ稚魚放流」への打ち返し
5月1日	TV	NHK沖縄	NR「リュウキュウアユ稚魚放流」への打ち返し
5月1日	新聞	沖縄タイムス	NR「リュウキュウアユ稚魚放流」への打ち返し
5月3日	TV	NHK沖縄	NR「GWイベント」への打ち返し
5月3日	テレビ朝日	テレビ朝日	GWの入館者数と対前年度比について取材
5月4日	新聞	琉球新報	震災で被災し沖縄に避難した家族の来館を紹介
5月9日	TV	NHK沖縄	被災し沖縄に移住し水族館で働く男性を取材
5月9-12日	その他	2012年水族館カレンダー（ハゴロモ）	景観や生物を撮影
5月14日	雑誌	雑誌「ことりっぷ沖縄版」	北部の観光スポットの一つとして水族館を紹介
5月15日	TV雑誌	台湾のテレビ・雑誌など	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
5月17日	雑誌	雑誌「ゆるるボン」	水族館を紹介
5月19日	TV	琉球放送	NR「日本動物園水族館協会総会等」の打ち返し
5月19日	TV	沖縄テレビ	NR「日本動物園水族館協会総会等」の打ち返し
5月19日	TV	琉球朝日放送	NR「日本動物園水族館協会総会等」の打ち返し
5月19日	TV	NHK沖縄	NR「日本動物園水族館協会総会等」の打ち返し
5月19日	新聞	沖縄タイムス	NR「日本動物園水族館協会総会等」の打ち返し
5月19日	新聞	読売新聞社	NR「日本動物園水族館協会総会等」の打ち返し
5月19日	TV	日本テレビ	NR「日本動物園水族館協会総会等」の打ち返し
5月24日	雑誌	タイ雑誌「TRAVELLER'S COMPANION」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
5月28日	TV	朝日放送「朝だ!生です旅サラダ」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
5月28日	雑誌	ロシアの旅行雑誌「アフイーシャ・日本」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
5月30日	その他	大阪コミュニケーション専門学校「就職新聞」	卒業生の働いている様子を撮影
5月30日	雑誌	韓国の雑誌「ABロード」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
6月2日	TV	琉球放送	被災し沖縄に移住し水族館で働く男性を取材
6月6日	その他	財団広報誌「南風」	海上イケスの管理運営や携わる人を紹介
6月9日	新聞	日本経済新聞	水族館の4月～6月の入館者数について取材
6月9-10日	TV		水族館のバックヤードをレポート
6月10日	ラジオ	ラジオ番組「J-WAVE 81.3M」	地球温暖化について水族館での取り組みを取材
6月10日	TV雑誌	中国北京のテレビ・雑誌等	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
6月14日	TV雑誌	中国北京のテレビ・雑誌等	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
6月14日	TV	琉球朝日放送	被災し沖縄に移住し水族館で働く男性を取材
6月15日	新聞	沖縄タイムス	NR「サンゴ放卵放精」への打ち返し
6月16日	TV雑誌	中国深圳のテレビ・雑誌等	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
6月17日	TV	沖縄テレビ	NR「サンゴ放卵放精」への打ち返し
6月19日	雑誌	米国旅行雑誌	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
6月22日	ラジオ	ラジオ番組「HELLO WORLD」	沖縄美ら海水族館特集番組
6月22日	TV	鹿児島放送「キンスペ」	ANAの旅行紹介をする中で水族館を撮影

実施日時	区分	媒体	目的・内容等
6月22 - 27日	その他	Sony Aquariumショールーム用映像	展示生物の撮影
6月28日	TV	韓国ショッピング番組「CJ」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
6月29日	その他	リラクゼーションDVD	沖縄の美しい風景の一つとして水族館を撮影
6月30日	その他	香港電気店のCM	水族館でモデルを配置して撮影
6月30日	雑誌	タイ旅行雑誌	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月4日	雑誌	雑誌「ランチバイキング100」	バイキングのあるレストランとしてイノーを紹介
7月5日	TV	RBC系列「“ちょっちょ” いいトコツアー」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月6日	TV	上海のテレビ「時代報」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月8日	新聞	沖縄タイムス	水族館前館長・内田顧問について記事を作成
7月9日	新聞雑誌	上海の新聞・雑誌	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月9日	その他	旅番組をテーマとしたDVD	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月9 - 12日	HP	ゲーブルマップ「グーグルストリートビュー」	海洋博公園の園内の様子を紹介
7月11日	TV	BS朝日「鉄道・絶景の旅」	ゆいレールの中心に観光スポットを紹介
7月13日	雑誌	雑誌「まっふるマガジン沖縄 12」他	沖縄の観光スポットの一つとして公園を紹介
7月14日	TV	テレビ朝日「Jステーション」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月14日	TV雑誌	シンガポールのメディア	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月17日	新聞	デンマーク新聞「Frederiksborg Amts Avis」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月23日	TV	名古屋テレビ「ウドちゃんの旅してゴメン」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月25 - 26日	TV	フジテレビ「平成教育学院」	展示や飼育員の取り組みについて紹介
7月26日	新聞	琉球新報	水族館前館長・内田顧問について記事を作成
7月27日	新聞	沖縄タイムス	読谷村で標識放流をしたジンベエザメの取材
7月27日	TV雑誌	シンガポールのテレビ・雑誌	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月28日	TV	NHK千葉	千葉県館山で入網したジンベエザメの取材
7月29日	TV雑誌	中国北京のテレビ、雑誌	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
7月30日	TV	フランス5チャンネル沖縄のドキュメンタリー映画	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
8月2日	その他	JAL沖縄線機内プログラム「JALちゅらさ沖縄」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
8月6日	ラジオ	NHKラジオセンター	被災地の子ども達が観覧する様子を録音
8月7日	TV	上海テレビ局大連広播	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
8月8日	新聞	琉球新報	ティンダキッズプロジェクトの子ども達を撮影
8月8日	新聞	朝日新聞社	深海ザメ「フジクジラ」についての取材
8月9日	TV	株式会社とちぎテレビ	とちぎテレビ「沖縄遊YOU塾」に同行取材
8月12 - 13日	TV	テレビ東京「カンパリア宮殿」	介護旅行会社を紹介する中で水族館を撮影
8月16日	TV	上海大型クルーズ船入港プロモーション	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
8月18日	新聞	沖縄タイムス	NR「カイロウドウケツ展示中」への打ち返し
8月19日	TV	NHK沖縄	NR「カイロウドウケツ展示中」への打ち返し
8月20日	TV	沖縄テレビ	NR「カイロウドウケツ展示中」への打ち返し
8月26日	雑誌	中国雑誌「Oggi、生活週刊、完全城市生活」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
8月24 - 30日	TV	NHK「ニュース沖縄610」内「アイランドアイ」	採集から飼育・展示にいたる裏側をレポート
9月3日	TV	TVQ九州放送「きらり九州めぐり逢い」	観光スポットとして水族館を紹介
9月4日	TV	韓国のテレビ番組	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
9月8日	雑誌	雑誌「地球の歩き方 沖縄2012-2013」	水族館を紹介
9月9日	TV	TBSテレビドラマ「イケメンです」	水族館で番組を収録
9月14 - 16日	その他	海洋博公園休憩施設展示映像	黒潮の海大水槽を撮影
9月19日	TV	株式会社トキメディア	台風15号による入館者数等への影響を取材
9月23日	雑誌	ロシア旅行雑誌「TOURINFO」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
9月24日	雑誌	上海の雑誌「外滩画報」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
9月23 - 25日	その他	海洋博公園デジタルサイン・施設紹介VTR	施設紹介
9月26日	新聞	韓国の新聞「忠清TODAY」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
9月28日	雑誌	旅行雑誌「るるぶ沖縄12」	水族館特集で水族館を紹介
10月1日	HP	訪日観光情報サイト「JJ-Street」	沖縄のおススメ観光スポットとして水族館を紹介
10月3日	雑誌	女性雑誌「sweet」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
10月4日	その他	映画「ばななとグローブとジンベエザメ」	出演者が水族館を訪れるシーンを撮影
10月8日	TV	ロシアのテレビ・HP	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
10月10日	新聞	台湾の新聞「自由時報」	沖縄の海を紹介する施設として水族館を撮影
10月11日	TV	南海放送	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
10月18日	TV	台湾釣り番組「寶島漁很大」	沖縄の海の生き物についてのコメントを撮影
10月18日	TV	ハワイのテレビ番組「Ultimate Japan」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
10月20日	雑誌	旅行雑誌「travel style book」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
10月22日	TV	琉球朝日放送	NR「オキノスジエビ展示中」への打ち返し
10月23日	TV	沖縄テレビ	NR「オキノスジエビ展示中」への打ち返し
10月25日	TV	OTV「オキナワ超絶景」	沖縄の“青”と出会う旅をテーマに水族館で撮影
10月25 - 26日	雑誌	雑誌「地域経済情報」	水族館の展示内容と沖縄観光への貢献を紹介
10月26日	その他	台湾の旅行ガイドブック	アフターウェディングの観光スポットとして紹介
10月26日	雑誌	中国人観光客訪日促進雑誌「needs China」	アフターウェディングの観光スポットとして紹介
10月30日	TV	西日本放送「シアワセ気分！」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月1日	TV	フジテレビ「新報道2001」	北部振興事業に関わった樋渡氏にインタビュー
11月2日	その他	観光庁「中国観光客訪日観光パンフレット」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月5日	ラジオ	NHK制作局	筑波大学付属視覚支援学校の触察授業を取材
11月5日	新聞	朝日新聞社	筑波大学付属視覚支援学校の触察授業を取材
11月9日	その他	DVD「沖縄フィッシング海者（仮称）」	沖縄で釣ることができる魚を各水槽で撮影
11月11日	雑誌	台湾の雑誌「單車誌」及び「楽活單車」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
11月11日	雑誌	韓国の雑誌「自転車生活」	沖縄の観光スポットとして水族館を紹介
11月11日	HP	Web番組「Wagamama Tiara」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介

実施日時	区分	媒体	目的・内容等
11月14日	TV	韓国文化放送「偉大になる誕生2」	水族館を観覧する様子を撮影
11月15日	雑誌	雑誌「チャクラ」	沖縄特集において水族館を紹介
11月16日	TV	沖縄テレビ	NR「絶滅危惧種トカゲハゼ初展示」への打ち返し
11月24日	Web	観光庁「中国人向けキャンペーンサイト」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
11月27日	TV	中国TV・四川電台	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
11月28日	その他	KENWOOD新プロジェクト「モーション」	イメージ映像制作のため黒潮の海や生物を撮影
11月28日	Web	WiMAX内蔵パソコンキャンペーンサイト	コンテンツとして黒潮の海や生物を撮影
11月29日	TV	沖縄テレビ	NR「絶滅危惧種トカゲハゼ初展示」への打ち返し
11月29日	Web	韓国のWebサイト「J-ROUTE」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月2日	雑誌	台湾版「VIVI」と「AMI」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月2日	TV	朝日放送「おはよう朝日です」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月3日	TV	琉球朝日放送「ステーションQ」	水族館を訪れる中国人観光客に同行取材
12月4日	TV	NHK	千葉県館山で保護されたジンベエザメの取材
12月5日	新聞	琉球新報	宮古島での移動水族館について取材
12月5日	新聞	宮古新報	宮古島での移動水族館について取材
12月5日	新聞	宮古毎日新聞	宮古島での移動水族館について取材
12月5日	TV	宮古テレビ	宮古島での移動水族館について取材
12月5日	TV	NHK沖縄	宮古島での移動水族館について取材
12月5日	雑誌	観光情報誌「ココミル沖縄」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月5日	TV	あいテレビ「ちょっとリッチな沖縄セブ旅」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月5日	TV	NHK千葉放送局	千葉県館山で保護されたジンベエザメの取材
12月10日	雑誌	サイクリング雑誌「サイクルスポーツ」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月12日	TV	琉球放送「オキベディア」	クイズの中で水族館を紹介
12月14日	その他	関東の病院内「ホスピタルチャンネル」	コンテンツとして使用する水族館の景観を撮影
12月14日	TV	琉球朝日放送「ステーションQ」	福島県の高校生の修学旅行に同行取材
12月14日	TV	沖縄テレビ	NR「トカゲハゼ展示」への打ち返し
12月16日	TV	NHKプレミアム「Do!エアロビック」	沖縄・本部町の観光スポットとして水族館を紹介
12月16日	TV	テレビ東京「大人の極上ゆるり旅」	沖縄にどんな魚がいるかを水族館内で紹介
12月17日	TV	ケーブルテレビ「オプショナルビューションNEXT」	沖縄にどんな魚がいるかを水族館内で紹介
12月19日	その他	「JUNO」CD初回特典映像	来館の様子を撮影
12月19日	雑誌	中国の雑誌「伏家画報」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月23日	その他	沖縄修学旅行「モーションDVD」	修学旅行スポットの一つとして水族館を紹介
12月23日	TV	沖縄テレビ	NR「宝石サンゴ展」への打ち返し
12月23日	雑誌HP	中国の雑誌「新娘雑誌社」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
12月24日	TV	沖縄テレビ	NR「エクレアナマコ展示」への打ち返し
12月27日	新聞	沖縄タイムス	NR「干支水槽」への打ち返し
12月28日	新聞	琉球新報	NR「干支水槽」への打ち返し
12月28日	TV	沖縄テレビ	NR「干支水槽」への打ち返し
12月29日	TV	琉球放送	NR「干支水槽」への打ち返し
1月1日	ラジオ	RBCラジオ	NR「干支水槽」への打ち返し
1月1日	TV	琉球朝日放送	NR「干支水槽」への打ち返し
1月1日	TV	NHK沖縄	NR「干支水槽」への打ち返し
1月6日	TV	韓国MBCテレビ「生放送金曜ワイド」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
1月6日	その他	俳ヴァーナル会報誌「Vernalista3-4月号」	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
1月7日	TV	韓国テレビ「CJテレビショッピング」	沖縄旅行商品を紹介するため水族館を撮影
1月7日	新聞	神戸新聞「KOBE夢・未来号・沖縄」特集	「KOBE夢・未来号」の子ども達に同行取材
1月9日	その他	上海大型クルーズ船来沖「モーション映像」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
1月12日	その他	ピクチャー新デジタルビデオカメラ店頭用デモ	素材を水族館内で撮影
1月13日	TV	中国のメディア	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
1月13日	新聞	沖縄タイムス	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月16日	新聞	琉球新報	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月20日	TV	山陽放送「イブニング5時」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
1月21日	雑誌	雑誌「ちゃぐりん」	ジンベエザメの生態等を子ども記者が取材
1月23日	TV	琉球朝日放送	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月23日	TV	NHK沖縄	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月23日	TV	沖縄テレビ	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月23日	TV	琉球朝日放送	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月23日	新聞	琉球新報	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月23日	新聞	沖縄タイムス	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月23日	その他	共同通信社	NR「名誉館長就任」への打ち返し
1月24日	TV	NHK「歴史ヒストリア琉球王国の祈りと美」	水族館で展示しているヤコウガイを撮影
1月26日	TV	フジテレビ「スーパーニュース」	来館する中国人観光客のツアーに同行取材
1月27日	その他	Nikon新カメラの作例	カメラの機能を使って水槽前で人物撮影
1月30日	TV	オーストラリアの旅番組「The travel bug」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
1月31日	TV	中国のメディア	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を撮影
2月2日	雑誌	観光雑誌「るるぶドライブ沖縄13」	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
2月2日	TV	北海道テレビ「イチオシ!モーニング」	「いきもの係」コーナーで水族館の生物を紹介
2月3日	新聞	沖縄タイムス	NR「入館者2,500万人達成」への打ち返し
2月3日	新聞	琉球新報	NR「入館者2,500万人達成」への打ち返し
2月3日	TV	琉球朝日放送	NR「入館者2,500万人達成」への打ち返し
2月3日	TV	琉球放送	NR「入館者2,500万人達成」への打ち返し
2月3日	TV	NHK沖縄	NR「入館者2,500万人達成」への打ち返し
2月3日	TV	沖縄テレビ	NR「入館者2,500万人達成」への打ち返し

実施日時	区分	媒体	目的・内容等
2月3日	TV	韓国SBS旅行番組「世界楽旅行」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月3日	TV	関西テレビ「よーいドン!」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月3 - 12日	TV	NHK「ハッケン伝」	芸人の水族館飼育員体験を密着取材
2月5日	TV	関西テレビ「よーいドン!」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月7日	雑誌	中国の雑誌・HP	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月8日	雑誌	ゴルフ雑誌「Golgol」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月8日	TV	中国テレビ局の訪沖促進番組	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月9日	新聞	中国ポータルサイト新浪の2012春中国貴賓	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
2月11日	TV	沖縄紹介番組	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月11日	TV	フジテレビ「謎解きはディナーのあとで」	大水槽前で観覧シーンを撮影
2月14日	TV	中国の雑誌・HP	中国人のアフターウェディングに同行取材
2月15日	TV	中国の新番組「沖縄の美」	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
2月15日	雑誌	ロシアの雑誌	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月18日	Web	OCVBHP「おきなわ物語・簡体字」サイト	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月23日	雑誌	韓国の週刊誌	沖縄の観光スポットとして海洋博公園を紹介
2月23日	新聞	朝日新聞全国版沖縄旅行特集	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
2月23日	TV	韓国日本チャンネル「日本の街からアソビハセヨ」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月2日	TV	オーストラリアTV番組「Weekend Today」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月2日	TV	BS朝日「世界の船旅」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月4日	新聞	韓国の新聞「世界観光新聞」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月4日	新聞	中国の新聞「北京晩報」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月5日	雑誌	文藝春秋	NR「名誉館長就任」への打ち返し
3月7日	TV	韓国のテレビショッピング番組	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月8日	新聞		沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月8日	その他	ドイツ写真家の展示会	「黒潮の海」大水槽を撮影し紹介
3月10日	TV	沖縄テレビ「沖縄県観光危機管理シボジウム」	視察するバイアンマン博士に同行取材
3月13日	TV	長崎のTV番組「ひるじげドン」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月14日	TV	タイテレビ「サムコッタージョン」	沖縄の観光スポットの一つとして水族館を紹介
3月16日	雑誌	上海の雑誌「皆喜」	アフターウェディングの観光スポットとして紹介
3月16日	TV	NHK沖縄	来館した被災者の一行に同行取材
3月17日	その他	Jetstar航空沖縄便就航TVCM	「黒潮の海」大水槽前で撮影
3月17日	雑誌	「るるぶベストセレクト」・「子どもと行く沖縄」	水族館オリジナル商品を紹介
3月22日	新聞	岩手日報	岩手日報社「遊YOU塾inオキナワ」に同行取材
3月23日	その他	沖縄明治乳業「美ら海ウォーター」CM	水族館前で撮影
3月23日	Web	観光情報サイト「おきなわ物語」	水族館から見える伊江島の景観を撮影
3月23日	TV	山形テレビ	山形テレビ「沖縄遊YOU塾2012」に同行取材
3月24日	TV	TBS「ニッポン!いじるZ」	観光スポットとして水族館を紹介
3月24日	TV	テレビ朝日	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月24日	その他	共同通信社	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月24日	新聞	朝日新聞社	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月24日	新聞	西日本新聞	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月24日	新聞	読売新聞	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月24日	新聞	奄美南海日日新聞	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月25日	TV	テレビ朝日	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月25日	TV	日本テレビ	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月26日	雑誌	講談社	奄美大島で漁師を襲ったサメについて取材
3月28日	TV	福島中央テレビ	福島中央テレビ「おきなわ遊YOU塾」に同行取材

## (7) 学会発表、講演等

### 【学会発表等】

平成 22 年度

#### 第 2 回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウム（タイ）6 月 19 - 26 日

The Role of Aquarium on the Coral Reef Conservation《口頭》. ○M. Nonaka, H. H. Yamamoto and S. Uchida.

The Melithaeidae (Coelenterata: Octocorallia) of the Ryukyu Archipelago: molecular and morphological assessments 《口頭》. ○Aguilar C., M. Nonaka and J. D. Reimer.

#### 第 11 回国際精子学シンポジウム サテライト・シンポジウム（総合研究センター）6 月 30 日

Development of Gonads in some Coralliidae Corals (Cnidaria; Anthozoa; the Octocorallia) collected from Ryukyu Archipelago 《口頭》. 野中正法.

Ultrasonography for Pregnancy Diagnosis and Fetal Condition in Aquatic Animals《口頭》. 植田啓一.

Reproduction of Manta rays (*Manta birostris*) in Captivity 《口頭》. 松本葉介.

#### 日本魚類学会年会（三重）9月24 - 25日

- 角舌軟骨の力学解析に基づくメガマウスザメ *Megachasma pelagios* の摂食行動の推定《口頭》。  
○富田武照（東大院），佐藤圭一，須田健太（北大院），川内惇郎（北大院），仲谷一宏（北大）。  
シロシュモクザメの子宮および卵殻腺から見つかった精子《ポスター》。○松本瑠偉，戸田実，内田詮三。  
フグ目の稀種ウチワフグ *Triodon macropetrus* の水中観察《口頭》。戸田実，植田啓一，内田詮三。  
ネコザメの呼吸方法：ネコザメは鼻からも呼吸する？《ポスター》。○松本瑠偉，戸田実，内田詮三。

#### 東京大学海洋研究所 共同利用シンポジウム（千葉）10月19 - 20日

- 板鰓類の繁殖様式《口頭》。佐藤圭一。

#### 日本甲殻類学会第48回大会 一般公開シンポジウム（西原町）11月12日

- 希少生物に対する水族館の役割：海洋博公園のヤシガニについて《口頭》。松崎章平。

#### 第13回 日本サンゴ礁学会（茨城）12月2 - 5日

- 沖縄美ら海水族館における飼育サンゴを活用した取り組み《ポスター》。○金谷悠作，永田俊輔，山本広美，野中正法。  
海洋博公園前海域における造礁サンゴ群集モニタリング《ポスター》。山本広美，金谷悠作，永田俊輔，野中正法，山川英治，長田智史，小澤宏之（沖縄県環境科学センター），岡地賢（コーラルクエスト）。

#### 板鰓類研究会シンポジウム（東京）12月10日

- CT スキャンを用いたサメ類の機能形態《口頭》。○佐藤圭一，内田詮三，仲谷一宏（北大），荒井一利（鴨川シーワールド）。

#### 日本動物園水族館協会・水族館技術者研究会（岐阜）2月3 - 4日

- 麻酔を用いたジンベエザメの輸送・処置について《口頭》。山城篤，植田啓一，松本葉介，濱崎育恵，内田詮三。  
海水性白点病発生状況の数値化《口頭》。○当真英之，内田詮三，戸田実。

#### 日本動物園水族館協会・九州沖縄ブロック 水族館技術者研究会（沖縄市）2月24 - 25日

- クロウミウマの稚魚育成について《口頭》。○若井万里子，竹本淳史。  
ナンヨウマンタ仔魚の育成管理《口頭》。○金澤正悟，松本瑠偉，内田詮三。  
ヒメシマガツオの船上輸送と飼育方法の検討《口頭》。○山田健太，金子篤史。

#### 第35回日本藻類学会（富山）3月27 - 29日

- 沖縄美ら海水族館における海藻モニタリングと普及啓発《ポスター》。岩永洋志登，岩橋浩輔（沖縄環境分析センター），金谷悠作，山本広美。

#### 平成23年度

#### 日本貝類学会平成23年度大会（福岡）4月16 - 17日

- ハナゴウナ科 *Eulimidae* に属する貝類と沖縄産ナガウニ類の宿主選択関係について《ポスター》。  
○伊芸元，上原剛（琉球大学）。

#### 2011年度日本魚類学会年会（青森）9月30 - 10月1日

- ジンベエザメの全長計測について《口頭》。○松本瑠偉，松本葉介，内田詮三。  
飼育条件下におけるウマヅラアジの仔稚魚の形態発育《口頭》。○岡慎一郎，踊場秀兵。  
エイ類の呼吸における第5鰓弓の特殊機能《口頭》。富田武照（北大総合博），○戸田実，山本雄士（北大院水産），植田啓一，内田詮三，仲谷一宏（北大）。  
日本近海のサケガシラ属 *Trachipterus* 魚類の形態と学名の検討《ポスター》。○佐藤圭一，尼岡邦夫（北大），戸田実。  
琉球大学理学部海洋学科所蔵標本の移管と新管理体制の構築《ポスター》。○宮本圭，吉野哲夫（元琉球大理），岡慎一郎，戸田実。

#### 第14回日本サンゴ礁学会（那覇市）11月3 - 6日

- 枝状ミドリイシの形態変異と繁殖成功《口頭》。○山本広美，永田俊輔，鈴木豪（水研セ・西海区亜熱帯研），磯村尚子（国立沖縄高専）。

飼育トゲスギミドリイシにおける形態の可塑性について《ポスター》。○永田俊輔, 山本広美, 野中正法。

Octocorals of the Kumejima Expedition 2009, a molecular and morphological approach 《ポスター》。○Frederic Sinniger (琉球大・熱生研), Masanori Nonaka and Amy Baco (Florida State University)。

学術シンポジウム「沖縄における水棲動物生殖の基礎と応用」(総合研究センター) 12月10 - 11日  
琉球列島産サンゴ科 Coralliidae サンゴ3種における繁殖生態《口頭》。○野中正法, 中村将。  
海洋博公園内におけるヤシガニの繁殖生態《口頭》。○岡慎一郎, 松崎章平, 戸田実。  
サメ・エイ類の繁殖術～海の王者のミステリー～《口頭》。佐藤圭一。

日本動物園水族館協会・九州沖縄ブロック 水族館技術者研究会(福岡) 1月28 - 29日  
クロボヤ属の一種 *Polycarpa* sp. cf. *clavata* の飼育観察《口頭》。○谷本都, 西川輝昭(東邦大学), 宮原弘和。

第56回 日本動物園水族館協会・水族館技術者研究会(山口) 2月2 - 3日  
飼育下における海水性白点虫のシスト動向《口頭》。○当真英之, 宮原弘和, 内田詮三, 戸田実。

IPCF 宝石珊瑚国際フォーラム 2012 in 高知(高知) 3月9日  
Descriptions of old specimens of Japanese Coralliidae collected by Kishinouye 《口頭》。  
○Nonaka, M., K. Muzik and N. Iwasaki。

## 【一般講演等】

### 平成 22 年度

沖縄国立高等工業専門学校「創造演習」(名護市) 4月16日  
サンゴ礁保全における水族館の役割について《講義》。山本広美。

43rd Sony Aquarium 3D 沖縄美ら海水族館(東京)  
ジンベエザメに注射! 一海の獣医のお仕事《講演》。柳澤牧央. 7月31日・8月1日  
デザイナーもびっくり! 美しく不思議なサンゴ礁の生き物たち《講演》。野中正法. 8月7・8日  
沖縄サメ物語—美ら海水族館の世界的成果《講演》。内田詮三. 8月9日  
人食いサメっているの? 《講演》。松本 葉介. 8月14・15日  
居た! 真つ暗世界・深海の生き物たち《講演》。金子篤史. 8月21・22日

夏休み親子水族館学習会(総合研究センター) 7月30日  
美ら海水族館の生物たち《講演》。松本葉介・金子篤史。

琉球大学教育学部自然環境教育コース「沖縄の環境と社会」(西原町) 12月20日  
水族館の役割と飼育係について《講義》。山本広美。

ユネスコキッズ出張授業(埼玉) 1月13日  
沖縄の海・サンゴ礁～深海へ広がる多様性《講演》。佐藤圭一

### 平成 23 年度

名護小学校総合学習(名護市)  
イノーにすむ生物について。伊芸元. 4月26日  
イノー体験学習。伊芸元. 6月3日

44th Sony Aquarium 3D 沖縄美ら海水族館(東京)  
イカ・タコ・貝のふしぎな世界《講演》。伊芸元. 7月23・24日  
カメは万年ってほんと? ウミガメの生態《講演》。河津勲. 7月30・31日  
イルカとクジラ 海に住む哺乳類のチャンピオン《講演》。岡部晴菜. 8月6・7日  
ジンベエザメ・マンタの秘密を探る《講演》。仲松由美子. 8月13・14日  
クマノミとイソギンチャク 共生生活をおくる海洋生物たち《講演》。高岡博子. 8月21・22日  
サンゴは植物それとも動物? 《講演》。若井万里子. 8月28・29日



## IV 業務報告

### (1) 調査研究活動

平成 22 年度

---

---

#### ミトコンドリアゲノム分析に関する調査研究

---

---

##### 目的

沖縄周辺海域には多くの希少生物や未記載種（新種と思われるもの）が多く分布している。また、生物相の面からも、生物多様性研究の分野において重要な情報を含む海域である。本研究では、沖縄周辺海域から得られた魚類や無脊椎動物に関する標本をカタログ化し、さらにミトコンドリア DNA 上に含まれている遺伝情報を解読し、データベース化することにより、分類学的な情報として利用することを目的としている。

##### 方法

沖縄美ら海水族館で収集する生物標本から組織サンプルを採取すると共に、生物標本と対応させたデータベースを作成する。データベース登録された組織標本は、国立科学博物館において DNA の抽出・精製・増幅・塩基配列の読み取りが行われる。解読された塩基配列は、今後国内で構築される予定である、遺伝情報のデータベースに登録され、各種研究の材料として用いられることとなる。

##### 今後の予定

今後とも標本収集と同時に組織サンプルの採取を継続し、沖縄周辺に分布する生物を網羅するコレクションを構築する予定である。同時に、データベース化を進め、多様な研究者に利用可能なシステムを構築する。  
(平成 23 年度継続事業)

---

---

#### ROV 等による深海生物調査研究

---

---

##### 目的

沖縄周辺海域は、多種多様な生物相から成り立っていると言われているが、特に深海は実際にはあまり調査はされていない。また、生物多様性研究の分野においても、重要な情報を含んでいる海域である。当館は、水族館であることに加え、博物館としても資料の収集、保管し国民の教育、学術及び文化の発展に寄与しなければならない。本調査は特に未解明な深海生物の標本を重点的にカタログ化し、生物相研究の材料として活用することを目的とする。

##### 方法

沖縄美ら海水族館で収集する生物標本および近隣から持ち込まれる希少動物を同定、写真撮影、固定、カタログ化する。これらの業務は、沖縄の水生生物を展示している当館として、今後も恒久的に継続する。

## 今後の予定

今後とも ROV や第 2 黒潮丸を活用した近海調査を実施し、新規展示生物の開発や学術的価値の高い標本の収集を行う予定。  
(平成 23 年度継続事業)

---

---

## サメ類の生態に関する調査

---

---

### 目的

八重山漁協が行うサメ駆除の事業に併せ、イタチザメ、ツマジロなどのサメの体長、重量などの基礎データを収集し、イタチザメの繁殖様式に関する知見と試料を収集分析する。

### 方法

平成 22 年 9 月 11 - 12 日の 2 日間、八重山漁協が駆除を目的としてサメ類の水揚げを行った。港に水揚げされた個体全ての体長、体重を測定し、その場で解剖を行い、体内の状況を確認した。イタチザメは、未だ繁殖様式が解明されていない種の 1 つであり、生体を解明する上で繁殖に関する研究が急がれる分野である。収集されたイタチザメの子宮および胎児標本は、水族館に持ち帰り、米国のサメ類の繁殖研究の専門家と共同で研究を行っている。

## 今後の予定

これまでの研究により、本種の繁殖様式は他のサメ類とまったく異なることがわかっており、親子間の影響伝達にかかわる物質を特定することが目標である。現在、おおよその結論を得ているが、今後それを実証するための調査を行う予定である。  
(平成 23 年度継続事業)

---

---

## 飼育サンゴの生態調査

---

---

### 目的

沖縄美ら海水族館は、造礁サンゴの大規模展示を行っている世界でも数少ない水族館である。約 70 種のサンゴが飼育され、なかでも枝状ミドリイシは群体数が多く、展示水槽で 7 年連続放卵放精が確認されている。そこで平成 22 年度の調査では、飼育枝状ミドリイシを材料とし、下記の 4 つの調査研究を行った。

- (1) 形態と既存の遺伝子マーカーを用いた解析により、飼育枝状ミドリイシの種判別を試みる。
- (2) 交配実験と遺伝的類似度の解析から、飼育枝状ミドリイシの効率のよい有性生殖による増養殖の検討を行う。
- (3) 交配実験で得たプラヌラ幼生から稚サンゴの育成を行う。
- (4) 水槽内の物理環境の測定と、飼育枝状ミドリイシの成長量の測定（平成 21 年度からの継続測定）を行う。

### 方法

- (1) 形態および遺伝子解析による種判別の検討

注水量は同じで流速の異なる 2 つの水槽を用意し、そこで枝状ミドリイシ（主にトゲスギミ

ドリイシ) を飼育することで流速の違いによる形態変異の有無を検証した。また、ミトコンドリア遺伝子を用いた解析により、枝状ミドリイシの遺伝情報による種判別を試みた。

#### (2) 交配実験および各群体の遺伝的類似度の検証

形態によって分類した枝状ミドリイシの交配実験を行い、さらに実験群体の遺伝的類似度を、AFLP法を用いて検証した。

#### (3) 稚サンゴの育成実験

飼育サンゴから得られた卵と精子を交配させ、稚サンゴの育成を行った。

#### (4) 物理環境の測定

サンゴの海展示水槽と陸上蓄養槽の屋上水槽において、海水中の細菌叢解析を行った。また、陸上蓄養槽の屋上水槽で飼育している飼育サンゴの成長量の測定を行った。

### 今後の予定

沖縄美ら海水族館の「サンゴの海」水槽では、サンゴ礁生態系を再現することで、サンゴをはじめとしたサンゴ礁域の生物を紹介することを目指している。サンゴ礁生態系を再現するにあたり、まずサンゴ礁生態系を支えるサンゴ自身が野外の状態と同様に再現されることは必要不可欠である。そこで本研究では、生物の主要な3形質である、成長、繁殖、維持に関する研究を、飼育群体数の多い枝状ミドリイシを材料として行った。その結果、以下の6点が明らかとなった。

- (1) 飼育枝状ミドリイシから採取した配偶子からの稚サンゴ育成方法が確立した。
- (2) より高い生存率を目指した種苗生産技術の確立のためには、定着水槽に入れるプラヌラ幼生の密度、育成水槽での光条件に留意する必要がある。
- (3) 受精率と遺伝的類似度の関係には、負の相関がみられる。
- (4) 飼育枝状ミドリイシが正の成長率を示していた。
- (5) 水槽で継続飼育された枝状ミドリイシは正常な配偶子をつくり、受精発生も正常に行う。
- (6) マイクロサテライトマーカーの開発を行い、枝状ミドリイシのなかでもトゲスギミドリイシでのクローン識別マーカーを開発。

一方で、以下の3点の問題点も未だ残っている。

- (1) より高い生存率を目指した種苗生産技術の確立
- (2) 病気の発生と成長率の関連性を明らかにする
- (3) 枝状ミドリイシの分類方法の確立

今後これらの問題点を解決し総合的に議論することで、サンゴの生物学的知見を深め、展示生物の充実や解説の充実へとつながると期待される。

---

---

## サンゴ生態調査

---

---

### 目的

サンゴ礁生態系を支えるサンゴ群集の状況を正確に把握することが、サンゴ礁生態系の状態を把握することに繋がる。国営沖縄記念公園においては、その地先の海岸及び海中についての様々な調査を行ってきた。長期にわたるサンゴ群集モニタリングのデータをまとめて、その変

移と傾向を明らかにすることは、今後のサンゴ礁のモニタリングを行う上で、また、サンゴ礁の管理と保全を行う上で重要である。これらのデータが、沖縄だけでなく、全世界のサンゴ礁保全のための基礎データとなり得る。

## 方法

本調査の対象地域に関しては、平成 6 年度サンゴ造園飼育構想基礎調査によって設定された。対象海域は、南は B&G 港から、北は備瀬崎手前までの約 230ha におよぶ範囲である。



造礁サンゴの分布調査は、1987 年（昭和 63 年度）、1988 年（平成元年度）、1994 年（平成 6 年度）、1998 年（平成 10 年）に行っており、この結果、白化現象以前とその直後の、サンゴ群集が受けた影響について確認することができた。このような長期間、同地域の調査を継続した例は、日本では過去に類を見ない。さらに、海洋博公園前のサンゴ礁において、より精度の高いサンゴ群集のモニタリングを行う上で、2004 年（平成 16 年）には予備調査と調査方法の再検討を行い、その年から、世界基準に合わせた、迅速かつ正確な野外調査方法を取り入れて毎年のモニタリング調査を行っている。

今年度は、海洋博公園地先の調査区域において、マンタ法、トランセクト法、その他 GPS 等を使用したイノー調査を行った。マンタ法は調査区域の礁縁部 5.2km の範囲を、トランセクト法では 5 地点の各 2 水深、イノーでは備瀬と水族館前の区域及び地点でモニタリング調査を行った。さらに、水中クロロフィル測定器を用いて、野外のサンゴの健康度測定を行った。また、サンゴと生態調査に関する冊子とデータ CD の作成・配布を行った。

## 今後の予定

### (1) モニタリング

平成 18 年から得られた 5 年間のデータをまとめると、サンゴの回復速度とドリームセンター（アクアポリス）のサンゴ群集の被度増加はきわめて遅く、那覇港やヘロン島のサンゴ群集が 5 年間に達するのと同程度の被度になるためには 8 - 10 年を要すると考えられる。このような成長速度の違いは、ドリームセンター（アクアポリス）のサンゴ群集がおもにハマサンゴ科やキクメイシ科から成り、ミドリイシ科のサンゴと比較して成長が遅いことによると思われる。しかし、かつてはミドリイシ科が優占する場所であったドリームセンター（アクアポリス）区域の礁縁部では、自然な回復過程で普通にみられるはずのミドリイシ科の新規加入を示す幼群体数が非常に少なく、沖縄本島の平均値の 1/3 以下、石垣島でミドリイシ科が回復した礁縁部の 1/10 以下である（自然環境研究センター, 2009 ; 環境省自然環境局, 2009）。海洋博公園前で被度の高い備瀬北、備瀬西区域においても同様なことが言える。

## (2) 健康度調査

サンゴの健康度指標である光合成最大収率は、正常な範囲 0.6 - 0.75 で変化した。目視でもサンゴの白化・病気は見られなかった。

## (3) 冊子・データ CD の作成

サンゴ礁モニタリング調査で得られたデータや情報などの成果物は、有益な環境情報として多くの人々が利用できるように、様々な方法で広く公開されるべきである。毎年多くの来館者が訪れる沖縄美ら海水族館での効果が期待され、また、一般向けの内容であるため、幅広く理解してもらえる冊子『サンゴ礁ってなあに?』の作成、配布を行った。また、調査データをまとめた配布用 CD を作成した。



海洋博公園前海域の保全に資する科学的データの取得と、それを活用した普及啓発活動を展開する。特にモニタリング調査では、ミドリイシ科をはじめとする主要なサンゴの幼群体の動態に注目し、サンゴ被度の増加に何が重要なのか、要因を探る。

---

---

## サンゴ礁生物多様性調査

---

---

### 目的

本業務は海洋博公園前海域の保全計画ならびに環境教育、普及啓発プログラムに資することを目的として、過年度の公園地先のサンゴ礁域に生育する海藻類モニタリングより得られたデータの解析、とりまとめとデータベースの構築を行った。また、調査結果をより理解しやすく公表し、普及啓発する効果的手法として海藻リーフレットの作成を行った。



### 方法

- (1) 既存報告書の収集整理および電子化
- (2) データベース作成
- (3) 国内外の海藻を含むモニタリング調査の事例
- (4) 海藻リーフレットの作成
- (5) 第 35 回日本藻類学会にてポスター発表を行った。

### 今後の予定

海藻リーフレットを製本印刷し、配布する。また、海洋博公園前海域の保全に資する科学的データの取得と、それを活用した普及啓発活動を展開する。

## ハブクラゲ調査

### 目的

ハブクラゲは、死亡例もある猛毒を持つ危険生物として知られているが、その生活史等に不明な点が多く、発生源や分布も知られていない。本種の稚クラゲ生息調査等や長期飼育・飼育下繁殖方法を確立することは、生物・生態学的情報の獲得と危険生物であるハブクラゲの被害を未然に防ぐためにも重要な事項である。展示と繁殖を目的とした成体の採集場所の選定、輸送技術の獲得と、水族館での通年展示を目指した本種の生活史の解明を目的とした。

### 方法

ハブクラゲの稚クラゲ分布域を把握するため、沖縄本島と石垣島でプランクトンネットを用いた分布調査を行った。調査の結果、各調査地でハブクラゲの稚クラゲを得ることができた。また、飼育展示用としてハブクラゲの成体展示を行い、危険生物としての普及啓発を行った。

### 今後の予定

河口域における稚クラゲ調査は、今回が初めての調査であるが、稚クラゲが河口域で発生することが確かめられた大きな成果である。ハブクラゲ調査は平成 19 年度から 22 年度まで継続して行ってきたが、これまでの成果は以下のとおりである。

- (1) アンケート調査、目視調査の結果、ハブクラゲは沖縄島ほぼ全域に分布し、特に中南部西側に多いことが分かった。
- (2) 水流を利用した生体捕獲用トラップを改良し捕獲効率が向上した。
- (3) 内湾域で遊泳しているハブクラゲの映像の記録に成功した。
- (4) ハブクラゲポリプの付着板調査を実施したが立方クラゲのポリプは得られたがハブクラゲのポリプは得られなかった。
- (5) 世界で初めて飼育個体の放卵の様子をビデオ撮影することに成功した。
- (6) 水槽内で得られた受精卵を用いて低塩分飼育下で定着型ポリプに変態することを確認した。
- (7) 平成 19 年度 - 平成 21 年度までの成果を日本サンゴ礁学会第 12 回大会で発表した。

これまでの調査から得られた結果を、今後の飼育展示および危険生物の普及啓発に反映していきたい。特に、飼育した個体から受精卵を得て、ポリプの飼育を行い稚クラゲに変態するまでの飼育技術の確立を目指す予定である。定着型ポリプから稚クラゲに変態ができれば、水族館でのハブクラゲの周年展示が可能になり、危険生物のハブクラゲの一生を展示していきたい。



河口域でのプランクトンネット調査



ハブクラゲの稚クラゲ



---

---

## 海洋博記念公園内におけるヤシガニの生息実態調査

---

---

### 目的

本事業では、海洋博公園内に生息するヤシガニの生息実態の把握を目的としている。調査は平成 18 年度から継続しており、本年度は継続調査の実施とともに、過去 5 年間の調査結果の総合的取りまとめを行った。

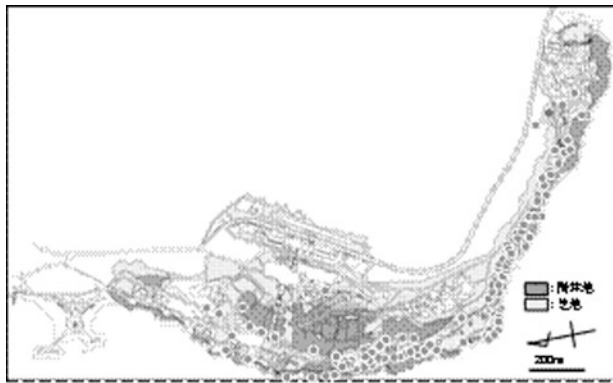
### 方法

分布状況の把握を主目的とし、公園内の夜間踏査によりヤシガニの確認位置、サイズ等を記録した（平成 18 年度より継続）。また、繁殖状況や越冬状況に関する基礎的情報の収集を目的とし、海岸域での夜間踏査による放仔個体の探索および越冬場所と想定される巣穴の探索を行った（平成 22 年度のみ）。

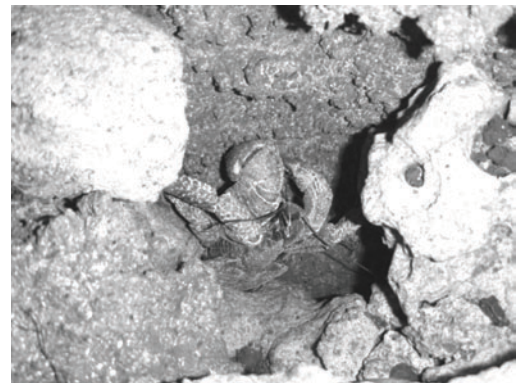
### 今後の予定

公園内のヤシガニの分布は、自然度の高い海岸樹林が残されている公園の西～南西部に集中していた。また、冬季にはほとんど確認されておらず、この間は巣穴等で越冬する生態的特徴を有することが明らかとなった。さらに、甲殻の模様による個体識別により移動、推定個体数、成長に関する知見が蓄積されつつある（ただし今後の情報量の増大が必要）。放仔場所は本種の頻出域である海岸樹林に隣接する場所に集中する傾向にあり、その出現時期から繁殖期は 7 月中旬 - 8 月と推定された。越冬場所の探索の結果、海岸樹林内の洞穴（ガマ）内で 1 例のみであるものの越冬個体を確認した。洞穴内は外部に比べると気温・湿度がかなり安定しており、越冬の成否との関連性が窺えた。

今後は個体識別標本数および繁殖状況確認例の増大による生態情報の精度向上、越冬場所となる洞穴の分布や内部での行動生態、稚ヤシガニの生息状況に関する調査を強化する予定である。



ヤシガニ確認位置



越冬状況

---

---

## タナゴモドキの槽内繁殖

---

---

### 目的

タナゴモドキは、現在環境省レッドデータブックの絶滅危惧 1B 類に指定されているハゼ亜目カワアナゴ科の魚類で、魚類中最も小さな卵を産む。本種の槽内繁殖は極めて難しく、繁殖

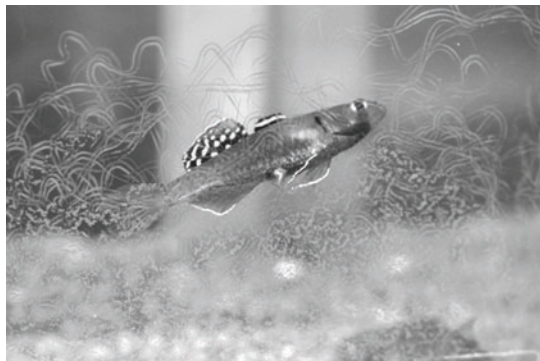
マニュアル作成することは、本種の保護だけでなく、その他極小卵を産出する魚類の繁殖の手がかりともなりうる。また、本種は、日動水種保存委員会の対象種でもあり、当館はタナゴモドキの担当館でもあるため、槽内での繁殖を目指す。

## 方法

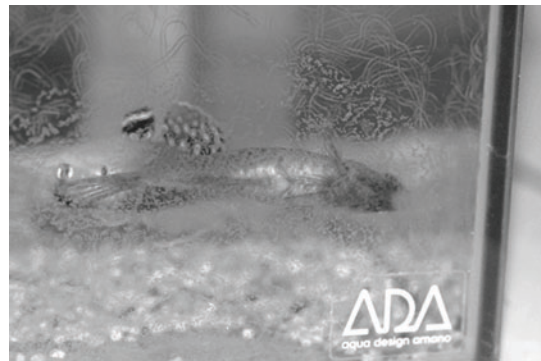
初期餌料としてオハグログガキの卵を使用した。岸壁からオハグログガキを剥ぎ取り、生殖腺の発達状態を実態顕微鏡で確認する。精巢・卵巣を確認し、生殖腺を取り出し、海水中で攪拌し、受精させる。目合 100 $\mu$ m のプランクトンネットで大きなゴミを取り除き、目合 25 $\mu$ m のプランクトンネット上に残った卵を餌として与える。孵化後 3 日目よりオハグログガキの卵を給餌し、孵化後 5 日目からはシオミズツボワムシを併用する。その後成長とともに、アルテミア幼生、冷凍コペポータ、冷凍赤虫等を給餌する。孵化直後より塩分濃度を上昇させ、7 日目で海水飼育に切り替える。孵化後 21 日目から塩分を下げ始め、孵化後 60 日目で塩分濃度 0%とした。

## 今後の予定

平成 19 年に当館で初めて成功し、現在 34 尾の繁殖固体が順調に生育している。今後は各島嶼間における遺伝的差異を確認し、水族館同士での生物の移動等による遺伝的攪乱に配慮する資料にする。  
(平成 23 年度継続事業)



タナゴモドキ雄の放精



タナゴモドキ雌の産卵

---

---

## リュウキュウアユ繁殖検討調査

---

---

### 目的

沖縄本島のリュウキュウアユは、1980 年頃絶滅した。沖縄美ら海水族館では、放流用の種苗を入手し、展示を行っていたが、2006 年より種苗生産が行われておらず、入手が困難となった。リュウキュウアユは沖縄の水生生物を展示解説する上で重要な生物であり、展示を継続する為に水族館で人工繁殖し、種苗の放流及び展示を行った。

### 方法

沖縄県福地ダムより親魚用のリュウキュウアユを採集し、乾導法により人工授精させ繁殖させた。親魚は 34 尾採集し、合計 6.695g 約 18,000 粒の受精卵を得た。受精卵は、ほぼ 2 週間で孵化した。孵化直後より海水を加え、5%とし、徐々に海水を追加して 10%で仔魚の飼育を行った。初期餌料としてシオミズツボワムシを与え、成長に応じて、アルテミア幼生・配合餌料を追加した。昨年度より受精卵の管理に紫外線殺菌灯を使用したところ、水カビの発生が極



端に抑えられた。孵化後 1 週間目までの初期減耗が激しく、平成 23 年 4 月 28 日現在生残したのは、約 500 尾ほどであった。

#### 今後の予定

平成 20 年から人工繁殖をはじめ、これまでに約 1,800 尾の種苗を放流している。今後は、関係機関と協力し、役割分担を決め、環境教育など有効に活用していく。

(平成 23 年度継続事業)



種苗育成



放流の様子

---

---

### ナンヨウマンタの繁殖行動

---

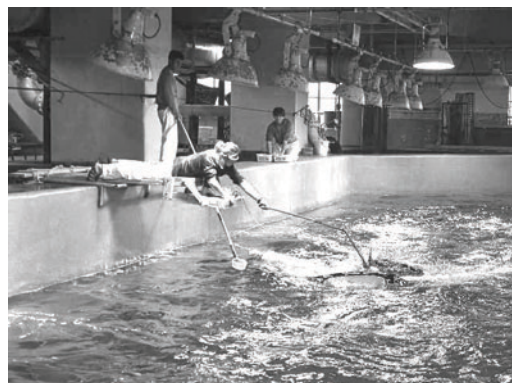
---

#### 目的

エイ目イトマキエイ科に属するナンヨウマンタ *Manta alfredi* は、世界の熱帯から温帯周辺海域に生息する。本種は成長すると体盤幅が 4 - 5m になる、大型種である。しかし、本種の生態学的情報は非常に少なく、これらを解明することは今後の保護・管理計画を策定するにあたって大変重要な情報となる。

#### 方法

個体番号 No.10 がエコー検査により本年も妊娠（通算 4 回目）していることが判明し、以後出産まで母体と胎仔の健康管理を目的に継続して検査を行った。加えて受診動作訓練により採血が可能となったことから血液検査も実施した。



エコー診断



水中採血

誕生した第四仔は、適正な飼育水槽を把握する目的で陸上蓄養槽に出産直後、移動・蓄養を試みたが生後 17 日で死亡した。本例より出産仔は少なくとも直径 10m、水深 5m 程度の円形水槽にて飼育することが望ましいことが分かった。第二、三仔の生後一年間の成長は、それぞれ+79cm/+100kg（体盤幅/体重）、+58cm/51kg であった。現在、第二仔に追加して第三仔も黒潮槽に展示中である。

#### 今後の予定

定期的な採血が可能となったことから性関係ホルモンに注目し、本種の性成熟時期の検討を実施する。  
(平成 23 年度継続事業)

---

---

## 板鰐類の健康管理技術開発

---

---

#### 目的

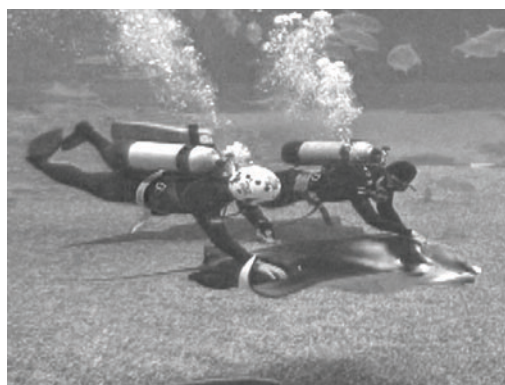
板鰐類の新しい健康管理手段として、血液検査の変化と共に画像診断機器を用いて飼育動物の妊娠診断や病状を調査する。

#### 方法

黒潮大水槽のナンヨウマンタの受診動作訓練にて採血を実施することにより血液性状値の把握に努めた。昨年度に引き続きおよび妊娠ナンヨウマンタ個体の超音波検査を実施し胎仔のデータ蓄積に努めた。ジンベエザメにおいては、全飼育個体に対して 4 個体の通年（平成 21 年 4 月 - 平成 22 年 3 月）採血・分析を実施した。

#### 今後の予定

ナンヨウマンタ、ジンベエザメの性状値の把握と共に血中ホルモンの分析を行う。また鎮静薬や麻酔薬の適正投与量の検討を行う。  
(平成 23 年度継続事業)



ナンヨウマンタの採血



ナンヨウマンタの胎仔画像

---

---

## 第 2 回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウム

---

---

### 目的

2006年に香港にて第一回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムが開催された。そして、国際サンゴ礁シンポジウムが開かれる中間の年、4年ごとに継続して開催されることが決定され、第二回はタイ、プーケットでの開催となった。水族館における研究成果を発表するとともに、サンゴ礁全般の最新情報について情報交換を行った。

### 期間および場所

平成 22 年 6 月 19 - 26 日 タイ (プーケット市)

### 概要 (発表内容)

今回の参加者は約 400 名を数え、5 つのミーティンググループに別れ、12 題の基調講演のほかに、22 のテーマに分かれたセッションが行われた。サブタイトルが「気候変動下におけるサンゴ礁保全の取り組み」と位置づけられたため、関連した発表が多く見られた。参加者の約 2 割を日本人が占め、地元タイよりも、日本からの参加者が多かった。大会を運営したのは、タイ、ラムカムヘン大学のタマサク・イーミン教授で、同教授は琉球大学で修士課程を終え、九州大学で博士号を取得した、日本にはなじみの深い人物である。そのため、日本からの参加者が増えたことにつながったと考えられる。

当シンポジウムでは魚類課野中が口頭発表を行ったほか、研究センター西平参与が三題のポスター発表を行った。ただし西平参与はエジンバラ公賞の表彰式のため、このシンポジウムの出席は直前で辞退している。

#### The Role of Aquarium on the Coral Reef Conservation

○M. Nonaka, H. H. Yamamoto and S. Uchida

Okinawa, in southern Japan, has well developed fringing reef supporting the rich structural framework that contributes to a high level of marine ecosystem.

Okinawa Churaumi Aquarium was opened 2002 November 1 aimed to introduce marine organisms in Okinawa water. Three zones were established in the aquarium, Coral reef zone, Kuroshio Current zone and Deep-sea zone.

Public aquaria have important roles, not only social and economic contribution to society, but also a potential ecological value through conservation of the local environment. We tried to address three big issue of environmental education about coral reefs: Recreation, Education and Research and conservation.

#### (1) Recreation

In the aquarium, there is the living coral display tank that holed 300 m<sup>3</sup>, use natural sea water from the outer reef and direct natural sunlight. Resulting formation from previous research in holding tanks was used when deciding the composition and location of each coral species in the display tank. The aquarium kept *Acropora inetrmedia* were survived from 1998 sea surface temperature rising and they have spawned bundles every year since 1996.

## (2) Education

As a coral reef education center, the Aquarium plans to hold several programs: “Coral larvae Observation”, “Reef walk” and “Coral study” by staff.

## (3) Research

*Acropora intermedia* are now rarely encountered on reefs around Okinawa Is. The eggs and sperms from these colonies were collected and studied. As a result, the eggs size was normal and also their fertilization and embryogenesis were normal. It is necessary to understand the genetic diversity of source population in order to restore coral population after localized disturbance, *A. intermedia* in the aquarium might be potential source for replenishment.

The efforts show that the aquarium can contribute to the conservation of threatened marine species.

### サンゴ礁の保全に対する水族館の役割

沖縄は日本の南西部に位置し、良く発達したサンゴ礁を有する土地である。沖縄美ら海水族館は 2002 年 11 月 1 日に開館し、沖縄の海洋生物を、サンゴ礁、黒潮、深海という 3 つのゾーンに分けて、展示・紹介をしている。

公的な水族館は観光などといった社会的な営利の部分のみならず、地域の環境保全などに寄与するなどの重要な役割がある。我々としては三つの柱を掲げて、サンゴ礁に関する環境教育を行っている。すなわち、サンゴ礁生態系の水槽展示、生物実習、そして調査・研究である。

#### (1) 水槽展示

沖縄美ら海水族館には水量 300t のサンゴ展示水槽があり、天然海水と自然光を利用してサンゴの飼育を行っている。それぞれの種類がどのような環境に生息しているかを調査し、その結果を展示水槽で再現している。飼育されているトゲスギミドリイシは、1998 年の白化現象時にも水槽内で生き残り、それ以前の 1996 年から毎年放卵放精を行っている。

#### (2) 生物実習

サンゴ礁生態系を学ぶ場として、水族館は「サンゴの卵と幼生観察会」「イノー歩き」「サンゴに関する講習会」などを実施している。

#### (3) 調査・研究

トゲスギミドリイシは沖縄本島においては非常に減少している種である。水族館では毎年放卵放精が行われるので、これらの卵を採取し、研究に用いている。その研究の結果、飼育下のサンゴが造り出す配偶子も自然界のものと同様に発生が進むことが分かり、水槽内のサンゴがサンゴ礁の再生に活用出来ることが判明した。



### The Melithaeidae (Coelenterata: Octocorallia) of the Ryukyu Archipelago: molecular and morphological assessments

○Aguilar C. (琉球大学), M. Nonaka and J. D. Reimer (琉球大学)

Octocorals are distributed worldwide and inhabit shallow to deep waters. The family Melithaeidae (Octocorallia: Gorgonacea) has been found distributed in the West Pacific,

Indian Ocean and the Red Sea. They are most abundant in warmer waters but can also be found in temperate waters. At present five genera are assigned to this family (*Melithaea*, *Mopsella*, *Clathraria*, *Acabaria* and *Wrightella*), however overlapping characteristics make this group's taxonomic identification difficult and their relationships unclear. There are only a few reports from the Ryukyu Archipelago of melithaeids and most other octocorals, despite the islands being an area of high octocoral diversity influenced by the Kuroshio Current. To help resolve the taxonomic confusion in this family, samples from different Ryukyu Archipelago locations were collected and DNA sequences of nuclear 28S ribosomal DNA and mitochondrial cytochrome oxidase I (COI) were obtained. Additionally, SEM micrographs of the sclerites of specimens were taken to further confirm the molecular results. Three strongly supported clades were recovered from the COI and 28S analyses. They correspond to *Melithaea*, *Acabaria*, and *Mopsella* and in most cases are clearly related with the sclerite shape reported for each of the genera. These preliminary results show clearly that molecular differences are present between the three genera, and also demonstrates the strong need of other molecular markers for resolving intra-generic phylogenies. Our results provide baseline data for future studies of this octocoral family, not only on taxonomy, but also with regards to ecological and conservational topics.

#### 琉球列島におけるイソバナ科：形態的データと分子学データによる分類

イソバナ類はサンゴ礁域ではもっとも普通に見られるヤギ類であるが、その分類は混乱している。この研究では琉球列島の標本を元に、イソバナ科を属レベルで分類する形質を検討した。その結果、遺伝子のデータでは6つの大きなグループに分かれることがわかり、そのうちの3つのグループは、これまで記載されていた *Mopsella* 属、*Acabaria* 属、*Melithaea* 属にあたることがわかった。その他の3つのグループは、形態ではうまく分けられなかった。

---

---

## 2010 年度 日本魚類学会年会

---

---

### 目的

水族館における研究成果を発表し、魚類全般の最新情報に関する情報交換を行う。

### 期間および場所

平成 22 年 9 月 24 - 25 日 三重県文化会館（三重県津市）

### 概要（発表内容）

#### 角舌軟骨の力学解析に基づくメガマウスザメ *Megachasma pelagios* の摂食行動の推定

○富田武照（東大院）、佐藤圭一、須田健太、川内惇郎（北大院）、仲谷一宏（北大）

CT スキャンを用いたメガマウスザメの摂餌方法を明らかにすると同時に、サメ類の摂餌方法を定量的に推定する方法を明らかにした。本研究については、*J. Morphology* 誌に論文が掲載された。（Tomita, T., K. Sato, K. Suda, J. Kawachi and K. Nakaya. The feeding strategy of the megamouth shark (Pisces: Lamniformes: Megachasmidae) predicted by its hyoid arch: A biomechanical approach.）

## シロシュモクザメの子宮および卵殻腺から見つかった精子

○松本瑠偉、戸田実、内田詮三

サメ類の貯精能力を解明するために必要な、子宮内における精子の動態を調査し、実際に受精能と運動性をもつ精子の採取に成功した。

## フグ目の稀種ウチワフグ *Triodon macropetrus* の水中観察

○松浦啓一（国立科博）、金子篤史

ウチワフグは深海性の稀種であり、水槽内で飼育した例や野外での観察例もまったく存在しない。本研究では、世界で始めて飼育に成功したウチワザメを水槽内で観察し、腰帯によるウチワの開閉機構について調査を行った。

## ネコザメの呼吸方法：ネコザメは鼻からも呼吸する？

○戸田実、植田啓一、内田詮三

ネコザメの外呼吸（かん水機構）を明らかにするため、解剖学的手法およびエコー検査により、複雑な水の流れを明らかにした。ネコザメの噴水孔、内耳に樹脂を注入し、その構造がどのようなになっているか調査を行った。

---

---

## 東京大学海洋研究所 共同利用シンポジウム

---

---

### 目的

本シンポジウムでは、生殖学的研究の問題点・現状を打破すべく、コペポータ、ウミクワガタ、軟体動物などの無脊椎動物、寄生虫類、そして魚類の繁殖生態や形態の雌雄差に関する研究を行っている研究者が招聘され、今後の課題と展望を紹介した。

### 期間および場所

平成 22 年 10 月 19 - 20 日 東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市）

### 概要（発表内容）

#### 板鰓類の繁殖様式

佐藤圭一

板鰓類（サメ・エイ類）は、約 1,400 種からなる動物群で、30,000 種を超える魚類の中では比較的小さな一群である。しかし、板鰓類の繁殖様式はきわめて多様で、他の魚類には見られない特異な進化を遂げている。板鰓類は体内受精を行い、繁殖にコストと時間をかけるという共通した特徴をもつ。通常、メスは 1 対の子宮（輸卵管）内に、それぞれ 1 - 複数個の卵殻卵または 1 - 複数尾の胎仔を保持する。

板鰓類の繁殖様式は、大まかに卵生 oviparity および胎生 viviparity に分けられている。卵生種は硬い卵殻に包まれた受精卵を体外へ産み、仔ザメは卵殻から海中へ孵化する。卵生種は、ネコザメ類、テンジクザメ類、トラザメ類、ガンギエイ類に多く見られる。一方胎生種では、母体から仔ザメを出産する。胎生種の繁殖様式は、栄養供給の有無により、母体に栄養を依存しない卵黄依存型胎生 lecithotrophy と、母体から何らかの形で栄養供給を受ける母体依存型胎生 matrotrophy に分けられている。体サイズの小さいツノザメ類、最大種ジンベエザメは前者



であるが、大型で遊泳性のメジロザメ類、ネズミザメ類、トビエイ類、アカエイ類では、後者の繁殖様式をとり、母胎内で大きく成長した仔を産む。さらに母体依存型の胎生は、栄養供給の様式により、(1) 卵食・共食い型 oophagy / adelphophagy、(2) 胎盤型 placental viviparity、(3) 子宮ミルク型 uterine milk (胎盤類似物型 placental analogues) に類別される。

板鰓類における繁殖様式の進化は、卵黄依存型を祖先型として、母体依存型へ変化したと考えられている。また、胎盤形成や卵食、子宮ミルクなどは、板鰓類のクレード内で少なくとも複数回、多系統的に獲得された形質である。つまり、板鰓類はそれぞれの種あるいはグループにおいて、それぞれの生態的な進化に合わせて繁殖様式も変化したといえる。

板鰓類の繁殖学的研究は、一般にサンプルが乏しいことや、飼育が難しいことから、きわめて立ち遅れた分野である。現在、板鰓類の中で繁殖様式が明らかとなっている種は少数派であるが、当館でのマンタ繁殖で子宮ミルク型の繁殖が証明されたように、水族館での繁殖・観察が寄与する分野でもある。今後、新たな繁殖様式の報告も予見されているが、既知の種についても組織学的、進化学的に相同性を再検証し、繁殖様式を再定義する必要がある。

---

---

## 日本甲殻類学会第 48 回大会一般公開シンポジウム

---

---

### 目的

沖縄美ら海水族館がある海洋博公園にはヤシガニが生息しており、これまで生息状況について調べてきた。日本におけるヤシガニ研究の現在－ヤシガニ資源保全へのアプローチ－と題して行われた、日本甲殻類学会の一般公開シンポジウムで海洋博公園におけるヤシガニの生息状況と希少生物に対する水族館の役割について講演を行った。

### 期間および場所

平成 22 年 11 月 12 日 琉球大学 大学教育センター (沖縄県西原町)

### 概要 (発表内容)

海洋博公園内には、絶滅危惧種となったヤシガニが安定して生息しており、公園となっていることで乱獲や生息地環境の消失から守られている。今後は恵まれた環境を情報発信や学習の場として活用するとともに、得られた知見活用し持続的に保全できる公園整備に役立てていく。

シンポジウムには日本におけるヤシガニ研究の第一人者が集まっており、意見を交わすことで今後連携してヤシガニ資源の保全や活用の可能性を感じることができた。

#### 希少生物に対する水族館の役割：海洋博公園のヤシガニについて

松崎章平

水族館の存在意義として最も重要な事項は、展示を通じた生物情報の発信にあるものの、近年では飼育技術を活用した希少種等の保全の側面も重要視されつつある。とりわけ、飼育下での安定した繁殖は、生息域外の保全であるばかりでなく、天然への種苗放流など、生物資源の持続的な保全に寄与できる展望を持つ。このような取り組みによって、より多様な希少種の飼育や繁殖に関する技術開発が日々進捗している。

ヤシガニはその容姿、大きさ、貝殻を持たないヤドカリ類であるなどの特徴から、非常に展

示効果の高い（人々の目を引きやすい）生物であり、全国各地の水族館で飼育・展示されている。生息数が減少傾向にある本種の現状を考慮すると、水族館からの情報発信とともに保全への取り組みは重要である。また、飼育下での繁殖技術の確立も必要となってくるであろう。

沖縄美ら海水族館がある海洋博公園の敷地内（海岸線約 3km、面積約 77ha）には以前より容易かつ頻繁にヤシガニが確認されていた。このような場所は沖縄本島には例がなく、沖縄島個体群の生態把握には当公園が適地と判断された。また、本種の生態情報は、保全に配慮した公園整備に寄与するだけでなく、情報発信や学習の場としても活用できる可能性を孕んでいる。特に年間約 300 万人が訪れる当水族館からの情報発信の社会的効果は極めて大きい。以上の背景を受け、当水族館では 2006 年から公園内のヤシガニの生息実態に関する調査を実施、継続中である。調査は夜間に公園内を踏査し、確認個体のサイズ、雌雄、確認位置等の記録を原則とした。その結果、2006 - 2009 年の 4 年間で延べ 162 個体が確認された。確認位置は海岸植生が発達し人通りも少ない公園の南西部の海岸近くに集中しており、主要な生息範囲は概ね把握できた。また、抱卵個体が数例発見されており、当公園内で繁殖している状況が確認された。さらに、冬季を中心とした低温期における確認数はごくわずかである状況から、当公園内の個体群は冬眠する可能性が示唆された。この点については今後の調査課題としている。

今後、水族館としては、調査結果や既往知見を踏まえ、公園内のヤシガニ資源を観察会等に活用しつつ、持続的に保全できる公園整備の推進（生息域の保全等）に寄与する予定である。

---

---

## 第 13 回 日本サンゴ礁学会

---

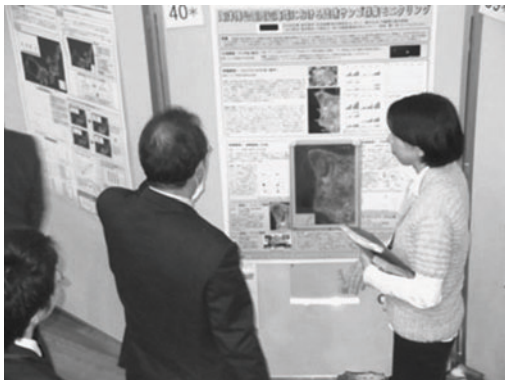
---

### 目的

沖縄美ら海水族館はサンゴ類やその他無脊椎生物、海藻などの飼育と調査研究をおこなっている。その研究成果は非常に意義のある貴重なものであり、結果を日本の研究者が集まる日本サンゴ礁学会において発表し、研究者との意見・情報の交換を行うことは水族館の目的である研究や生物保全につながる。

### 期間および場所

平成 22 年 12 月 2 - 5 日 つくばカピオ（茨城県つくば市）



### 概要（発表内容）

サンゴ群集の回復が場所によってさまざまであることに興味をもつ方が多く、どうすれば回復するのかという議論がでた。研究者、調査員、学生や保全にかかわる様々な分野の方と、モ



モニタリングの結果や今後の保全について話し合う機会が持てた。また、当館の社会的役割は「情報発信」であることを説明し、ジャーナリスト、モニタリング調査員、学生といったさまざまな立場の方と情報発信方法の工夫やそれぞれに抱える問題点について話し合うことができた。

### 沖縄美ら海水族館における飼育サンゴを活用した取り組み

○金谷悠作、永田俊輔、山本広美、野中正法

飼育生物について詳しく観察、研究を行うことは飼育・展示技術の獲得と向上につながる。そこで得られた情報を公開することもまた、社会において水族館に求められている役割でもある。

沖縄美ら海水族館では、“サンゴの海”展示水槽（ろ過海水使用、開放系・1時間1ターン、300t）で造礁サンゴの大規模展示を行っている。予備水槽14基（未ろ過海水使用、開放系・1時間1ターン、10-60t）でも20年間にわたり造礁サンゴを飼育している。群体数が最も多いのは枝状ミドリイシでおよそ3,000群体、生育状態は良好で、水槽内での一斉放卵放精を15年間確認している。飼育業務の一環として、飼育下でのサンゴ群体の成長率・死亡率や、光量、水流、水温などの環境データを取得している。また、サンゴの産卵時期には、選別した群体から得られた配偶子を掛け合わせて得られた幼生を定着させ大きく育てる試みも行っている。

今回の発表では、上記の飼育業務を通して得られた情報や飼育サンゴそのものを活用し、水族館の役割である研究・教育・保全につなげる試みについて紹介する。

#### <調査研究>

- ・得られた配偶子および群体の一部を研究者に提供、研究協力および共同研究を行う。
- ・飼育サンゴから得られた配偶子の分析および稚サンゴの育成。
- ・海洋博公園前海域における、造礁サンゴ群集の長期モニタリング。

#### <教育普及活動>

- ・水族館内の説明板や解説によるサンゴの紹介。修学旅行向けのサンゴ説明会の開催。
- ・沖縄県内の小中学校でのサンゴを使った出張理科教育を行う。

#### <保全>

- ・調査研究により得られたデータの一般公開。
- ・サンゴやサンゴ礁をわかりやすく解説したパンフレット等の作成、配布。

今後も、サンゴ礁に隣接するという沖縄美ら海水族館の立地条件を活かし、来館者にサンゴ礁生態系の情報を提供する施設として積極的な活動を展開したい。

### 海洋博公園前海域における造礁サンゴ群集モニタリング

山本広美、金谷悠作、永田俊輔、野中正法、山川英治、長田智史、小澤宏之（沖縄県環境科学センター）、岡地賢（コーラルクエスト）

海洋博公園は、1988年から、沖縄県本部町の海洋博公園前海域においてサンゴ群集調査を継続実施してきた。同海域のサンゴ群集は、1980年代末のオニヒトデによる食害と、1998年の白化現象によって大きく衰退した。しかし、礁池の一部ではサンゴ群集が回復し、2005年には沖縄県の重要サンゴ礁海域としてリストアップされるなど、現在は地域の重要な自然資源となっている。このようなサンゴ群集の保護に必要な基礎情報を収集するため、2006年から開始したモニタリング調査の結果を報告する。

モニタリング調査の方法として、礁斜面では、広域をカバーするマンタ法（全域）と詳細デ

ータを取得するフォトトランセクト法（5 地点×2 水深×5 測線）を組み合わせた。礁池では、サンゴ群集や藻場の輪郭を GPS トラッキングで取得するハビタットマップ調査を採用した。

調査の結果、本海域では 2006 年以降オニヒトデの大発生や顕著な白化現象は見られなかった。地点 B の水深 10m ではサンゴ被度が 9.0%から 18.3%に、地点 E の水深 6m では 7.0%から 14.9%にそれぞれ増加した。B ではキクメイシ類やハナヤサイサンゴ類、ミドリイシ類が主体であったのに対し、E ではハマサンゴ類が大部分を占めた。C と D の水深 3m ではサンゴ群集の回復が遅く、2009 年の被度は両者とも 3%未満であった。C、D ではサンゴの新規加入数は他地点と同等だが、加入後に何らかの要因で死亡し、被度の増加につながっていないのではと考えられる。礁池調査では、礁池北西部に位置する枝状コモンサンゴ群落が東よりへと拡大した。海洋博公園前海域のサンゴ群集は全般に回復傾向にあるものの、速度や群集構成は場所によって異なることが明らかになった。



---

## 板鰐類研究会シンポジウム

---

### 目的

平成 22 年 12 月 10 日に東京大学弥生講堂において、板鰐類研究会シンポジウムが開催された。本シンポジウムでは、サメやエイ類の研究に関する意見交換を行い、会員および関係機関相互の研究発展を図るための役割を担っている。沖縄美ら海水族館でも飼育生物やサメ類に関する生物学的調査研究を行っているため、調査研究内容を発表し、意見・情報交換を行い、今後の調査研究事業の発展に努める。

### 期間および場所

平成 22 年 12 月 10 日 東京大学農学部 弥生講堂（東京都）

### 概要（発表内容）

#### CT スキャンを用いたサメ類の機能形態

○佐藤圭一・内田詮三、仲谷一宏（北大）、荒井一利（鴨川シーワールド）

サメ類の機能形態学は、主に解剖学的所見に基づく調査、および画像解析によるデータに基づくものが主流であった。近年ではコンピューター性能の向上にともない、三次元の画像処理が可能となり、CT 画像や MRI 画像を立体構築した画像での解析が一般化しつつある。今回筆者らは、摂餌機構が明らかとなっていないミツクリザメについて、顎の突出機構の解明を試みた。千葉県金谷沖で採集された本種の冷凍標本を、SIEMENS 社製 CT スキャンにより断層撮

影し、画像解析ソフト AZE Virtual Place により 3D 画像解析した。その結果、本種の噛み付き過程において、最も収縮率の高い部位は、coraco-mandibularis（肩帯・下顎を結ぶ筋肉）、coraco-hyoideus（肩帯・基舌軟骨を結ぶ筋肉）、coraco-arcualis（肩帯・鰓弓を結ぶ筋肉）であることが推測された。また、突出に際して pre-orbitalis がやや収縮し、前方への突出に関与していることが確認された。ミツクリザメにおける顎の突出は、大きく弓を引くように下顎および舌弓が後方へ引かれ、弛緩と同時に両顎が突出、直後に quadrato-mandibularis（閉顎筋）が収縮し閉顎することが推定された。この過程は多くのメジロザメ・ネズミザメ類にも共通するが、本種は舌顎軟骨が顕著に長く、下顎および角舌骨との関節の可動域がきわめて大きいことにより、特異的な前方突出を獲得したと考えられる。本研究を実施するにあたり、シーメンスジャパン（株）および（株）AZE 睦元将吾氏に厚く御礼を申し上げる。

---

## 第 55 回日本動物園水族館協会・水族館技術者研究会

---

### 目的

日本動物園水族館協会主催の研究会に参加し、全国の水族館からの有用な情報を収集する。

### 期間および場所

平成 23 年 2 月 3 - 4 日 岐阜グランドホテル（岐阜県岐阜市）

### 概要（発表内容）

#### 麻酔を用いたジンベエザメの輸送・処置について

○山城篤、植田啓一、松本葉介、濱崎育恵、内田詮三

ジンベエザメ *Rhincodon typus* の輸送及び処置を行う際、網や輸送容器等に体を打ちつけ、擦過傷を負うことにより、摂餌開始の遅延が起きることがある。また、取扱い係員に対する危険性も生じる。これらを解決するため沖縄美ら海水族館では、ミダゾラム（マイナートランキライザー）及び麻酔薬であるプロポフォールを使用し、麻酔下輸送及び処置を実施した。

供試個体は定置網に入網した野生の 5 個体（全て雄）及び、飼育下の 5 個体（雄 2 尾、雌 3 尾）延べ 12 例（全長 476 - 780cm）で、ミダゾラム 17.0mg/ml（濃縮）及び、プロポフォール 10.0mg/ml を作業内容により選択的に投与した。実施期間は 2009 年 10 月 30 日から 2010 年 10 月 8 日で、実施時の海水温は 21.3 - 28.2℃であった。

投与薬剤の選択は、鎮静状態で作業可能な輸送及び定置網内での回遊調査作業（標識装着、採血、DNA サンプル採取等）などで、ミダゾラム 3.0 または 4.5mg/kg のみの筋肉内注射を行った。本処置による 6 例全てにおいて、22 分以内に着底等の鎮静状態を得た。また完全な不動化が必要な口腔内の駆虫処置及び仰臥位でのエコー検査などは、ミダゾラム 3.0 または 4.5mg/kg + プロポフォール 0.625 - 1.5mg/kg の静脈内注射を行った。本処置による 6 例全てにおいて 20 分以内に不動化を得た。しかしプロポフォール投与時は、6 例全てで呼吸抑制が認められ、2 例で呼吸停止、5 例で呼吸補助が必要となった。また、本処置による 12 例全てにおいて遅くとも翌日までには遊泳を確認し、飼育下個体では、疾病治療中の 2 個体を除き翌日には摂餌を確認した。

## 海水性白点病発生状況の数値化

○当真英之、内田詮三、戸田実

海水性白点病（以降白点病）は、飼育下での硬骨魚類の重大な斃死原因である。これまでの罹患診断は、魚体の外部観察に基づいているが、発生状況を客観的な指標を用いて把握することはできなかった。そこで白点病の発生状況を簡便・迅速に数値化し、それを治療に活用することを目的とする実験を行った。

実験には、沖縄美ら海水族館「熱帯魚の海」（容量 700m<sup>3</sup>、10.5×16.5×水深 2.5 - 6.6m）を用い、水槽内で、白点病による死魚が多数出現していた 2009 年 5 月から 1 年間（年平均水温 24.8℃、最高 29.6℃、最低 20.7℃）を行った。発生状況を表す指標として、白点病原として知られている *Cryptocaryon irritans* のシスト（被嚢体）に着目し、シスト採取用トラップを水槽内 6 定点に設置した。トラップは直径 8.6cm のシャーレに、450μm のミューラーガーゼを貼ったものを使用した。各トラップは 24 時間水槽内に設置し、毎朝 8:00 に観察を行った。回収したトラップはエオシンで常温下 30 分染色し、実体顕微鏡でシスト数を計測した。

その結果、モニタリング開始時の 2009 年 5 月では月平均シスト 1,857 個/m<sup>2</sup>・死魚数 157 尾、11 月には月平均シスト 172 個/m<sup>2</sup>・死魚数 7 尾、1 年後の 4 月には月平均シスト 529 個/m<sup>2</sup>・死魚数 9 尾へと変化し、1 年間のシスト数と死魚数には正の相関がみられた。さらに、1 日平均シスト数が 2,758 個/m<sup>2</sup>（シャーレ 1 枚あたりシスト数 16 個）以上採取された日の 5 - 7 日後には死魚数増加の傾向がみられた。

白点病発生状況の数値化は、飼育環境下における白点病の動態を推測する指標として有効であると考えられる。今後さらに精度を上げることにより、効果的な処置法に活用することが可能となる。

---

---

## 日本動物園水族館協会・九州沖縄ブロック 水族館技術者研究会

---

---

### 目的

九州沖縄ブロック 日本動物園水族館協会主催の研究会に参加し、他園館からの有用な情報を収集する。

### 期間および場所

平成 23 年 2 月 24 - 25 日 沖縄子ども未来ゾーン チルドレンズセンター（沖縄県沖縄市）

### 概要（発表内容）

#### クロウミウマの稚魚育成について

○若井万里子、竹本淳史

クロウミウマ *Hippocampus kuda* は、温帯 - 熱帯域のインド・西太平洋の浅海に生息する、全長 17cm に達するタツノオトシゴの仲間である。本種の産卵、産出、稚魚育成に成功したので報告する。

2010 年 5 月 14 日に産出された 343 個体の稚魚は、常時新鮮海水を掛け流した角型アクリル水槽 L340×W240×D300mm に移動し飼育した。育成環境は、水温 20.8 - 29.6℃（平均 24.5℃）、pH8.2 - 8.3、比重 25.80 - 26.92、注水量約 60L/時間であった。水槽内には、水中 LED 照明を

終日点灯させ、夜間アルテミア幼生を給餌するためにブライン連続孵化システム（日本動物薬品株式会社製）を設置、尾部の絡みつき用にサンゴ礫とナイロン製の紐を入れた。

産出当日からアルテミア幼生を給餌し、翌日には摂餌を確認した。アルテミア幼生の栄養強化は行わず、1日に4回の給餌を行った。3日後に着底個体を確認し、8日後に尾部を紐に絡みつける行動が観察された。11日後からアルテミア幼生と併せて冷凍コペポータを給餌、20日後までの生残率は約45%であった。その後、死亡は落ち着き、40日後から冷凍ツノナシオキアミ、冷凍アキアミを追加給餌した。53日後から更に冷凍ブラインシュリンプを給餌し、給餌当日から摂餌を確認した。しかし、冷凍ブラインシュリンプ給餌開始6日後から死魚が出始め、死魚の胃内にブラインシュリンプの未消化殻を確認したため、本餌料の給餌は中止した。結果、翌日から死魚は出なくなった。100日後、一部の個体の尾部腹面に縦走する暗色域が認められ、129日後それらの個体に育児嚢が確認された。

産出時全長1cm弱であった稚魚は、現在約7cmに成長し、93個体を継続飼育中である。水槽内にLED照明を終日点灯したことで、アルテミア幼生が照明に集まるため水槽内に留まる時間が長くなり、昼夜問わず給餌がより効率的に行えたため、育成が成功したものと考えられる。

### ナンヨウマンタ仔魚の育成管理

○金澤正悟，松本瑠偉，内田詮三

オニイトマキエイ属 Genus *Manta* ナンヨウマンタ *Manta alfredi* は、体盤幅4mを超える大型の魚類である。2007 - 2010年「黒潮の海」大水槽（35m×27m×水深10m 容量7,500m<sup>3</sup>）で飼育中の雌（体盤幅450.0cm）が毎年1尾ずつ計4尾（雄2、雌2）の仔魚を出産した。また、これとは別の雌（体盤幅378.0cm）が本部沖海上角形生簀（15m×22m×水深12m 容量4,000m<sup>3</sup>）で、2尾（雌2009年、雌2010年）を出産した。6尾の出産仔の平均体盤幅は183.5cm（172.0 - 192.0cm）、平均体重は60.4kg（51.9 - 70.0kg）で、成魚と比べ噴水孔の形状が後端にやや開いていた。

仔魚は遊泳力に乏しい為、2尾は陸上蓄養槽（11m×9m×水深2.5m 容量250m<sup>3</sup>）へ、残り4尾は海上円形生簀（Φ15m×水深6m 容量1,000m<sup>3</sup>）へ移動し育成を行った。陸上蓄養槽へ移動した2尾は、収容直後より壁面への接触、激突を繰り返し、2007年出産仔は生後5日目、2010年出産仔では17日目に死亡した。海上生簀へ移動した4尾は網へ激突する事はなく、遊泳速度は平均2.35km/hであった。餌付けは生後2日目より開始し、ナンキョクオキアミ *Euphausia superba* やサクラエビ *Sergia lucens* のミンチ、ツノナシオキアミ *Euphausia pacifica* 及び、冷凍コペポータを海水に溶かし投餌した。開始当初は、餌への回避や無反応で通過する行動が続いたが6 - 13日目で摂餌を開始し、23 - 47日目には安定した給餌が可能となった。1日あたりの摂餌量は魚体重の1 - 3%であった。飼育を行なった海上生簀の年間平均水温（2010年）は24.6℃（20.6 - 29.7℃）、平均pH8.3であった。4尾の仔魚は現在も飼育中で出生1年後の体盤幅は平均68.3cm（57.6 - 79.0cm）増加した。

### ヒメシマガツオの船上輸送と飼育方法の検討

○山田健太，金子篤史

ヒメシマガツオ *Brama dussumieri* は熱帯 - 亜熱帯域に分布する外洋性魚類である。本種は夜間、表層付近に大群で浮上する為、夜釣りによる採集が容易となるが、採集時の採集方法および輸送技術が確立していない。そこで、本種の長期飼育を目的として、採集後、船上での収

容方法を検討した。

採集は2010年11月 - 2011年1月、新月の夜間に沖縄県久高島沖(26° 02' N、128° 03' E)の水深30 - 90mで釣りをを行った。方法は一般的なサビキ釣りで、釣り針は返しを除去したものを使用した。設置した収容水槽は円筒形とし、以下の4パターンの収容方法を試みた。(1) 直径1.3m×高さ0.8m、1m<sup>3</sup>ポリエチレン製水槽の水面を掻き混ぜ水流を起こした。(2) 直径2.5m×高さ1.5m、トリカルネット製の生簀を船へ横付けした。(3) 直径1.3m×高さ0.8m、1m<sup>3</sup>ポリエチレン製水槽の内側に衝突防止の為、塩化ビニールシートを設置し、中央からのエアレーションにより、下から上への水流を付けた。(4) (3)と同様の水槽で、水流ポンプにより、内壁沿いに水流をつけた。

結果、(1) - (3)については、水槽内壁への衝突や擦れなどにより収容後1時間以内にほぼ全てが死亡した。(4)については、収容後直ちに流れに逆らって遊泳し、衝突を軽減することができた。以上により、本種の採集には、衝突防止と壁面に沿った水流をつける事が有効である事が分かった。水族館搬入後も(4)と同様の水流を付けたFRP水槽(直径2.0m×高さ1.2m)で飼育を行った。飼育最長日数は51日であった。しかし、水槽壁面への衝突や擦れにより、眼球突出及び白濁により横倒れし死亡する事が多く、長期飼育は今後の課題となった。

---

---

## 第35回 日本藻類学会

---

---

### 目的

沖縄美ら海水族館はサンゴ類やその他無脊椎生物、海藻などの飼育と調査研究を行っている。その研究成果は非常に意義のある貴重なものであり、結果を日本の研究者が集まる日本藻類学会において発表し、研究者との意見・情報の交換を行うことは水族館の目的である研究や生物保全につながる。

### 期間および場所

平成23年3月27 - 29日 富山大学五福キャンパス (富山県)

### 概要 (発表内容)

サンゴ礁に生育する海藻の情報を提供すると共に、研究・教育・保全につながる積極的な活動を展開したいと説明。モニタリングの手法から、データの公開方法まで、積極的な議論を交わせた。作成中のリーフレット『海藻のはなし』や、配布中のサンゴリーフレット、下敷きも好評だった。

#### 沖縄美ら海水族館における海藻モニタリングと普及啓発

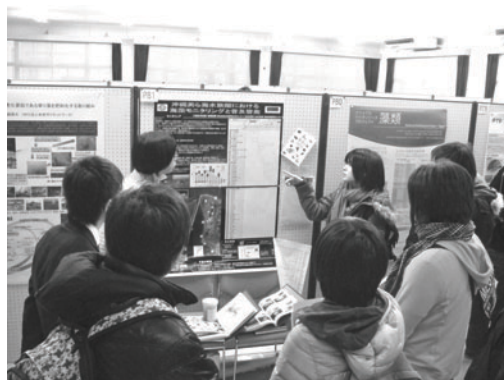
岩永洋志登、岩橋浩輔 (沖縄環境分析センター)、金谷悠作、山本広美

海藻・海草類は、造礁サンゴ類と同様に、サンゴ礁生態系を支える重要生物群である。しかし、サンゴ礁海域の海藻相に関する調査は一部の海域で行われているのみであり、さらにはモニタリングによる経時変化の確認はほとんど行われていない。そこで、沖縄美ら海水族館では、海洋博覧会記念公園地先における海藻・海草類の構成種や被度の経時的変化を明らかにすることを目的とし、2007年から2009年にかけて調査を行った。

サンゴ礁の代表的な地形に 11 の永久方形枠 (2m×2m) を設け、種数と被度を記録した。また、優占種や大型種など一部の種については藻体を採取し標本を作製した。

3 年間の調査から、海藻類 150 種 (緑藻 48 種、褐藻 24 種、紅藻 72 種、藍藻 3 種、珪藻 3 種)、海草類 4 種を確認した。過去に造礁サンゴが優占的に生育していた礁脚上や礁斜面の岩盤上では、褐藻のハイアミジグサ、ハイオオギ属、紅藻の無節サンゴモ類、イワノカワ属などの匍匐性または基質を覆う殻皮状の海藻類が優占した。今後も、造礁サンゴ類の長期モニタリングと組み合わせて当該海域におけるサンゴ礁生態系の動態を把握する。

上記野外モニタリングや飼育業務を通して得られたデータを活用し、海藻の姿かたち色の不思議さ、役割を一般向けに解説したリーフレット (案) を作成した。これからも来館者にサンゴ礁生態系の情報を提供すると共に、水族館の役割である研究・教育・保全につながる積極的な活動を展開したい。



平成 23 年度

---

---

## 造礁サンゴ増養殖技術の開発

---

---

### 目的

沖縄美ら海水族館で展示するサンゴを確保するため、有性生殖及び無性生殖によるサンゴの増養殖技術を開発する。

### 方法

#### (1) 無性生殖による増養殖

6 科 13 属 18 種 75 群体からペンチ・カッター・ハサミを用いて小片を切り取り、株分けを行った。切断したサンゴは水槽内に浮かべたカゴ内で養生し、共肉が切断面を覆ったのを確認した後、接着剤を用いて基盤に固定した。

#### (2) 有性生殖による増養殖

飼育しているウスエダミドリイシとコエダミドリイシから得られた卵と精子を交配・定着させ、稚サンゴの育成を行った。

### 今後の予定

有性生殖による増養殖において定着サンゴの生残率向上を目指すとともに、より効率的なサンゴ養殖技術の確立に向けて検討を行う。



---

---

## サンゴ生態調査

---

---

### 目的

海洋博公園地先での長期にわたるサンゴ群集のモニタリングデータをまとめ、その変移と傾向を明らかにするとともに、サンゴ礁のモニタリング方法の検討、さらには、サンゴ礁の管理と保全を行う上で有効な基礎データを集積する。

### 方法

過去 5 年間、礁斜面で行ってきた RC 法による生物調査を礁池（イノー）でも開始した。また、データ解析手法の事例調査を行い、普及啓発活動や他の調査研究に利用しやすくするため、1980 年以降のサンゴ関連調査報告書や付録写真集等のデータベースを作成した。

### 今後の予定

引き続き海洋博公園前海域の保全に資する科学的データの収集と、それを活用した普及啓発活動を展開する。

---

---

## ナンヨウマンタの麻酔を用いた拘束及び移動実験

---

---

### 目的

ナンヨウマンタ *Manta alfredi* は、長時間拘束した輸送において、暴れによる擦過傷が原因で死亡するケースが多い。これらを改善するため、麻酔を用いた拘束により擦過傷を軽減し、長時間輸送を安全に行うことを目的とする。

### 方法

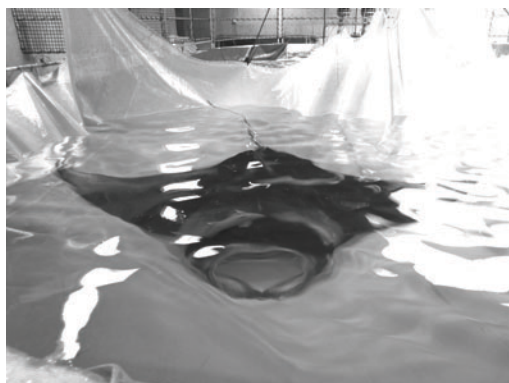
実験個体：ナンヨウマンタ♂ 体盤幅 276cm

実験場所：陸上蓄養施設、海上生簀

実験時間：12 - 24 時間（予定）

実験工程：麻酔を筋肉注射後、水槽内でシートにて拘束し観察

観察項目：呼吸数、口前及び鰓孔の溶存酸素量、体動（目視や触診による）





## 今後の予定

今回の実験は開放式水槽内で行ったため、水質管理は行わなかった。今後は閉鎖式水槽での長時間輸送も視野に入れ、輸送水槽の選定や水質管理の方法を含めた実験を行い、ナンヨウマシタの長時間輸送の技術向上を図る。

---

---

## 日本貝類学会平成 23 年度大会

---

---

### 目的

研究成果を発表するとともに、貝類全般について情報交換を行い最新情報の入手に努める。

### 期間および場所

平成 23 年 4 月 16 - 17 日 九州大学箱崎キャンパス (福岡県福岡市)

### 概要 (発表内容)

#### ハナゴウナ科 Eulimidae に属する貝類と沖縄産ナガウニ類の宿主選択関係について

○伊芸元、上原剛 (琉球大学)

日本におけるハナゴウナ科に属する貝は 182 種知られている。そのうち正形ウニ類に寄生する貝は 13 種類が知られている (Higo et al., 1999)。ナガウニ類の体内に寄生する貝では、ウチヤドリニナ *Robillardia cernica* が知られている (Habe, 1989) が、沖縄産ナガウニ類では、ヒメクロナガウニ *Echinometra oblonga* の体内からウチヤドリニナの寄生が確認されている (新垣, 1998)。

沖縄産ナガウニ類はこれまで 1 種とされてきたが、近年の研究からツマジロナガウニ *Echinometra* sp. A、ホンナガウニ *E. mathaei*、リュウキュウナガウニ *E.* sp. C、ヒメクロナガウニ *E. oblonga* の 4 タイプに分けることが適切であると報告されている (Matsuoka&Hatanaka, 1991; Arakaki et al., 1998)。

演者は沖縄本島 4 カ所において、これら 4 タイプのナガウニ類に対して寄生貝類との関係について調査したところ、ヒメクロナガウニにはウチヤドリニナ、ツマジロナガウニには *Monogamus* cf. *interspinea* Lützen 1976、ホンナガウニには、ガンガゼヤドリニナ近似種 *Echineulima* cf. *robusta* (Pease, 1860) とパイプウニヤドリニナ近似種 *Echineulima* cf. *mittrei* (Petit, 1851) そして *Monogamus* cf. *endopodia* Lützen 1976 の 3 種が確認された。リュウキュウナガウニへの寄生は確認されなかった。

ホンナガウニには *M.* cf. *endopodia* が寄生し、ヒメクロナガウニにはウチヤドリニナが寄生することから、これらの貝類が特定のナガウニ類へ寄生する宿主選択性が明らかになった。

ハナゴウナ科のそれぞれの種がナガウニ類に宿主選択性を示したのは、宿主となる沖縄産ナガウニ類それぞれの種が、平均低潮面に生息するタイプと波あたりが強い平均低潮面より上に棲むタイプのように生息環境の違いに深く関わりがあると思われる。

ツマジロナガウニに寄生していた *M.* cf. *interspinea* とホンナガウニに寄生していた *M.* cf. *endopodia* は日本新記録種である可能性が高いが、さらなる分類学的検討を加える必要がある。

## 目的

水族館における研究成果を発表し、魚類全般の最新情報に関する情報交換を行う。

## 期間および場所

平成 23 年 9 月 30 - 10 月 1 日 弘前大学文京町キャンパス（青森県弘前市）

## 概要（発表内容）

口頭発表 3 件 ポスター発表 2 件

### ジンベエザメの全長計測について

○松本瑠偉、松本葉介、内田詮三

飼育下における全長計測が困難なジンベエザメについて、背鰭前長から全長を推定するための換算式を求め、より正確な全長計測を可能とする方法を紹介した。

### 飼育条件下におけるウマヅラアジの仔稚魚の形態発育

○岡慎一郎、踊場秀兵

初期発生に関する報告がほとんど無いウマヅラアジについて、飼育下で得られた受精卵を材料として初期発生を観察し、詳細な形態記載を行った。

### エイ類の呼吸における第 5 鰓弓の特殊機能

富田武照（北大総合博）、○戸田実、山本雄士（北大院水産）、  
植田啓一、内田詮三、仲谷一宏（北大）

エイ類を初めとして、板鰓類に関する呼吸方法は一般に観察例が少ない。飼育下における観察により得られたデータ、およびエイ類の第 5 鰓弓についての形態学的データに基づき、第 5 鰓弓の機能形態学的考察を行った。

### 日本近海のサケガシラ属 *Trachipterus* 魚類の形態と学名の検討

○佐藤圭一、尼岡邦夫（北大）、戸田実

分類学的に問題の多いサケガシラ・テンガイハタについて、その識別形式と分布域を明らかにする報告を行った。

### 琉球大学理学部海洋学科所蔵標本の移管と新管理体制の構築

○宮本圭、吉野哲夫（元琉球大理）、岡慎一郎、戸田実

琉球大学より財団総合研究センターへ移管された吉野哲夫標本の現状と、今後の利用方法に関して、魚類研究者へ広く広報を実施した。

### 目的

当財団はサンゴ類やその他無脊椎生物、海藻などの飼育と調査研究を行っている。その研究成果は非常に意義のある貴重なものであり、結果を日本の研究者が集まる日本サンゴ礁学会において発表するとともに研究者との意見・情報の交換を行い、水族館の目的である研究や生物保全につなげる。

### 期間および場所

平成 23 年 11 月 3 - 5 日 沖縄県男女参画センター ているる  
6 日 沖縄県市町村自治会館ホール（沖縄県那覇市）

### 概要（発表内容）

口頭発表 1 件 ポスター発表 2 件

山本の口頭発表では、飼育サンゴの掛け合わせ実験と骨格の計測、および遺伝子解析によってサンゴの種と繁殖状態を調べた結果を報告するとともに、他分野と連携を取りながら生物研究を進めることが重要であると述べた。野中のポスター発表では、一昨年久米島にて行われた調査で採集された八放サンゴ類について、形態と遺伝子による属レベルの同定結果を報告し、沖縄の八放サンゴ相について新たな知見を得ることができた。永田のポスター発表では、種内変異や生息環境の違いに伴う可塑性による形態変異が著しいサンゴにとって、形態的特徴を数値化することは種ごとの形態変異の幅を把握するためにも必要であるという意見をいただいた。

#### 枝状ミドリイシの形態変異と繁殖成功

○山本広美、永田俊輔、鈴木豪（水研セ・西海区亜熱帯研）、磯村尚子（国立沖縄高専）

枝状ミドリイシ類は、サンゴ礁の主要なハビタットを形成し、熱帯・亜熱帯沿岸で重要な漁場となるなど、社会的価値の高い生物群である。しかし、その生物学的理解は十分とはいえず、特に分類的に未整理な部分が多い。そこで、枝状ミドリイシの主要種を対象に、野外と飼育下で形態変異および繁殖成功の比較を試みる。

沖縄美ら海水族館では野外から採取したトゲスギミドリイシ *Acropora intermedia* (Brook 1891) を 20 年以上飼育している。当初 76 本の枝だった同種は無性生殖を繰り返して、現在約 3,000 群体に増えたが、その過程で、サンゴ群体および個体の形状に変異がみられるようになった。本研究では、これらの試料を用いて、形態学的観察と交配実験、さらに遺伝子解析により、枝状ミドリイシの分類の再検討を行った。

飼育枝状ミドリイシを、放射サンゴ個体が管状で莖壁が厚い A タイプと、A タイプより放射サンゴ個体が小型のオトメミドリイシ *Acropora pulchra* に似る B タイプに分けた。飼育 A と B タイプ、さらに野外から採取した *A. intermedia* と *A. pulchra* について DNA を採取し、ミトコンドリア調節領域、5.8S ribosomal DNA (5.8S rDNA) 領域の塩基配列を用いて解析を行った。解析に使用した全群体から骨格標本作製し、デジタルマイクロスコップで撮影した。中軸、放射サンゴ個体の直径と突出を計測し、タイプ間および野外で採取した *A. intermedia* と *A. pulchra* との比較を行った。さらに、飼育 A と B タイプの遺伝子型と遺伝的な近さを明らかにするため、マイクロサテライトマーカーと AFLP による解析を行った。また、野外から採取した *A. intermedia* と、飼育 A タイプ・B タイプの交配実験をおこない、2010 年では 12

通りの組み合わせ全てにおいて、2011年には、34通りの組み合わせのうち30組で受精・発生を確認した。

以上の結果より、トゲスギミドリイシには複数の種内多型が存在することが示唆された。今後、この種内多型が環境応答変異または遺伝的な変異なのかを明らかにし、枝状ミドリイシの形態変異と生態学・生物学的関わりを解明したい。

### 飼育トゲスギミドリイシにおける形態の可塑性について

○永田俊輔、山本広美、野中正法

造礁性イシサンゴ類（以下、サンゴ）は、日本では約400種の生息が確認されており（Veron 1992）、熱帯から温帯における沿岸生態系の主要な動物群のひとつになっている。サンゴの分類は、主に骨格の形態的特徴の違いに基づいて行われるが、分類形質の少なさ、骨格形態の多型や著しい種内変異、そして生息環境への可塑性などがサンゴの分類を困難なものとしている（深見他 2010）。また、近年サンゴの分類にも分子生物学的手法が用いられ、従来の骨格形質による分類結果と調和的な分類形質の検討が求められている（Benzoni et al. 2007、Fukami et al. 2008 など）。

沖縄美ら海水族館では野外から採取したトゲスギミドリイシ *Acropora intermedia* (Brook, 1891) を20年以上飼育している。長期飼育間に、ミドリイシ属の同定の決め手となる放射サンゴ個体の形状に変異がみられ、同属内他種との形態的な区別が困難な群体が出てきた。

本研究ではWallace (1999) などに基づき、飼育群体の中で *A. intermedia* の形態的特徴が維持されている群体をAタイプ、変化した群体をBタイプとし、沖縄県本部周辺海域に生息する野外群体を採取し野外タイプとした。これら3タイプ間の形態的な違いを定量化するために、骨格の形態的特徴を詳細に観察し、デジタルマイクロスコープでデジタル画像を撮影した。それを基に各タイプ5群体ずつ、中軸サンゴ個体 (N=4) と放射サンゴ個体 (N=10) の外径および内径、突出度合を計測した。その結果、中軸サンゴ個体はBタイプが他の2タイプより大きく (平均  $2.6 \pm 0.2\text{mm}$ )、突出した (平均  $1.6 \pm 0.1\text{mm}$ )。放射サンゴ個体は、野外タイプが他の2タイプより大きく (平均  $1.5 \pm 0.1\text{mm}$ )、Aタイプと野外タイプがBタイプよりも突出した (平均  $2.0 \pm 0.2\text{mm}$ )。しかし今回計測した部位では、各タイプ間での明瞭な違いはみられなかった。

またBタイプと野外タイプについて、異なる水流条件下における可塑性の有無を検証するために実験を行なった。約1年間の飼育実験により、放射サンゴ個体の形状に若干の変化が確認できた。今回の発表では変化した部位を紹介し、今後は変化が確認できた部位を計測・定量化する予定である。

ミドリイシ属の分類・同定に重要な放射サンゴ個体の可塑性を明らかにすることで、分類形質の特定に貢献できる。これからも、枝状ミドリイシの分類形質について多方面から再検討を試みる。

### Octocorals of the Kumejima Expedition 2009, a molecular and morphological approach

○Frederic Sinniger (琉球大・熱生研)、Masanori Nonaka、  
Amy Baco (Florida State University)

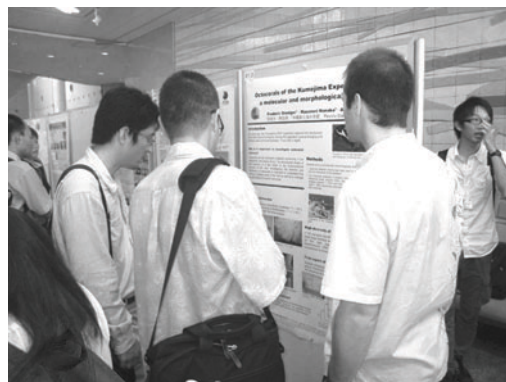
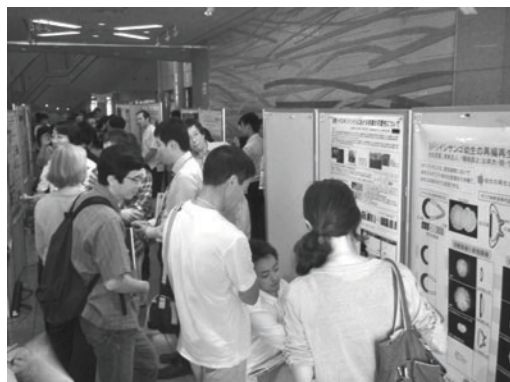
Two years ago, the "Kumejima 2009" expedition explored the biodiversity of the reefs around Kumejima. During this expedition several dredging and trawlings were performed between 15 and 200 m depth. Aside from the wide diversity of Crustaceans and molluscs

collected, numerous gorgonians and other octocorals have been sampled. Octocorals especially play a major role in the ecology and structure of the deep part of the reef although the high diversity of this community is still poorly known.

Here we present the first results of the morphological and molecular taxonomic examination of the material collected during this expedition. DNA sequences are used to clarify and refine some of the morphological identification as well as to understand the evolutionary relationships between the different groups of octocorals. In particular we will focus on a unique Melitheaidae species. This undescribed species was first mistaken with a Coralliidae (precious coral) due to the absence of visible nodes on the axial skeleton. Such nodes are typical of the family Melitheaidae. However, subsequent detailed examination of the polyps and axial sclerites clearly identified this species as a Melitheaidae. This case represents perfectly the amount of knowledge we still need to acquire in order to understand fully the biodiversity present at greater depths and its role in the ecology of the coral reefs around Okinawa.

「Kumejima 2009」と題した久米島周辺の生物相調査が行われ、水深 15 - 200m におけるドレッジやトロールを行い、節足動物、軟体動物などとともに様々な八放サンゴ類の標本が得られた。八放サンゴ類はサンゴ礁の比較的深いエリアでは優占する動物群であるにもかかわらず、知見は非常に少ない。

本研究では、形態と遺伝子の情報から分類学的考察を行った。今回注目したのは、ユニークなイソバナ科未記載種の標本で、本科の特徴である明瞭な節部を欠くため、サンゴ科（宝石サンゴ類）と見間違ふほどであった。しかし、ポリプや骨軸骨片の詳細な検証によりイソバナ科と同定された。このケースは、沖縄のサンゴ礁における多様性を理解するうえで、まだまだ未知の部分が多いことが分かるよい例であろう。



---

---

## 日本動物園水族館協会・九州沖縄ブロック 水族館技術者研究会

---

---

### 目的

日本動物園水族館協会九州沖縄ブロック主催の研究会に参加し、他園館からの有用な情報を収集する。

## 期間および場所

平成 24 年 1 月 28 - 29 日 ホテルセントラーザ博多（福岡県）

## 概要（発表内容）

### クロボヤ属の一種 *Polycarpa* sp. cf. *clavata* の飼育観察

○谷本都、西川輝昭（東邦大学）、宮原弘和

シロボヤ科クロボヤ属の *Polycarpa clavata* は、北西および西オーストラリア、ニューカレドニアの水深 10 - 50m のサンゴ礁域に生息する大型の単体ボヤである。本邦では過去に採集の記録はなく、その生態に関する情報は少ない。最近当館により、この種と形態的に類似したクロボヤ属の一種（*Polycarpa* sp. cf. *clavata* と表記）が 2009 年 11 月に久米島沖水深約 130m から 2 個体、2011 年 7 月に伊是名島沖水深約 200m から 5 個体採集されたため、詳細な飼育観察を行った。このうち 2 個体は飼育後解剖して同定と観察を行った。

採集は無人潜水艇（ROV）で行い、本種がヤギ類などに付着している様子を観察した。飼育は角型 FRP 水槽（約 20t、560×300×H150cm、18℃）及び角型アクリル水槽（約 100L、48×35×H58cm、18℃）で行った。体は長い柄が入水孔付近から伸び、付着基質を包み込むように付着していた。被囊は柔らかく、体色は黄色または黄白色で、個体により本体部分は赤橙色を帯びていた。大きさは柄を含む全長が 8 - 23cm、本体部分が 3 - 7.5cm であった。

飼育後 40 日以内にすべての個体が脱皮様に被囊を脱ぎ、付着場所を移動した。移動前には、体表に粘着力のある粒状突起が増え始めた。柄部より被囊を脱ぎ、本体部分に脱いだ被囊が溜まっていった。脱皮には約 3 日かかった。脱皮後は体壁の収縮運動と水槽内の流れを利用して数 m 移動をする個体もいた。新しい付着場所では粒状突起で仮付着後、約 4 日かけ包み込むようにしっかりと付着した。仮付着時に再度移動する事例もあった。脱皮後は柄部が短くなり、本体もやや小さくなった。このような行動は *P. clavata* でも確認されているが、その様式に違いがみられた。

観察の結果、本種は *P. clavata* と異なる生息域、付着基質が明らかになった。また脱皮・移動の特徴的な行動も確認でき、その様式は *P. clavata* とは異なるものであった。今後は成熟個体を得て、同定を種レベルで行うとともに、内部形態の特徴を明らかにしたい。

---

---

## 第 56 回 日本動物園水族館協会・水族館技術者研究会

---

---

### 目的

日本動物園水族館協会主催の研究会に参加し、全国の水族館からの有用な情報を収集する。

## 期間および場所

平成 24 年 2 月 2 - 3 日 山口県国際総合センター（山口県下関市）

## 概要（発表内容）

### 飼育下における海水性白点虫のシスト動向

○当真英之、宮原弘和、内田詮三、戸田実

海水性白点病の原因虫である *Cryptocaryon irritans* は大きく 4 つの生活史（トロホント寄生期、トモント離脱期、シスト定着期、セロント遊泳期）を持つ。本研究では、白点病から飼育個体への影響を低減させる処置法確立の一つとして、シスト期移行前のトモントを効果的に減少させる方法の開発を目指し、シスト採捕トラップを使用し、シストの発生時間帯を明らかにする実験を行った。実験は自然光下条件で 4 回行った。実験 A は白点病に感染したセンネンダイ *Lutjanus sebae* (39cmTL, 2.5kg) 1 尾、実験 B はカスミチョウチョウウオ *Hemitaurichthys polylepis* (平均 14.5cmTL, 70g) 20 尾を収容し、24 時間、3 時間毎にシストの計数を行った。さらに詳細なシスト動向を把握する為、実験 C はカスミチョウチョウウオ 20 尾収容水槽の 1 時間毎のシスト数、実験 D はサンゴ礁域に生息する魚類 11 種 37 尾の 1 時間毎のシストを計数した。実験 A および D は、1m<sup>3</sup> 円形水槽を用い、それぞれ 2009 年 11 月 27 日、2011 年 12 月 14 日、実験 B は、2.5m<sup>3</sup> 角型水槽を用い、2011 年 1 月 23 日、実験 C は、0.5m<sup>3</sup> 円形水槽にて 2011 年 4 月 16 日に実施した。シスト採捕トラップは、475 $\mu$ m のミューラーガーゼを直径 8.6cm のシャーレの底面に張ったものを用い、水槽底面中央部に設置。トラップは水中でシャーレに蓋をして取り上げた後、運動性のあるトモントを定着性のシスト期に移行するまで室内で 3 時間放置し、検鏡・計数を行った。その結果、実験 A は午前 3 - 6 時に全トラップ採捕シスト数の約 73%、実験 B は午前 5 - 8 時に約 55%、実験 C は午前 5 - 7 時に約 55%、実験 D は 5 - 7 時に約 50% を占め、早朝に最も多く採捕された。以上より、シスト期移行前のトモントの多くは夜明け前に魚体より離脱すると推測され、同時間帯に微細エアによる泡沫分離を行うことで、白点虫のトモントを効果的に減少させる可能性が示唆された。

## (2) 教育普及活動

平成 22 年度

### 沖縄工業高等専門学校「創造演習」 サンゴ礁保全における水族館の役割

#### 目的

沖縄高等工業専門学校 2 年次で開講される「創造演習」で環境をテーマにサンゴおよびサンゴ礁保全の演習を行う。そこで、海洋生物の飼育展示、研究や保全を行う財団職員が、仕事の内容や海の現状について講義をした。

#### 期間および場所

平成 22 年 4 月 16 日 沖縄工業高等専門学校（沖縄県名護市）

#### 概要

1 時間半の講義を行った。「創造演習」では、テーマである「環境」のなかで、サンゴ礁保全における水族館の役割について、また飼育展示だけではなく、サンゴ礁生物についての教育・普及活動への展開も紹介した。水族館とはどのような施設であり、飼育係の仕事とはどのようなものであるかを紹介し、さらに、飼育生物であるサンゴの生物・生態的側面、サンゴの危機にまで広げて講義を行った。講義終了後のアンケートでは、飼育係の仕事が多岐にわたることへの驚きと、サンゴ礁とサンゴ、そしてサンゴ礁が直面する環境問題を改めて考えたという意見が多かった。飼育係として、一番きつかったこと、楽しかったことは何か？ なぜオニヒトデが増えたのか？ 水族館としてこれからどんなことを展開していくのか？ などの質問が寄せられた。



### GW 特別展「海の危険生物展」

#### 目的

人々が海へ出る機会が多くなる夏の海水浴シーズンに向け、来場者に海の危険生物に関する情報を得る機会を提供する。



## 期間および場所

平成 22 年 4 月 29 日 - 5 月 9 日 (11 日間)

沖縄美ら海水族館 4 階 イベントホール

## 概要

沖縄の海にすむ危険生物の生態とその応急処置について、12 点の解説パネルの他、模型、標本、実体顕微鏡、ビデオ映像を活用して紹介した。更に、子ども連れが多くなるゴールデンウィークにあわせて、パズルをしながら危険生物について学べるコーナーを設置した。また、危険生物に関するクイズを用意し、参加者にはクイズ解きを通して危険生物についての理解を一層深めていただいた。

参加者数：8,029 名



---

---

## 特別展「サンゴの卵・幼生観察」

---

---

## 目的

「サンゴの海」展示水槽内で放卵したサンゴの卵や幼生を一般の来館者に肉眼および実体顕微鏡を用いて観察してもらい、サンゴという動物について、その生活史やサンゴ礁環境における役割などをこの観察会を通じて普及啓発することを目的とする。

## 期間および場所

平成 22 年 6 月 1 - 10 日 (10 日間)

沖縄美ら海水族館 3 階 「サンゴの海」水槽前

## 概要

イベント用タッチプール水槽を使用して、「サンゴの海」水槽で採取した卵と幼生を展示した。

- (1) 飼育水槽（サンゴの海水槽）で採取された卵と幼生を展示（イベント用タッチプール水槽を使用）
- (2) 大型ディスプレイと実体顕微鏡にて、サンゴの卵と幼生、定着した稚ポリプ、成長したサンゴの骨格などを観察
- (3) サンゴ系係員、解説員、サンゴに関する研究を行っている琉球大学の学生による解説
- (4) サンゴについての一般的な解説パネル

今回実施した観察会の目的は、十分達成できたと思われる。産卵時期でもあり、参加者はサンゴという生物に深い関心を示していた。水族館生まれであるということや、幼生が小さいこ

とに驚き、熱心に観察・質問する入館者が多かった。また、今回は今までで最多の参加者を記録した。参加者数：17,269名（入館者数の約32%）



---

---

## 「まるごと沖縄クリーンビーチキャンペーン2010」パネル展示

---

---

### 目的

沖縄クリーンコーストネットワーク（事務局 第十一管区海上保安本部）主催「まるごと沖縄クリーンビーチキャンペーン」の一環として、クリーンビーチ活動を紹介したポスターや、環境の悪化によって苦しむ生き物たちを紹介したパネルの掲示を行うことにより、海洋環境保全の普及啓発を行った。

### 期間および場所

平成22年6月15日 - 7月31日（46日間）

沖縄美ら海水族館 1階 出口前ポスター掲示コーナー

### 概要

「まるごと沖縄クリーンビーチキャンペーン2010」の期間中、沖縄美ら海水族館では、環境の悪化によって苦しむ生き物たちを紹介した「海洋環境パネル展」実施。展示内容は、クリーンビーチ活動を紹介したポスターや、ゴミによって苦しむ生物のパネルの掲示、また、漂着ゴミの実物を展示することにより、ゴミのポイ捨て防止や海洋環境保全意識の高揚を図った。



---

---

## 第11回国際精子学シンポジウム サテライト・シンポジウム

---

---

### 目的

平成22年6月24 - 29日の日程で、第11回国際精子学シンポジウムが沖縄コンベンションセンター及び万国津梁館で開催された。世界の一線級の研究者が沖縄に集う機会であるため、

総合研究センターにて、この学会のサテライト・シンポジウムを「**Reproductive Biology of Aquatic Organisms -researches from the tropical to temperate zone-**」と題して開催した。国内外の研究者 16 名を招聘し、各種海洋生物の繁殖に関するセッションを行い、研究の発展に寄与することを目的とする。また、広く一般の人々への知識の普及啓発を目的として、市民公開講座も別途開催した。

#### 期間および場所

一般講演：平成 22 年 6 月 26 日 名護市民会館（名護市）

サテライト・シンポジウム：平成 22 年 6 月 30 日（総合研究センター）

#### 概要

国内外の動植物の繁殖に関する研究者 16 人を集め、昨今の研究成果についての講演及び、研究発表を実施した。30 日に行われたサテライト・シンポジウムでは、口頭発表 12 題、ポスター発表 16 題が実施され、全て英語で行われた。内容は多岐に渡り、魚類の性決定、性転換、サンゴ類、板鰓類、鯨類、ウミガメ類、二枚貝類、エビカニ類、海藻類の繁殖などであった。魚類課・海獣課からも口頭 1 名、ポスター 3 名の発表を行った。

それに先立ち、6 月 26 日午後からは、琉球大学農学部建本准教授による「沖縄在来豚アグーの増殖効率アップを目指した挑戦」、鶴岡市立加茂水族館奥泉副館長による「クラゲの不思議：驚異の増殖法」、中京大学国際教養学部桑村教授による「サンゴ礁魚類の社会と性転換」と題して 3 題の一般講演が行われた。

参加者数： 6 月 26 日 50 名

6 月 30 日 70 名

#### 【口頭発表】

Sex Determination and Sexual Plasticity in Fish. 長濱嘉孝（基礎生物学研究所）

Fungioid Corals: Ideal Model Organisms to Study Evolution of Coral Reproductive Traits. Yossi Loya（テルアビブ大学）

Development of Gonads in some Coralliidae Corals (Cnidaria; Anthozoa; the Octocorallia) collected from Ryukyu Archipelago. 野中正法（沖縄美ら海水族館）

Hormones and Reproduction in the Scleractinian Coral. Ching-Fong Chang（台湾国立海洋大学）

Germ Cell Transplantation in Fish: Basic Biology and Applications. 吉崎吾朗（東京海洋大学）

The Diversity of Reproduction in Elasmobranchs. 田中彰（東海大学）

Killer Whale and Walrus in Human Care-Copulation -Giving Birth and Rearing Calves-. 勝俣悦子（鴨川シーワールド）

Morphology and Cryopreservation of Cetacean Sperm (Brief Review). 吉岡基（三重大学）

Researches on the Artificial Insemination Technique of the Hawksbill Turtle in Okinawa, Japan. 澤向豊（酪農学園大学）

Dynamics of ATP and Movement in Eurasian perch *Perca fluviatilis* L. Sperm in Conditions of Multiple Activation. Otomar Linhart（University of South Bohemia）

Black Pearl Oyster Culture in French Polynesia. Jacky Cosson（Universite Pierre et Marie Curie）

Fertilization and Zygote Development of the Brown Algae. 本村泰三（北海道大学）

#### 【ポスター発表】

Sex change in grouper - the endocrine prospective. Mohammad Alam（琉球大学）

Ultrasonography for Pregnancy Diagnosis and Fetal Condition in Aquatic Animals. 植田啓一（沖縄美ら海水族館）

- Involvement of light in daily activity in the banded coral shrimp *Stenopus hispidus*. 江坂百合子 (琉球大学)
- Changes in Blood Biochemistry Values before and after Administration of Sex Hormones in Captive Female Hawksbill Turtles. 河津勲 (沖縄美ら海水族館)
- ARIS proteins - conserved egg coat protein in marine invertebrate deuterostomes. 成瀬昌広 (慶応大学)
- Effect of temperature and photoperiod on the ovarian development and spawning performance of a tropical damselfish *Chrysiptera cyanea* during different phases of reproductive season. Mohammad Abu Jafor Bapary (琉球大学)
- How alternative mating tactics affect sperm strategies? A comparison between two squid species. Iwata Y (Royal Holloway University of London)
- Attempt in separation of cryopreserved fish spermatozoa to obtain a fraction with higher motility, velocity and membrane integrity by Percoll gradient. Ping Li (University of South Bohemia)
- Rapid and simple sex identification of critically endangered Formosa landlocked salmon by loop-mediated isothermal amplification. Te-Hua Hsu (National Taiwan Ocean University)
- Reproductive role of urogenital papillae of gobiid fish: Histological observation of the genital ducts in *Trimma okinawae*. 小林泰久 (琉球大学)
- Size determination of *Acipenser ruthenus* spermatozoa in different types of electron microscopy. Martin Psenicka (Research Institute of Fish Culture and Hydrobiology, Czech Republic)
- Reproduction of Manta rays (*Manta birostris*) in Captivity. 松本葉介 (沖縄美ら海水族館)
- Expression of *Jak1* gene immediately after initiation of spermatogenesis in *Xenopus* spermatogonium. 百武啓一郎 (熊本大学)
- Induction of sex change in vitro in protogynous wrasse, *Halichoeres trimaculatus*. 堀口亮 (琉球大学)
- Molecular cloning, characterization, and expression of iodothyronine deiodinases (Type II and III) in the liver of orange-spotted spinefoot, *Siganus guttatus*. Wambiji Nina (琉球大学)
- Sexual plasticity in Nile Tilapia, a gonochoristic fish. Sabina Ruksana (琉球大学)

---



---

「43rd Sony Aquarium 3D 沖縄美ら海水族館」  
～うつくしい海は、にぎやかな海です。～

---



---

## 目的

沖縄観光コンベンションビューローとのタイアップ事業の一環として、43rd Sony Aquarium 3D 沖縄美ら海水族館の運営に全面的に協力した。東京 銀座のソニービルを会場とした同催事では、ソニーの最新 3D 映像技術を用いた映像コンテンツで沖縄美ら海水族館の魅力を紹介するとともに、ビル内装飾や展示水槽の監修、沖縄美ら海水族館出張授業の開催、水族館スタッフによる水槽解説、内田館長による特別講演会の実施などを通じて、沖縄美ら海水族館の PR および教育普及事業を実施した。このほか JTB と連携した PR 活動を行うことで、沖縄県への効果的な誘客促進を図った。

## 期間および場所

平成 22 年 7 月 19 日 - 8 月 31 日 (44 日間)

ソニービル (東京都中央区)

## 概要

### 【出張授業】

Sony Aquarium の特別企画として、主に親子を対象にした出張授業を実施。講演会では、沖縄のサンゴや熱帯魚、危険ザメ、深海生物について各講演テーマの生き物についてスライドを用いて紹介した。各講演の最後には、ハンズオンによる解説を行った。触れる標本の活用は、生き物の生態や仕組みに対する参加者の理解を促し好評であった。

### 【水槽解説】

今年から開催の水槽解説は、予め設定した時刻に水槽前に集まった参加者に加え、その周辺で水槽を観察している人たちを対象に 15 - 20 分程度行った。屋外水槽では主にサメ・エイ類について、屋内水槽ではサンゴ礁魚類についての解説を実施した。解説は参加者に分かり易いようにパネルを見せながら行い、魚類の繁殖生態や食性などを紹介した。



ソニービル内の円柱水槽（直径 2m）



屋外の大水槽（水量 14t）

### 【特別講演】

ソニーアクアリウムでの出張講演を行って今年で 4 年目となるが、今回初めて内田館長による講演を実施した。これまでの講演は「親子」を対象としたものであったが、今回は対象を大学生や社会人と定め、多くの聴衆を集め講演を開催することができた。

講演のタイトルは「沖縄サメ物語」となっていたが、内容はサメの生態に限らず、内田館長の水族館とかかわってからの半生も含め、鯨類、海牛類の研究の成果、水族館経営のノウハウにかかわることなど、多様を極めた。

聴衆の半分ほどは学生と見られる若い世代で、多くはメモを取り、真剣に話を聞いていた。また、東京近郊の水族館関係者と見られる方々も多数参加されており、一時間という長い講演であったにもかかわらず、集中した雰囲気の間時間が流れていくのを感じた。

講演日	演題	講演者	参加数
7月31日・8月1日	ジンベエザメに注射！ -海の獣医のお仕事-	柳澤牧央	117組370人
8月7・8日	デザイナーもびっくり！ 美しく不思議なサンゴ礁の生き物たち	野中正法	109組344人
8月9日	沖縄サメ物語—美ら海水族館の世界的成果	内田詮三（館長）	115人
8月14・15日	人食いサメっているの？	松本葉介	108組352人
8月21・22日	居た！真っ暗世界・深海の生き物たち	金子篤史	88組265人

### 【水槽解説】 1回 15分

金曜日 ①17:00 ②18:00

土曜日 ①14:30 ②15:00 ③15:30 ④17:00 ⑤18:00

日曜日 ①14:30 ②15:00 ③15:30 ④17:00 ⑤18:00



---

---

## 夏休み特別展

### 「世界最大の巨鮫、ジンベエザメ ～美ら海スターの真の姿～」

---

---

#### 目的

「沖縄美ら海水族館では、開館以来3尾のジンベエザメを展示し、最も注目度の高い展示生物となっている。また本年3月には、世界初の飼育下繁殖に向けてメスのジンベエザメを搬入し、マスコミ等にも大きく取り上げられた。そこで夏休み期間中、ジンベエザメに焦点を当てた特別展を実施し、本種の生態や繁殖に関する知見を紹介するとともに、繁殖に向けた当館の取り組みについて情報発信した。

#### 期間および場所

平成22年7月24日 - 8月31日 (39日間)

沖縄美ら海水族館 4階 イベントホール

#### 概要

- (1) パネル展示：本種の生態や、当館での捕獲・輸送・飼育方法等をパネルで解説
- (2) 標本展示：ジンベエザメの胎仔、顎、皮フ、その他サメ・エイ類の液浸・乾燥標本展示
- (3) 映像放映：輸送・飼育シーンをモニターにて常時放映
- (4) クイズ実施：ジンベエザメに関するクイズを実施
- (5) PRグッズ配布：ジンベエザメ・ステッカーを作成し、クイズ正解者に配布

注目度の高い生物を対象としたこともあり、午前中から多くの来場者があった。結果、開催期間中の来場者数は61,164名を記録した(水族館入館者数の約16%)。1日の平均来場者数は1,610名で、昨年夏に実施した企画展の平均来場者数595名の2.7倍となった。

参加者数：61,164名 (入館者数の約16%)



会場



ジンベエザメ胸ビレ乾燥標本

---

---

## 「水路記念日」海洋情報パネル展

---

---

#### 目的

第十一管区海上保安本部が、日本の海図作成がスタートした水路記念日の9月12日に合わせて、多くの来館者が訪れる沖縄美ら海水族館においてパネル展を開催し、海の情報を発信する海洋情報業務の周知を図るとともに、来館者へ海の安全利用に関する普及啓発を実施した。

## 期間および場所

平成 22 年 8 月 16 日 - 9 月 16 日 (31 日間)

沖縄美ら海水族館 1 階

出口前ポスター掲示コーナー



## 概要

海図などを活用して海の成り立ちや自然現象を紹介し、毎年多発する海難事故、特にリーフカレントによる事故の回避方法などを紹介した。

---

## 琉球大学 講義 沖縄の環境と社会

---

## 目的

琉球大学教育学部自然環境教育コースは、環境の思想や環境倫理と呼ばれている問題を学生に教えている。そこで海洋生物の飼育展示、研究や保全を行う水族館の職員が、仕事の内容や海の現状について講義を行うことは、水族館の目的である教育や普及啓発につながる。

## 期間および場所

平成 22 年 12 月 20 日 琉球大学教育学部 (沖縄県西原町)

## 概要

琉球大学教育学部自然環境教育コースでは、環境の思想や環境倫理と呼ばれる問題についての講義を行っている。環境問題と向き合い、普遍的な人類の課題として考えること、あわせて、自分の身の回りにある、生活とかかわる事柄として受け止めることを学ぶ。

今回、環境に携わる仕事ということで、水族館の役割と飼育係について、1 時間半の講義をおこなった。水族館とはどのような施設であり、飼育係の仕事とはどのようなものであるかを紹介し、さらに、飼育生物であるサンゴの生物・生態的側面、サンゴの危機にまで広げて講義をおこなった。講義終了後のアンケートでは、飼育係の仕事が多岐にわたることへの驚きと、サンゴ礁とサンゴ、そしてサンゴ礁が直面する環境問題を改めて考えたという意見が多かった。



---

---

## 平成 23 年正月干支水槽展示

---

---

### 目的

干支にちなんだ水槽展示を行い、来館者の正月気分を盛り上げる。

### 期間および場所

平成 22 年 12 月 26 日 - 平成 23 年 1 月 3 日 (9 日間)

沖縄美ら海水族館 3 階 「サンゴの海」水槽前

### 概要

#### (1) 円柱水槽 (水量 1t、直径 1m)

12 月 26 日から 31 日までは、黒い着物風の装飾を施した。また、1 月 1 日から 3 日までは、華やかな花笠をモチーフとした装飾に変えて、展示を行った。

展示生物：アイゴ科魚類 (英名：ラビットフィッシュ)

アイゴ 11 尾、ヒフキアイゴ 8 尾、ヒメアイゴ 3 尾、アミアイゴ 1 尾、ハナアイゴ 1 尾

#### (2) 角型水槽 (水量 25L、30×30×30cm)

英名で“海の野うさぎ”と呼ばれるアメフラシの仲間、タツナミガイを 2 個体展示。

#### (3) パネル

今年の干支「卯」が名前につく海洋生物をパネルで、クイズを交えて紹介した。また、ウミウサギガイと同じ、外套膜を持つタカラガイ科の貝殻を展示した。

#### (4) サンゴ礁への旅個水槽

ウミウサギガイ科のウミウサギガイとセムシウミウサギガイを生体展示した。ソフトコーラルを食べる食性もあわせて解説し、ウサギのマークと、魚名板の色を変更することで干支水槽の展示を行った。

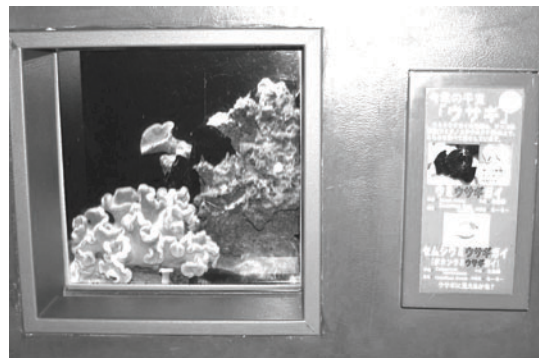
ラビットフィッシュという英名の由来となっているアイゴ類の顔立ちを観察し、花笠をモチーフにした装飾と合わせて写真を撮るお客さんが多くいた。また、ウミウサギガイの卵の文字と一緒に写真を撮る方や、タツナミガイの生体を観察しているお客さんも多かった。また、パネルや標本等の前でじっくり観覧しているお客さんもあり、博物館的要素を取り入れた展示をすることができた。



ウサギのロゴマーク



干支水槽



サンゴ礁への旅個水槽の展示



---

---

## 「世界らん展 2011 日本大賞」水槽出展

---

---

### 目的

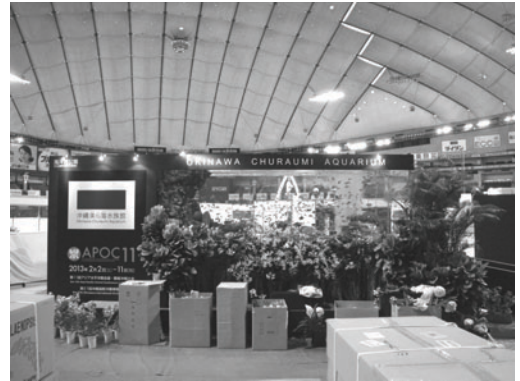
国内外で最大規模をほこる世界らん展において、海洋博公園・沖縄美ら海水族館の魅力を PR した。

### 期間および場所

平成 23 年 2 月 15 - 18 日 水槽設営  
18 - 27 日 審査会及び内覧会（18 日）、一般公開  
28 日 水槽撤収  
東京ドーム（東京都文京区）

### 概要

会場となった東京ドームにソニーアクアリウムで使用している 14t 大型水槽を 1 基設置した。らんと  
の競演をテーマに、水槽にはハナダイやスズメダイ  
類など華やかな色彩の小型魚を約 30 種 1000 尾展示  
した。期間中多くの来場者が水槽を訪れ、大盛況で  
あった。



---

---

## 「名古屋フラワードーム 2011」水槽出展

---

---

### 目的

名古屋フラワードーム 2011 において、海洋博公園・沖縄美ら海水族館の魅力を PR した。

### 期間および場所

平成 23 年 3 月 9 - 10 日 水槽設営  
10 - 14 日 審査会及び内覧会（10 日）、一般公開  
14 日 水槽撤収  
ナゴヤドーム（愛知県名古屋市）



PR スペース



展示水槽

## 概要

会場内 PR スペースに幅 2m の水槽を 1 基設置した。水槽内には、ハナダイやスズメダイ類を中心とした約 17 種 165 尾を展示した。イベント初日に東日本大震災があり、名古屋でも震度 3 を記録した。揺れた水槽から少量の海水が溢れたものの大きな被害はなく、4 日間のイベントを無事終了した。

---

---

## 美ら海移動水族館

---

---

### 目的

沖縄県内の福祉施設・病院の利用者及び離島住民等、沖縄美ら海水族館への来館が困難な方々を対象に、レクリエーション・普及啓発及び水族館の広報を目的とした展示を現地にて行う。

### 概要

- (1) 活魚車水槽による魚類展示
- (2) タッチプール（棘皮動物他）
- (3) サメ・エイ類の顎、皮、卵殻等の標本を展示し、生態を解説
- (4) 危険生物の標本を展示し、生態を解説（リーフレット・ポスター配布）
- (5) プラスチネーション標本を展示し、海洋生物の生態を解説
- (6) ゴミ問題に関する標本及びパネル展示
- (7) パネル展、その他（ぬりえ、クラフト、ステッカー配布等）

今年度、県内 11 箇所で開催した移動水族館への参加総数は 5,876 名であった。国立ハンセン病療養所や病院、老人ホームなど、外出が難しい方々が入所されている施設を中心に移動水族館を実施した結果、施設の皆様には大変喜んでいただけた。今後は、より一層訪問先のニーズに合わせた展示が出来るよう、魚種及び標本等の充実を図りたい。

平成 22 年度来場者総数：5,876 名

	実施日	施設名	参加者数
1	5月20日	生活介護センター彩風の杜ぎのわん・ はーとデイサービス宜野湾（2 施設同時開催、宜野湾市）	約100
2	6月12・13日	久米島海洋深層水ふれあい館・ 久米島町具志川農村環境改善センター（久米島町）	1,316
3	6月20日	北中城村しおさい公苑（北中城村）	300
4	7月30日	国立病院機構沖縄病院（宜野湾市）	541
5	8月14日	指定生活介護事業所みさき（沖縄市）	226
6	8月20日	沖縄県立北部病院（名護市）	558
7	9月22日	特別養護老人ホームありあけの里（浦添市）	371
8	9月24日	南部医療センター（南風原町）	約1,200
9	10月1日	医療法人天仁会天久台病院（那覇市）	561
10	10月26日	国立療養所沖縄愛楽園（名護市）	約300
11	11月29日	北部地区医師会病院（名護市）	403



北中城村しおさい公苑



国立療養所沖縄愛楽園

---



---

## 職場体験学習

---



---

### 目的

総合学習の一環として広く取り入れられている「職場体験学習」は、県内においても一般企業の協力の下で実施されている。当財団も、この趣旨に賛同し、県内の主に小学生、中学生、高校生を対象に受け入れを行う。

### 概要

小学校1校4名、中学校9校33名、高等学校6校32名、専門学校1校6名、本部町内初任者及び10年経験者教諭7名の飼育体験を実施した。魚類課教育普及係の注視のもと、各課の飼育担当者が生徒の指導を行った。

	実施日	学校名	学年	人数
1	6月12日	名護市立大宮小学校	6	4
2	6月16日・18日	沖縄ウエル・スポーツ専門学校	2	6
3	6月29日 - 7月1日	本部町立瀬底中学校	2	1
4	6月29日 - 7月1日	本部町立本部中学校	2	2
5	7月26 - 29日	本部町立上本部中学校	2	2
6	8月3日	本部町教育委員会	教諭	7
7	8月11 - 13日	沖縄県立北部農林高等学校	2	5
8	9月13 - 16日	今帰仁村立今帰仁中学校	2	6
9	9月16 - 17日	沖縄県立盲学校中学部	2	1
10	10月5 - 8日	沖縄県立沖縄水産高等学校	2	3
11	10月20 - 22日	沖縄県立名護商工高等学校	2	6
12	11月2 - 5日	沖縄県立本部高等学校	2	6
13	11月8 - 12日	国頭村立国頭中学校	2	3
14	11月10 - 12日	沖縄県立名護高等学校	1	6
15	11月16 - 18日	沖縄県立北山高等学校	2	6
16	11月16 - 18日	名護市立名護中学校	2	6
17	11月22 - 25日	名護市立羽地中学校	2	6
18	12月7日 - 9日	名護市立屋部中学校	2	6

---

---

## 水族館飼育実習

---

---

### 目的

自然科学系専攻の主として大学生及び専門学校生を対象とした飼育実習を通し、実践的教育活動を提供する。

### 概要

大学生 6 名、高等専門学校生 1 名、専門学校生 3 名及び一般 1 名の飼育実習を受け入れ、7 - 14 日間の現場対応を行った。また、大学生 5 名の獣医実習を受け入れ、14 - 31 日間の現場対応を行った。

	実施日	学校名	学年
1	7月17 - 31日	コロラド ノースウェスタン コミュニティ カレッジ	1
2	8月2 - 15日	北里大学	獣医 5
3	8月10 - 16日	東海大学	3
4	8月18 - 24日	東海大学	2
5	8月20日 - 9月2日	北里大学	獣医 4
6	8月25 - 31日	北海道エコ・コミュニケーション専門学校	2
7	9月1 - 7日	近畿大学	2
8	9月3 - 16日	岐阜大学	獣医 5
9	9月8 - 14日	沖縄工業高等専門学校	1
10	9月15 - 21日	宮崎大学	3
11	9月17 - 30日	岐阜大学	獣医 5
12	2月14 - 20日	宮古島市役所	一般
13	2月21 - 27日	東海大学	2
14	2月28日 - 3月6日	沖縄ペットワールド専門学校	1
15	3月1 - 31日	日本大学	獣医 4
16	3月11 - 17日	福岡エコ・コミュニケーション専門学校	1

---

---

## 博物館実習

---

---

### 目的

博物館法施行規則第 1 条に定める「博物館実習」の単位を当公園で習得しようとする学生を受け入れる。

### 概要

自然科学系専攻の学生を対象とし、7 名の大学生を受け入れた。実習は幅広い知識及び技術を習得させるために、魚類課、海獣課、植物課、業務課にて実施した。実施期間は、第 1 回は 7 月 28 日 - 8 月 7 日、第 2 回は 11 月 16 - 26 日の間の各 10 日間。期間中、魚類課 5 - 6 日間、海獣課 1 - 2 日間、植物課 2 日間、業務課 1 日間の日程で現場対応を行った。

	学校名	学年	実施期間
1	東京農業大学	3	第1回 平成22年 7月28日 - 8月7日
2	東京農業大学	3	
3	福山大学	4	
4	福山大学	4	
5	北里大学	4	
6	琉球大学	4	第2回 平成22年 11月16 - 26日
7	東京農業大学	4	

---



---

## その他の教育普及活動

---



---

### 目的

海洋環境についての学習意欲は昨今非常に高くなっており、県内外の児童生徒から一般の方々にいたるまで、多様な教育普及活動の依頼がある。これに答えるべく、インタビュー対応、バックヤード見学対応、水族館概要説明などを行い、普及啓発に努める。

### 概要

- (1) インタビュー：小学校3校11名、中学校5校87名、高等学校1校6名、専門学校1校32名、その他教育機関1件22名、計158名の実施
- (2) 概要説明：専門学校1校185名、教育団体（JICA）2件19名、計204名の実施
- (3) 講師派遣：小学校3校414名、中学校1校56名、大学2校312名、その他教育団体等5件601名、計1,383名の実施
- (4) バックヤード：高等学校3校59名、聾学校高等部1校13名、専門学校2校48名、高等専門学校1校40名、大学5校149名、その他教育機関等6件267名、計576名の実施
- (5) 福祉等：盲学校高等部1校10名案内対応

平成23年度

---



---

## 特別展「サンゴの卵・幼生観察」

---



---

### 目的

「サンゴの海」展示水槽内で放卵したサンゴの卵や幼生を、来館者に肉眼および実体顕微鏡を用いて観察してもらい、サンゴという動物について、その生活史やサンゴ礁環境における役割などを普及啓発することを目的とする。

### 期間および場所

平成23年6月17 - 26日（10日間）

沖縄美ら海水族館 3階 「サンゴの海」水槽前

## 概要

イベント用タッチプール水槽を使用して、「サンゴの海」水槽で採取した卵と幼生を展示した。

- (1) 実体顕微鏡と大型ディスプレイを用いたサンゴの卵と幼生の展示
- (2) 昨年定着し1歳になるサンゴの生体やさらに成長したサンゴの骨格の展示
- (3) サンゴ礁系係員、解説員、サンゴに関する研究を行っている琉球大学の学生による解説
- (4) サンゴについての一般的な解説パネル展示

今回、過去最多の参加者を記録し、観察会の目的を十分に達成できた。参加者は、サンゴという生物に深い関心を持ち、「動物であること」「産卵を行うこと」を実際にサンゴの幼生が動き回っているのを見ることで実感していた。更に今回は、水族館で生まれ、1年間飼育したサンゴの展示を初めて行った。これにより目の前にいる幼生が骨格を形成しながら分裂を繰り返して少しずつ成長していく過程をよりわかりやすく伝えることができた。

参加者数：23,200名（入館者数の約35%）



会場



一年間飼育したサンゴの展示

---

---

## 「発見！海の中のドキドキ。」～44th Sony Aquarium

---

---

### 目的

沖縄観光コンベンションビューローとのタイアップ事業の一環として、44th Sony Aquarium 3D 沖縄美ら海水族館の運営に全面的に協力した。最新 3D 映像技術を用いた映像コンテンツで沖縄美ら海水族館の魅力を紹介するとともに、ビル内装飾や展示水槽の監修、沖縄美ら海水族館出張授業の開催、水族館スタッフによる水槽解説、skype を用いたインターネット中継、タッチプールの設置など、沖縄美ら海水族館の PR および教育普及事業を実施した。

### 期間および場所

平成 23 年 7 月 18 日 - 8 月 31 日（45 日間）

ソニービル（東京都中央区）

### 概要

#### 【出張授業】

Sony Aquarium の特別企画として、主に親子を対象にした出張授業を実施。講演会では、沖縄のサンゴや熱帯魚、危険ザメ、深海生物について各講演テーマの生き物についてスライドを用いて紹介した。

### 【水槽解説】

今年はじめて設置されたイノー水槽は、予め設定した時刻に水槽前に集まった参加者に加え、その周辺で水槽を観察している人たちを対象に解説を行った。

### 【特別講演】

講演日	演題	講演者
7月23・24日	イカ・タコ・貝のふしぎな世界	伊芸元
7月30・31日	カメは万年ってほんと？ ウミガメの生態	河津勲
8月6・7日	イルカとクジラ 海に住む哺乳類のチャンピオン	岡部晴菜
8月13・14日	ジンベエザメ・マンタの秘密を探る	仲松由美子
8月21・22日	クマノミとイソギンチャク 共生生活をおくる海洋生物たち	高岡博子
8月28・29日	サンゴは植物それとも動物？	若井万里子

---

---

## 「まるごと沖縄クリーンビーチキャンペーン 2011」パネル展示

---

---

### 目的

沖縄クリーンコーストネットワーク（事務局 第十一管区海上保安本部）主催「まるごと沖縄クリーンビーチキャンペーン」の一環として、海洋環境保全の普及啓発を行う。

### 期間および場所

平成 23 年 7 月 7 - 31 日（25 日間）

沖縄美ら海水族館 1 階 出口前ポスター掲示コーナー

### 概要

「まるごと沖縄クリーンビーチキャンペーン 2011」の期間中、環境の悪化によって苦しむ生き物たちを紹介した「海洋環境パネル展」を実施した。クリーンビーチ活動を紹介したポスターやゴミによって苦しむ生物のパネルを掲示し、また、漂着ゴミの実物を展示することにより、ゴミのポイ捨て防止や海洋環境保全意識の高揚を図った。

---

---

## 夏休み特別展「生まれた！ 日本最初の赤ちゃん誕生」 ～沖縄美ら海水族館 飼育技術の成果～

---

---

### 目的

沖縄美ら海水族館は、旧水族館から併せて 17 種において繁殖賞を受賞しており（平成 23 年 6 月現在）、平成 23 年春、受賞プレートを掲示している「繁殖賞コーナー」（コーラルロビー）をリニューアルした。パネルや写真が大きく見やすくなり、このコーナーで足を止める来館者も多くなった。そこで夏休み期間中、当館が繁殖賞及び古賀賞を受賞した生物に焦点を当てた特別展を実施し、受賞生物を詳しく紹介するとともに、当館の繁殖・育成技術について情報発信する。



## 期間および場所

平成 23 年 7 月 23 日 - 8 月 31 日 (40 日間)

沖縄美ら海水族館 4 階 イベントホール

## 概要

- (1) パネル展示：繁殖賞及び古賀賞解説、受賞生物の繁殖及び育成技術解説
- (2) 標本展示：受賞生物の胎児、胎仔等の液浸及び乾燥標本、生体展示
- (3) 映像放映：過去の繁殖及び育成シーンをモニターにて常時放映
- (4) クイズ実施：受賞生物に関するクイズを実施
- (5) パズルコーナー設置：子供が楽しめる絵合わせブロックを配置したキッズコーナーの設置
- (6) PR グッズ配布：クイズ参加者にオリジナルうちわ配布

来場者数は一日平均で 1,300 名を超え、水族館入館者数に占める割合は約 13%であった。

参加者数： 52,617 名



会場



キッズコーナー

---

---

## 「第 140 回水路記念日」海洋情報パネル展

---

---

## 目的

日本の海図作成がスタートした 9 月 12 日の水路記念日に合わせて、第十一管区海上保安本部が、多くの来館者が訪れる沖縄美ら海水族館においてパネル展を実施し、海の情報を発信する海洋情報業務の周知を図るとともに、来館者へ海の安全利用に関する普及啓発を行う。

## 期間および場所

平成 23 年 8 月 16 日 - 9 月 15 日 (30 日間)

沖縄美ら海水族館 1 階 出口前ポスター掲示コーナー

## 概要

海の成り立ちや自然現象について海図などを活用して解説し、毎年多発する海難事故、特にリーフカレントによる事故の回避方法などを紹介した。さらに、伊平屋列島付近の海底地形や東日本大震災への対応（災害時における障害物調査及び水路測量等）など、最新情報を紹介した。






---



---

## 学術シンポジウム「沖縄における水棲動物生殖の基礎と応用」の実施

---



---

### 目的

本シンポジウムでは蓄積された水棲動物の生殖の基礎と応用研究成果の発表を行い、沖縄全体の水棲動物の研究成果を俯瞰すると共に今後のお互いの研究の協力関係の構築を目指す。また研究成果を一般市民に分かり易いように公開することで成果の普及・啓発を行う。

### 期間および場所

平成 23 年 12 月 9 - 11 日 海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター

### 概要

研究発表および一般市民に対する講演会

平成 23 年 12 月 9 日	15:00 - 18:00	(予備日)
10 日	9:30 - 12:00	研究講演
	12:00 - 13:30	ポスター (食事の時間を含む)
	13:30 - 15:00	一般講演

---



---

## 科学ヘジャンプ・イン東京

---



---

### 目的

筑波大学附属視覚特別支援学校と共同で行う観察プログラム開発の一環として、「科学ヘジャンプ・イン・東京」へ参加。また、水族館職員の視覚障害者対応に関する技術向上を図り、水族館における観察用展示およびプログラムの開発を行う。

### 期間および場所

平成 23 年 11 月 4 - 5 日 筑波大学附属視覚特別支援学校 (東京都)

### 概要

観察は「サメ」をテーマとして用い、生物の形を正しく認識し、水族の生態的特性を理解するための手がかりを与える内容とした。

- (1) コイの液浸標本を用い、硬骨魚の外部形態を観察
- (2) 仔ザメの液浸標本を用い、サメの外部形態を観察、軟骨魚と硬骨魚の違いを紹介
- (3) サメ胎仔・卵殻の液浸標本を観察、サメの繁殖について紹介
- (4) サメ顎乾燥標本を用い、サメの歯の交換システムを紹介
- (5) ハリセンボン等のプラスチックネーション標本を用いて、魚類の形の多様性を紹介

平成 23 年 11 月 4 日 模擬授業 2 コマ (10:30 - 11:20・11:30 - 12:20)

参加生徒数 10 名 (筑波大学附属視覚特別支援学校中学 2 年) 実施者：佐藤圭一

平成 23 年 11 月 5 日 科学へジャンプ！・イン東京ワークショップ 2 コマ「サメという魚」

1 回目 10:30 - 12:00 参加生徒数 5 名 (関東圏小学 6 年) 実施者：横山季代子

2 回目 13:30 - 15:00 参加生徒数 4 名 (関東圏中学 3 年) 実施者：塚原誠

## 平成 24 年正月干支水槽展示

### 目的

干支にちなんだ水槽展示を行い、来館者の正月気分を盛り上げる。

### 期間および場所

平成 23 年 12 月 26 日 - 平成 24 年 1 月 9 日 (15 日間)

沖縄美ら海水族館 3 階 「サンゴの海」水槽前

### 概要

#### (1) 水槽展示

平成 24 年の干支「辰」にちなんだ生物を円柱水槽 (水量 1t、直径 1m) にて展示。12 月 26 日から 31 日までは、黒い着物風の装飾を施した。また、1 月 1 日から 9 日までは、竜宮城をイメージした装飾に変えて展示を行った。

#### 展示生物

干支関連： クロウミウマ、オイランヨウジ、イシヨウジ、ヘコアユ、ゴシキエビ

その他： アカネハナゴイ、デバスズメダイ、ルリスズメダイ、  
ミスジリュウキュウスズメダイ、オトヒメエビ、ミドリイシ属の一種

#### (2) パネル及び標本展示

今年の干支「辰」が名前につく海洋生物を、パネルと標本を用い、クイズ形式で紹介した。

標本： ヨウジウオ垂目に属する生物、タツノオトシゴの仲間など

パネル： ヨウジウオ垂目に属する生物についてのクイズ

平成 24 年の干支「辰 (たつ)」にちなんだ生物、タツノオトシゴの仲間(クロウミウマ)やヨウジウオ垂目の魚類は、姿・形がユニークな為、多くのお客様に人気があり、写真撮影や生物観察を楽しむ姿がよく見られた。また、これらの魚類が、どのように繁殖するのか等のパネルのクイズで、メスがオスの育児嚢に産卵し、オスが産出するという不思議な生態に驚いていた。標本の前でじっくり観覧しているお客様もおり、博物館的要素を取り入れた展示ができた。

干支水槽展示期間は、平成 23 年 12 月 26 日 (月) から平成 24 年 1 月 3 日 (火) まで 9 日間を予定していたが、お客様の反応が大きく、とても好評だったため、平成 24 年 1 月 9 日 (月)

まで延長し、計 15 日間の展示を行った。今回、初めて干支水槽で生きたサンゴの展示を行った。また、クロウミウマは、水族館で繁殖した個体を展示した。



パネル展示



竜宮城をイメージした装飾

---

---

## 「世界らん展 2012 日本大賞」水槽出展

---

---

### 目的

APOC11 の開催告知と海洋博公園・沖縄美ら海水族館の PR のため、国内外で最大規模を誇るランのイベント「世界らん展」に水槽を出展した。

### 期間および場所

平成 24 年 2 月 14 - 17 日 水槽設営  
17 - 26 日 審査会及び内覧会 (17 日)、一般公開  
27 日 水槽撤収  
東京ドーム (東京都文京区)

### 概要

会場となった東京ドームに昨年と同様、14t 大型アクリル水槽 1 基を設置した。「らんとの競演」をテーマに、水槽にはカスミチョウチョウウオやブダイ類など色彩の華やかな魚、約 35 種 1,000 尾を展示した。期間中多くの来場者が水槽を訪れ、大盛況であった。



会場



写真撮影を楽しむ来場者

## なるほど五感ラウンジへの参加

### 目的

視覚障害の子どもたちのための科学教室実施活動の関係者や科学館・博物館関係者、視覚障害支援関係者を対象としたイベント「なるほど! 五感ラウンジ」へ参加し、当館の取り組みについて紹介する。

### 期間および場所

平成 24 年 3 月 3 日 横浜ワールドポーターズ（神奈川県）

### 概要

視覚障害の子どもたちのための科学教室実施活動（科学ヘジャンプ活動）、ボランティアスタッフや科学館・博物館関係者、視覚障害支援関係者が多く参加し、ボランティア活動のための実務を担っているスタッフとの交流・意見交換を行った。

## 美ら海移動水族館

### 目的

沖縄県内の福祉施設・病院の利用者及び離島住民等、沖縄美ら海水族館への来館が困難な方々を対象に、レクリエーション・普及啓発及び水族館の広報を目的とした展示を現地にて行う。

### 概要

- (1) 活魚車水槽での魚類展示及び生態解説
- (2) タッチプールでの棘皮動物類展示及び生態解説
- (3) サメ・エイ類の顎、皮標本展示及び生態解説
- (4) 危険生物類の標本展示及び生態解説（リーフレット配布）
- (5) プラスチネーション標本展示及び生態解説
- (6) ジンベエザメ等身大タペストリー掲示
- (7) パネル展、その他（ぬりえ、クラフト、ステッカー配布等）



今年度は昨年度の 2 倍、24 箇所の施設にて移動水族館を実施した。結果、参加総数は 7,989 名となった。実施施設は国立ハンセン病療養所 2 箇所、病院 3 箇所、その他福祉施設 19 箇所であった。今後は、より一層訪問先のニーズに合わせた展示及び解説が出来るよう、魚種及び標本等の充実を図りたい。

平成 23 年度来場者総数：7,989 名

	実施日	施設名	参加者数
1	4月2日	介護サービスセンター ゆいまーる松川（那覇市）	325
2	4月13日	介護老人保健施設 サクラビア（糸満市）	382
3	4月14日	身体障害者療護施設 ソフィア（糸満市）	226
4	5月27日	介護老人保健施設 桜山荘（豊見城市）	383

	実施日	施設名	参加者数
5	6月16日	介護老人保健施設 西原敬愛園（西原町）	236
6	6月25日	特別養護老人ホーム 首里偕生園（那覇市）	212
7	6月29日	指定障害者支援施設 コロニーワークショップ沖縄（沖縄市）	152
8	7月13日	介護老人保健施設 池田苑（西原町）	307
9	7月14日	オリブ山病院（那覇市）	336
10	7月29日	独立行政法人国立病院機構 沖縄病院（宜野湾市）	610
11	8月3日	介護付有料老人ホーム とよさき（豊見城市）	110
12	8月22日	障害者支援施設 青葉園（糸満市）	103
13	8月23日	老人ホーム 沖縄偕生園（糸満市）	255
14	9月3日	デイサービス ぐるくん（那覇市）	189
15	9月30日	南部医療センター・こども医療センター（南風原町）	921
16	10月4日	国立療養所 沖縄愛楽園（名護市）	177
17	10月22日	ケアセンター きらめき（読谷村）	617
18	11月27日	国立療養所 宮古南静園（宮古島市）	550
19	1月18日	介護老人保健施設 緑寿園（那覇市）	573
20	1月26日	介護老人保健施設 桃源の郷（名護市）	104
21	1月27日	デイサービスセンター アミーゴ（那覇市）	394
22	2月11日	デイサービスセンター おおさと（南城市）	306
23	2月29日	介護老人保険施設 白寿園（糸満市）	232
24	3月14日	介護老人保健施設 養生の里（豊見城市）	289

---



---

## 職場体験学習

---



---

### 目的

総合学習の一環として広く取り入れられている「職場体験学習」は、県内においても一般企業の協力の下で実施されている。当館もこの趣旨に賛同し、県内の主に小学生、中学生、高校生を対象に受け入れを行う。

### 概要

小学校 6 校 22 名、中学校 4 校 15 名、高等学校 2 校 12 名、専門学校 1 校 11 名、本部町内初任者及び 10 年経験者教諭 13 名の職場体験を実施した。教育普及担当者の注視のもと、飼育担当者が指導を行った。

	実施日	学校名	学年	人数
1	6月14日	今帰仁村立古宇利小学校	5・6	4
2	6月8 - 10日	沖縄ウエル・スポーツ専門学校	2	11
3	6月27 - 28日	本部町立上本部中学校	2	4
4	7月4 - 5日	本部町立伊豆味中学校	2	2
5	7月7日	名護市立大宮小学校	6	5

	実施日	学校名	学年	人数
6	8月11・22日	本部町教育委員会	教諭	13
7	9月12 - 13日	今帰仁村立今帰仁中学校	2	3
8	8月9日	那覇市立さつき小学校	6	3
9	8月13日	今帰仁村立兼次小学校	6	3
10	8月14日	沖縄市立山内小学校	6	1
11	8月30日	名護市立源河小学校	4	6
12	10月31日 - 11月1日	沖縄県立本部高等学校	2	6
13	11月15 - 16日	沖縄県立北山高等学校	2	6
14	11月21 - 22日	名護市立羽地中学校	2	6

---

## 水族館飼育実習

---

### 目的

自然科学系専攻の主として大学生及び専門学校生を対象とした飼育実習を通し、実践的教育活動を提供する。

### 概要

魚類課にて大学生17名及び大学院生1名の飼育実習を受け入れ、7日間の現場対応を行った。

	実施日	学校名	学年
1	8月8 - 14日	北里大学	3
2	8月15 - 21日	岡山理科大学	3
3	8月22 - 28日	東海大学	2
4	8月29日 - 9月4日	東海大学	3
5	9月4 - 10日	九州産業大学	2
6	9月15 - 21日	長崎大学	3
7	9月22 - 28日	日本獣医生命科学大学	2
8	10月3 - 9日	北海道大学大学院	M2
9	10月27日 - 11月2日	日本大学	3
10	11月3 - 9日	日本大学	3
11	11月10 - 16日	日本大学	3
12	11月21 - 27日	日本大学	3
13	11月28日 - 12月4日	日本大学	3
14	1月20 - 26日	KONKUK大学	-
15	1月30日 - 2月5日	ラ・トローブ大学	3
16	2月14 - 20日	日本大学	3
17	3月13 - 19日	東京農業大学	2
18	3月20 - 26日	鹿児島大学	2

---

---

## 博物館実習

---

---

### 目的

博物館法施行規則第 1 条に定める「博物館実習」の単位を当公園で習得しようとする学生を受け入れる。

### 概要

自然科学系専攻の学生を対象とし、9 名の大学生を受け入れた。実習は幅広い知識及び技術を習得させるため、魚類課、海獣課、植物課にて実施した。実施期間は、第 1 回は平成 23 年 7 月 29 日 - 8 月 7 日の 9 日間、第 2 回は平成 23 年 11 月 17 - 26 日の 9 日間。各回、魚類課は 5 日間の日程で現場対応を行った。

	学校名	学年	実施期間
1	東京海洋大学	3	第 1 回 平成 23 年 7 月 29 日 - 8 月 7 日
2	東京海洋大学	3	
3	東海大学	4	
4	近畿大学	3	
5	琉球大学	4	第 2 回 平成 23 年 11 月 17 - 26 日
6	琉球大学	4	
7	北里大学	4	
8	北里大学	4	
9	麻布大学	4	

## IV 付属資料

### (1) 飼育動物一覧 (H.23.12.31 現在)

和名 学名	数	和名 学名	数
動物界 Animalia		タイマツトサカ科 Nidaliidae	
海綿動物門 Porifera		タイマツトサカ科の一種 <i>Chironephtya</i> sp.	2
六放海綿綱 Hexactinellida		ウツロヤギ科 Anthothelide	
散針目 Lyssacinosa		<i>Solenocaulon</i> 属の一種 <i>Solenocaulon</i> sp.	1
カイロウドウケツ科 Euplectellidae		サンゴ科 Coralliidae	
マーシャルカイロウドウケツ <i>Euplectella marshalli</i>	3	モモイロサンゴ <i>Corallium elatum</i>	4
海綿動物の仲間 Porifera spp.	15	シロサンゴ <i>Corallium konojoi</i>	2
刺胞動物門 Cnidaria		アカサンゴ <i>Paracorallium japonicum</i>	3
ヒドロ虫綱 Hydrozoa		トゲヤギ科 Acanthogorgiidae	
ヒドロ虫綱の一種 Hydrozoa sp.	2	トゲヤギ科の仲間 Acanthogorgiidae spp.	3
花虫綱 Anthozoa		ウチワヤギ科 Gorgoniidae	
共莖目 Coenothecalia		ムレヤギ <i>Rumphella aggregata</i>	1
アオサンゴ科 Helioporidae		ヒラヤギ科 Subergorgiidae	
アオサンゴ <i>Heliopora coerulea</i>	3	ヒラヤギ <i>Subergorgia kollikeri</i>	1
根生目 Stolonifera		ムチヤギ科 Ellisellidae	
クダサンゴ科 Tubiporidae		リュウキュウミノゾヤギ <i>Junceella fragilis</i>	3
クダサンゴ <i>Tubipora musica</i>	1	ムチヤギ科の仲間 Ellisellidae spp.	4
ウミトサカ目 Alcyonaria		ウミトサカ目の一種 Alcyonaria spp.	3
ウミゾタ科 Clavulariidae		海綿目 Pennatulacea	
ムラサキハナヅタ <i>Briareum violacva</i>	1	ウミエラ目の一種 Pennatulacea sp.	2
ウミゾタ科の仲間 Clavulariidae spp.	3	イシサンゴ目 Scleractinia	
ウミアザミ科 Xeniiidae		ムカシサンゴ科 Astrocoeniidae	
ブルームウミアザミ <i>Xenia blumi</i>	4	ムカシサンゴ科の一種 Astrocoeniidae sp.	1
カンムリウミアザミ属の一種 <i>Fungulus</i> sp.	1	ハナヤサイサンゴ科 Pocilloporidae	
ウミアザミ属の一種 <i>Xenia</i> sp.	5	ハナヤサイサンゴ <i>Pocillopora damicornis</i>	29
ウミアザミ属の仲間 <i>Xenia</i> spp.	2	ヘラジカハナヤサイサンゴ <i>Pocillopora eydouxi</i>	5
ウミトサカ科 Alcyoniidae		チリメンハナヤサイサンゴ <i>Pocillopora meandrina</i>	18
ウミイチゴ <i>Bellonella rubra</i>	5	ショウガサンゴ <i>Stylophora pistillata</i>	14
ノウトサカ属の仲間 <i>Cladiella</i> spp.	9	ミドリイシ科 Acroporidae	
フトウネタケ <i>Lobophytum crassum</i>	29	コユビミドリイシ <i>Acropora digitifera</i>	2
ヤナギカタトサカ <i>Sinularia flexibilis</i>	15	スギノキミドリイシ <i>Acropora formosa</i>	7
タコアシカタトサカ <i>Simularia polydactyla</i>	1	ヤセミドリイシ <i>Acropora horrida</i>	4
<i>Klyxum</i> 属の仲間 <i>Klyxum</i> spp.	25	トゲスギミドリイシ <i>Acropora intermedia</i>	2
ウネタケ属の一種 <i>Lobophytum</i> sp.	8	コエダミドリイシ <i>Acropora microphthalmala</i>	1
ミナベトサカ属の一種 <i>Minabea</i> sp.	1	ウスエダミドリイシ <i>Acropora tenuis</i>	3
ウミキノコ属の仲間 <i>Sarcophyton</i> spp.	37	ミドリイシ属の一種 <i>Acropora panicullata</i>	5
カタトサカ属の仲間 <i>Sinularia</i> spp.	57	ヒラフキサンゴ科 Agariciidae	
チヂミトサカ科 Nephtheidae		イボリュウモンサンゴ <i>Pachyseris gemmae</i>	1
キイロトゲトサカ <i>Dendronephthya aurea</i>	4	シワリュウモンサンゴ <i>Pachyseris rugosa</i>	1
オオトゲトサカ <i>Dendronephthya gigantea</i>	1	シコロサンゴ <i>Pavona decussata</i>	3
<i>Stereonephthya</i> 属の一種 <i>Stereonephthya</i> sp.	13	ハマシコロサンゴ <i>Pavona minuta</i>	1
トゲトサカ属の仲間 <i>Dendronephthya</i> spp.	33	ヤッコアミメサンゴ <i>Psammocora contigua</i>	1
ウミゼリ属の仲間 <i>Lemnalia</i> spp.	5	クサビライシ科 Fungiidae	
チヂミトサカ科の仲間 Nephtheidae spp.	1	トゲクサビライシモドキ <i>Ctenactis crassa</i>	2
		トゲクサビライシ <i>Ctenactis echinata</i>	1



和名 学名	数	和名 学名	数
ヒラタクサビライシ <i>Fungia concinna</i>	2	チョウジガイ科 Caryophylliidae	
シタザラクサビライシ <i>Fungia fungites</i>	3	ギンカサンゴ <i>Deltocyathus magnificus</i>	1
ノコギリクサビライシ <i>Fungia valida</i>	1	ミズタマサンゴ <i>Plerogyra sinuosa</i>	3
キュウリイシ <i>Herpolitha limax</i>	2	アシナガサンゴ属の一種 <i>Stephanocyathus</i> sp.	1
ヤエヤマカワラサンゴ <i>Podabacia crustacea</i>	1	チョウジガイ科の仲間 Caryophylliidae spp.	5
ヘルメットイシ <i>Sandalolitha robusta</i>	3	センスガイ科 Flabellidae	
クサビライシ属の一種 <i>Fungia</i> sp.	1	センスガイ科の仲間 Flabellidae spp.	3
ハマサンゴ科 Poritidae		キササンゴ科 Dendrophylliidae	
ユビエダハマサンゴ <i>Porites cylindrica</i>	2	イボヤギ <i>Tubastraea coccinea</i>	16
ベニハマサンゴ <i>Porites lichen</i>	2	ウネリスリバチサンゴ <i>Turbinaria frondens</i>	2
フカアナハマサンゴ <i>Porites lobata</i>	1	キササンゴ科の仲間 Dendrophylliidae spp.	11
コブハマサンゴ <i>Porites lutea</i>	1	ホネナシサンゴ科 Corallimorphidae	
ネグロスハマサンゴ <i>Porites negrosensis</i>	1	ホネナシサンゴ科の一種 Corallimorphidae sp.	1
オオハマサンゴ <i>Porites solida</i>	1	イソギンチャク目 Actiniaria	
キクメイシ科 Faviidae		ヤツバカワリギンチャク科 Actinernidae	
エダトゲキクメイシ <i>Cyphastrea decadia</i>	2	ヤツバカワリギンチャク科の仲間 Actinernidae sp.	25
ダイオウサンゴ <i>Diproastrea heliopora</i>	3	カザリイソギンチャク科 Aliciidae	
オオリュウキュウキッカサンゴ <i>Echinopora gemmacea</i>	1	ウンバチイソギンチャク <i>Phyllo-discus semoni</i>	3
アザミキクメイシ <i>Favia danae</i>	2	ウメボシイソギンチャク科 Actiniidae	
キクメイシ <i>Favia speciosa</i>	3	スナイソギンチャク <i>Dofleinia armata</i>	3
ウスチャキクメイシ <i>Favia pallida</i>	5	タマイタダキイソギンチャク <i>Entacmaea ramsayi</i>	3
バリカメノコキクメイシ <i>Goniastrea aspera</i>	5	フトウデイソギンチャク <i>Macro-dactyla aspera</i>	1
ミダレナガレサンゴ <i>Leptria irregularis</i>	1	ハタゴイソギンチャク科 Stichodactylidae	
ナガレサンゴ <i>Leptria phrygia</i>	1	ジュズダマイソギンチャク <i>Heteractis aurora</i>	1
タカクキクメイシ <i>Monteastera valenciennesi</i>	2	シライトイソギンチャク <i>Radianthus crispus</i>	12
ヒメノウサンゴ <i>Platygyra pini</i>	2	センジュイソギンチャク <i>Radianthus ritteri</i>	3
サザナミサンゴ科 Merulinidae		ハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla gigantea</i>	4
トゲイボサンゴ <i>Hydnophora exesa</i>	2	イボハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla haddoni</i>	1
エダイボサンゴ <i>Hydnophora rigida</i>	1	アラビアハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla mertensii</i>	1
ウスサザナミサンゴ <i>Merulina scabricula</i>	1	ハナブサイソギンチャク科 Actinodendronidae	
オオトゲサンゴ科 Mussidae		ハナブサイソギンチャク <i>Actinodendron arboreum</i>	2
ヒメオオトゲキクメイシ <i>Acanthastrea echinata</i>	1	セトモノイソギンチャク科 Actinostolidae	
ヒラサンゴ <i>Australomussa rowleyensis</i>	1	フウセンイソギンチャク属の一種 <i>Stomphia</i> sp.	22
マルハナガタサンゴ <i>Lobophyllia corymbosa</i>	2	ヒダベリイソギンチャク科 Metridiidae	
バラオハナガタサンゴ <i>Lobophyllia hataii</i>	1	ヒダベリイソギンチャク科の一種 Metridiidae sp.	1
オオハナガタサンゴ <i>Lobophyllia hemprichii</i>	12	スナギンチャク目 Zoantharia	
アザミハナガタサンゴ <i>Scolymia vitiensis</i>	1	スナギンチャク科 Zoanthidae	
ヒロクチダイノウサンゴ <i>Symphyllia agaricia</i>	1	タマイワスナギンチャク <i>Palythoa lesueuri</i>	1
ホソダイノウサンゴ <i>Symphyllia recta</i>	2	マメスナギンチャク <i>Zoanthus erythrochloros</i>	1
ビワガライシ科 Oculinidae		<i>Zoanthus</i> 属の一種 <i>Zoanthus</i> sp.1	15
ビワガライシ属の一種 <i>Madrepora</i> sp.	3	<i>Zoanthus</i> 属の一種 <i>Zoanthus</i> sp.2	3
トゲコザラサンゴ科 Anthemiphylliidae		ヤドカリスナギンチャク属の一種 <i>Epizoanthus</i> sp.	1
トゲコザラサンゴ <i>Anthemiphyllia dentatus</i>	2	スナギンチャク目の仲間 Zoantharia spp.	9
アザミサンゴ科 Galaxeidae		ツノサンゴ目 Antipatharia	
アザミサンゴ <i>Galaxea fascicularis</i>	1	ウミカラマツ科 Antipathidae	
ウミバラ科		ムチカラマツ <i>Cirripathes anguina</i>	11
ヒラキッカサンゴ <i>Echinophyllia echinata</i>	2	ネジレカラマツ <i>Cirripathes spiralis</i>	3
アバレキッカサンゴ <i>Echinophyllia orpheensis</i>	2	ウミカラマツ属の一種 <i>Stibhopathes</i> sp.	3
アナキッカサンゴ <i>Oxypora lacera</i>	2		

和名 学名	数	和名 学名	数
ホネナシサンゴ目 Corallimorpharia		新腹足目 Neogastropoda	
イソギンチャクモドキ科 Discosomatidae		アッキガイ科 Muricidae	
イトイソギンチャクモドキ <i>Discosoma howesii</i>	4	バライロセンジュ <i>Chicoreus saulii</i>	1
イソギンチャクモドキ <i>Discosoma nummiforme</i>	1	オガサワラツブリ <i>Haustellum gallinago</i>	2
イソギンチャクモドキ科の仲間 Discosomatidae spp.	5	イモガイ科 Conidae	
		タガヤサンミナシ <i>Darioconus textile</i>	2
<b>有櫛動物門 Ctenophore</b>		アンボイナガイ <i>Gastridium geographus</i>	1
有触手綱 Tentaculata		クロフモドキ <i>Lithoconus leopardus</i>	1
カブトクラゲ目 Lobata		頭楯目 Cephalaspidea	
チョウクラゲ科 Ocyropsidae		カノコキセワタガイ科 Adlajidae	
チョウクラゲ <i>Ocyropsis fusca</i>	46	ニシキツバメガイ <i>Chelidonura hirundinina</i>	2
クシヒラムシ目 Platyctenida		ウミコチョウ科 Gastropteridae	
コトクラゲ科 Lyroctenidae		ムラサキウミコチョウ <i>Sagaminopteron ornatus</i>	35
コトクラゲ <i>Lyrocteis imperatoris</i>	3	囊舌目 Sacoglossa	
		ナギサノツユ科 Oxynoidae	
<b>軟体動物門 Mollusca</b>		フリソデミドリガイ <i>Lobiger souverbii</i>	1
腹足綱 Gastropoda		ゴクラクミドリガイ科 Elysiidae	
古腹足目 Vestigastropoda		コノハミドリガイ <i>Elysia ornata</i>	22
オキナエビスガイ科 Pleurotomariidae		アメフラシ目 Aplysiacea	
コシダカオキナエビス <i>Mikadotrochus salmiana</i>	1	フウセンウミウシ科 Notarchidae	
ベニオキナエビス <i>Perotrochus hirasei</i>	1	フウセンウミウシ <i>Notarchus punctatus</i>	1
オキナエビスガイ科の一種 Pleurotomariidae sp.	1	裸鰓目 Nudibranchia	
ニシキウズガイ科 Trochidae		イロウミウシ科 Chromodorididae	
サラサバティ <i>Trochus maximus</i>	1	メレンゲウミウシ <i>Ardeadoris egretta</i>	4
サザエ科 Turbinidae		アンナウミウシ <i>Chromodoris annae</i>	1
リュウテン <i>Turbo petholatus</i>	1	シラナミイロウミウシ <i>Chromodoris coi</i>	2
ヤコウガイ <i>Turbo marmoratus</i>	4	コールマンウミウシ <i>Chromodoris colemani</i>	24
盤足目 Discopoda		アカネコモンウミウシ <i>Chromodoris collingwoodi</i>	2
オニツノガイ科 Cerithiidae		フジナミウミウシ <i>Chromodoris fidelis</i>	4
オニツノガイ <i>Cerithium nodulosum</i>	1	オトヒメウミウシ <i>Chromodoris kuniei</i>	2
ソデボラ科 Strombidae		ミスジアオイロウミウシ <i>Chromodoris lochi</i>	3
マガキガイ <i>Strombus luhuanus</i>	45	シライトウミウシ <i>Chromodoris magnifica</i>	9
ヒメゴホウラ <i>Strombus sinuatus</i>	1	イガグリウミウシ <i>Chromodoris ornatissima</i>	14
スイジガイ <i>Lamibis chiragra</i>	1	ヒメコモンウミウシ <i>Chromodoris rufomaculata</i>	2
サソリガイ <i>Lambis crocata</i>	1	テヌウニシキウミウシ <i>Chromodoris tenue</i>	12
クモガイ <i>Lambis lambis</i>	7	サラサウミウシ <i>Chromodoris tinctoria</i>	1
フシデサソリガイ <i>Lambis scorpius</i>	1	ミズレウミウシ <i>Chromodoris willani</i>	3
クマサカガイ科 Xenophoridae		フチベニイロウミウシ <i>Glossodoris averni</i>	1
セブチリメンクマサカガイ <i>Xenophora granulosa</i>	2	コンペイトウウミウシ <i>Halgerda carlsoni</i>	4
ウスクマサカガイ <i>Xenophora tenuis</i>	1	キスジカンテンウミウシ <i>Halgerda diaphana</i>	1
タカラガイ科 Cypraeidae		ヒオドシウミウシ <i>Halgerda rubicunda</i>	1
ハラダカラ <i>Cypraea mappa</i>	3	パイナップルウミウシ <i>Halgerda willeyi</i>	1
ホシダカラ <i>Cypraea tigris</i>	7	ゾウゲイロウミウシ <i>Hypselodoris bullocki</i>	13
キイロダカラガイ <i>Erosaria moneta</i>	27	ホシゾラウミウシ <i>Hypselodoris infucata</i>	2
トウカムリガイ科 Cassidae		センテンイロウミウシ <i>Hypselodoris maculosa</i>	1
トウカムリガイ <i>Cassis cornutus</i>	2	アラリウミウシ <i>Noumea norba</i>	1
フジツガイ科 Ranellidae		マダライロウミウシ <i>Risbecia tryoni</i>	2
ホラガイ <i>Charonia tritonis</i>	1	イロウミウシ科の一種 Chromodorididae sp.	2

和名 学名	数	和名 学名	数
ドーリス科 Dorididae		ハダカエボシ科 Heteralepadidae	
シモフリカメサンウミウシ <i>Aldisa albatrossae</i>	15	ハダカエボシ <i>Heteralepas japonica</i>	9
ブッシェドノエルウミウシ <i>Jorunna rubescens</i>	1	軟甲綱 Malacostraca	
メリベウミウシ科 Tethydidae		口脚目 Stomatopoda	
ムカデメリベ <i>Melibe viridis</i>	1	トラフシヤコ科 Lysiosquillidae	
フジタウミウシ科 Polyceridae		トラフシヤコ <i>Lysiosquilla maculata</i>	2
クロスジリュウグウウミウシ <i>Roboastra gracilis</i>	1	ハナシヤコ科 Odontodactylidae	
イシガキリュウグウウミウシ <i>Roboastra luteolineolata</i>	1	モンハナシヤコ <i>Odontodactylus scyllarus</i>	1
ミドリリュウグウウミウシ <i>Tambja kusimotoensis</i>	68	等脚目 Isopoda	
ヒカリウミウシ <i>Plocamopherus tilesii</i>	1	スナホリムシ科 Cirolanidae	
ミカドウミウシ科 Hexabranichidae		オオグソクムシ <i>Bathynomus doederleini</i>	83
ミカドウミウシ <i>Hexabranichus sanguineus</i>	7	十脚目 Decapoda	
イボウミウシ科 Chromodorididae		クルマエビ科 Penaeidae	
ソライロイボウミウシ <i>Phyllidia coelestis</i>	8	ウシエビ <i>Penaeus monodon</i>	2
キロイボウミウシ <i>Phyllidia ocellata</i>	1	イシエビ科 Sicyoniidae	
タテヒダイボウミウシ <i>Phyllidia varicosa</i>	28	トゲイシエビ <i>Sicyonia lancifera</i>	2
コイボウミウシ <i>Phyllidiella pustulosa</i>	24	オトヒメエビ科 Stenopodidae	
ユキヤマウミウシ <i>Reticulidia fungia</i>	1	オトヒメエビ <i>Stenopus hispidus</i>	1
コヤナギウミウシ科 Zephyrinidae		サラサエビ科 Oplophoridae	
コヤナギウミウシ <i>Janolus toyamensis</i>	1	ヤイトサラサエビ <i>Rhynchocinetes conspiciocellus</i>	3
ユビウミウシ科 Bornellidae		サラサエビ <i>Rhynchocinetes uritai</i>	1
ヒオドシユビウミウシ <i>Nornella anguilla</i>	3	エンヤサラサエビ <i>Cinetorhynchus reticulatus</i>	4
ファセリナ科 Facelinidae		オオサンゴサラサエビ <i>Cinetorhynchus striatus</i>	2
オオコノハミノウミウシ <i>Phyllodesmium longicirrun</i>	1	テナガエビ科 Palaemonidae	
頭足綱 Cephalopoda		フウライテナガエビ <i>Brachycarpus biunguiculatus</i>	1
ツツイカ目 Teuthoida		ザラテテナガエビ <i>Macrobrachium australe</i>	1
マダコ科 Octopodidae		ミナミテナガエビ <i>Macrobrachium formosense</i>	1
ワモンダコ <i>Octopus cyanea</i>	1	ヒラテテナガエビ <i>Macrobrachium japonicum</i>	2
アナダコ <i>Octopus oliveri</i>	3	コンジテンテナガエビ <i>Macrobrachium lar</i>	1
マダコ科の一種 Octopodidae sp.	1	ウミウシカクレエビ <i>Periclimenes imperator</i>	2
二枚貝綱 Bivalvia		ロングクロウシュリンブ <i>Periclimenes tennipes</i>	2
カキ目 Ostreoida		ソリハシコモモンエビ <i>Urocaridella</i> sp.	5
ミズイリショウジョウガイ <i>Spondylus reguis</i>	8	モエビ科 Hippolytidae	
ベッコウガキ科 Gryphaeidae		イソギンチャクモエビ <i>Tior amboinensis</i>	6
シヤコガキ <i>Hytissa hyotis</i>	1	オキナワアナジャコ科 Thalassinidae	
マルスダレガイ目 Veneroida		オキナワアナジャコ <i>Thalassina anomala</i>	4
シヤコガイ科 Tridacnidae		タラバエビ科 Pandalidae	
ヒメジャコ <i>Tridacna crocea</i>	11	マルゴシミノエビ <i>Heterocarpus laevigatus</i>	28
シラナミガイ <i>Tridacna maxima</i>	26	ボタンエビ <i>Pandalus nipponensis</i>	1
トガリシラナミ <i>Tridacna noae</i>	1	アカザエビ科 Nephropidae	
ヒレジャコ <i>Tridacna squamosa</i>	3	ショウゲンエビ属の一種 <i>Enoplometopus</i> sp.	4
シジミ科 Corbiculidae		アカザエビ <i>Metanephrops japonicus</i>	1
ヤエヤマヒルギシジミ <i>Geloina erosa</i>	11	サガミアカザエビ <i>Metanephrops sagamiensis</i>	2
節足動物門 Arthropoda		イセエビ科 Palinuridae	
顎脚綱 Maxillopoda		リョウマエビ <i>Justitia japonica</i>	3
有柄目 Pedunculata		カギテリョウマエビ <i>Justitia longimanus</i>	1
ミョウガガイ科 Scalpellidae		ハコエビ <i>Linuparus trigonus</i>	6
ミョウガガイ <i>Scalpellum stearnsi</i>	85	カノコイセエビ <i>Panulirus longipes</i>	2
		ニシキエビ <i>Panulirus ornatus</i>	2

和名 学名	数	和名 学名	数
シマイセエビ <i>Panulirus penicillatus</i>	1	ビワガニ <i>Lyreidus tridentatus</i>	1
ゴシキエビ <i>Panulirus versicolor</i>	1	ホモラ科 Homolidae	
セミエビ科 Scyllaridae		トウヨウホモラ <i>Homola orientalis</i>	6
オオバウチワエビ <i>Ibacus novemdentatus</i>	3	オオホモラ <i>Paromola japonica</i>	1
ゾウリエビ <i>Parribacus japonicus</i>	5	カラッパ科 Calappidae	
コブセミエビ <i>Scyllarides haani</i>	3	ソデカラッパ <i>Calappa hepatica</i>	3
キタンヒメセミエビ <i>Scyllarides kitanoviriosus</i>	1	キンセンモドキ <i>Murisia armata</i>	3
セミエビ <i>Scyllarides squamosus</i>	31	コブシガニ科 Leucosiidae	
ヨロンエビ科 Synaxidae		<i>Ebalia</i> 属の一種 <i>Ebalia</i> sp.	2
ヨロンエビ <i>Palinurellus wieneckii</i>	1	シリケンコブシ <i>Randallia pustulosa</i>	1
ヤドカリ科 Diogenidae		へイケガニ科 Dorippidae	
クロシマオニヤドカリ <i>Aniculus sibogae</i>	1	へイケガニ科の一種 <i>Dorippidae</i> sp.	3
ユビワサンゴヤドカリ <i>Calcinus elegans</i>	2	クモガニ科 Majidae	
オオベニワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus alcocki</i>	8	モクズシヨイ <i>Camposcia retusa</i>	3
ベニワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus strigatus</i>	1	コツノガニ <i>Chorilia longipes japonica</i>	4
ユビナガワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus kremphi</i>	1	トゲオーストンガニ <i>Cyrtomaia murrayi</i>	1
イモガイヨコバサミ <i>Clibanarius eury sternus</i>	1	タカアシガニ <i>Macrocheira kaempfeii</i>	5
ケズジヤドカリ <i>Dardanus arrosor</i>	1	ヒラアシクモガニ <i>Platymaia alcocki</i>	1
カブトヤドカリ <i>Dardanus deformis</i>	2	トゲハリセンボン <i>Pleistacantha terribilis</i>	1
アオボシヤドカリ <i>Dardanus guttatus</i>	3	クモガニ科の一種 <i>Majidae</i> sp.	2
イボアシヤドカリ <i>Dardanus impressus</i>	1	ヒシガニ科 Parthenopidae	
オイランヤドカリ <i>Dardanus lagopodes</i>	2	メンコヒシガニ <i>Aethra scruposa</i>	1
コモンヤドカリ <i>Dardanus megistos</i>	2	フトクビヒシガニ <i>Rhinolambrus rudis</i>	1
ソメンヤドカリ <i>Dardanus pedunculatus</i>	1	カルイシガニ <i>Daldorfia horrida</i>	1
ヒラテヤドカリ <i>Dardanus scutellatus</i>	1	エンコウガニ科 Goneplacidae	
トゲヒメヨコバサミ <i>Paguristes acanthomerus</i>	1	エンコウガニ <i>Carcinoplax longimana</i>	6
スナギンチャクヒメヨコバサミ <i>Paguristes palythophilus</i>	2	ヒメエンコウガニ <i>Carcinoplax surgensis</i>	1
ヤスリヤドカリ <i>Ciliopagurus strigimanus</i>	4	ナキエンコウガニ <i>Psoptheticus stridulans</i>	2
ヤドカリ科の一種 <i>Diogenidae</i> sp.1	2	ワタリガニ科 Portunidae	
ヤドカリ科の仲間 <i>Diogenidae</i> spp.	1	ヒメヒラツメガニ <i>Ovalipes iridescens</i>	6
ホンヤドカリ科 Paguridae		タイワンガザミ <i>Portunus pelagicus</i>	6
メナガホンヤドカリ <i>Diacanthurus ophthalmicus</i>	1	アミメコギリガザミ <i>Scylla oceanica</i>	1
タンカクホンヤドカリ <i>Pagurus confusus</i>	1	オウギガニ科 Xanthidae	
ゼブラホンヤドカリ <i>Pylopaguropsis zebra</i>	2	スベスベマンジュウガニ <i>Atergatis floridus</i>	1
オキヤドカリ科 Parapaguridae		ウロコオウギガニモドキ <i>Demaria intermedia</i>	1
アカモントゲオキヤドカリ <i>Oncopagurus monstrosus</i>	8	マツバガニ <i>Hypothalassia armata</i>	2
ヒラテオキヤドカリ <i>Sympagurus planimanus</i>	1	ケブカキンチャクガニ <i>Polydectus cupulifer</i>	1
オカヤドカリ科 Coenobitidae		ウモレオウギガニ <i>Zosimus aeneus</i>	3
ヤシガニ <i>Birgus latro</i>	2	ケブカガニ属の一種 <i>Pilumnus</i> sp.	2
ワラエビ科 Chirostylidae		オウギガニ科の仲間 <i>Xanthidae</i> spp.	4
ミナミツノコシオリエビ <i>Eumunida pacifica</i>	9	サンゴガニ科 Trapeziidae	
コシオリエビ科 Galatheidae		クロサンゴガニ <i>Trapezia digitalis</i>	1
オオコシオリエビ <i>Cervimunida princeps</i>	3	アミメサンゴガニ <i>Trapezia septata</i>	4
コシオリエビ科の一種 <i>Galatheidae</i> sp.	9	スナガニ科 Ocypodidae	
カニダマシ科 Porcellanidae		ベニシオマネキ <i>Uca chlorophthalma</i>	32
アカボシカニダマシ <i>Neopetrolisthes ohshimai</i>	3	リュウキュウシオマネキ <i>Uca coarctata</i>	5
アサヒガニ科 Raninidae		ハクセンシオマネキ <i>Uca lactea</i>	4
アサヒガニ <i>Ranina ranina</i>	2	ヒメシオマネキ <i>Uca vocans</i>	3

和名 学名	数	和名 学名	数
<b>苔虫動物門 Bryozoa</b>		<b>オニヒトデ科 Acanthasteridae</b>	
裸喉綱 Gymnolaemata		オニヒトデ <i>Acanthaster planci</i>	2
唇口目 Cheilostomata		アカヒトデ目の一種 <i>Valvatida</i> sp.5	2
唇口目の一種 <i>Cheilostomata</i> sp.	1	<b>有棘目 Spinulosida</b>	
<b>棘皮動物門 Echinodermata</b>		<b>ルソンヒトデ科 Echinasteridae</b>	
海百合綱 Crinoidea		ルソンヒトデ <i>Echinaster luzonicus</i>	3
ゴカクウミユリ目 Isocrinida		叉棘目 <i>Forciplatida</i>	
ゴカクウミユリ科 Isocrinidae		マヒトデ科 <i>Asteriidae</i>	
オオウミユリ <i>Saracrinus nobilis</i>	4	ニッポンヒトデ属の一種 <i>Distolasterias</i> sp.	3
海羊歯目 Comatulida		キヒトデ科 <i>Asteriidae</i>	
クシウミシダ科 <i>Comasteridae</i>		カンムリヒトデ <i>Coronaster volsellatus</i>	2
ハノウミシダ <i>Comanthina nobilis</i>	13	モミジガイ目 <i>Paxillosida</i>	
リュウキュウウミシダ <i>Oxycomanthus mariae</i>	13	モミジガイ科 <i>Astropectinidae</i>	
オオウミシダ科 <i>Tropiometridae</i>		オオモミジモドキ <i>Persephonaster euryactis</i>	1
オオウミシダ <i>Tropiometra afra macrodiscus</i>	2	モミジガイ科の一種 <i>Astropectinidae</i> sp.	1
アシナガウミシダ科 <i>Asterometridae</i>		<b>蛇尾綱 Ophiuroidea</b>	
アシナガウミシダ <i>Asterometra macropoda</i>	1	革蛇尾目 <i>Phrynophiurida</i>	
海星綱 <i>Asteroidea</i>		テヅルモヅル科 <i>Gorgonocephalidae</i>	
縁弁目 <i>Valvatida</i>		セノテヅルモヅル <i>Astrocladus coniferus</i>	5
ゴカクヒトデ科 <i>Goniasteridae</i>		サキワレテヅルモヅル <i>Astroclon propugnatoris</i>	1
アカモミジヒトデ <i>Pseudarchaster parelii</i>	4	テヅルモヅル科の一種 <i>Gorgonocephalidae</i> sp.2	1
ヒメチシオヒトデ <i>Tosia queenslandensis</i>	1	蛇尾目 <i>Ophiurida</i>	
ゴカクヒトデ科の仲間 <i>Goniasteridae</i> spp.	9	トゲクモヒトデ科 <i>Ophiothricidae</i>	
アカヒトデ科 <i>Ophidiasteridae</i>		トゲクモヒトデ科の一種 <i>Ophiothricidae</i> sp.	15
トガリアライボヒトデ <i>Gomophia egyptiaca</i>	4	クモヒトデ目の一種 <i>Ophiurida</i> sp.1	19
アライボヒトデ <i>Gomophia frianti</i>	5	クモヒトデ綱の一種 <i>Ophiuroidea</i> sp.1	7
ミナミジュズベリヒトデ <i>Fromia indica</i>	1	<b>海胆綱 Echinoidea</b>	
アミメジュズベリヒトデ <i>Fromia indica</i>	12	オウサマウニ目 <i>Cidaroida</i>	
ジュズベリヒトデ <i>Fromia monilis</i>	14	オウサマウニ科 <i>Cidaridae</i>	
アカヒメジュズベリヒトデ <i>Fromia milleporella</i>	7	マツカサウニ <i>Eucidaris metularia</i>	1
ムラサキヒトデ <i>Linckia guildingi</i>	1	フシザオウニ <i>Plococidaris verticillata</i>	4
アオヒトデ <i>Linckia laevigata</i>	71	ノコギリウニ <i>Prionocidaris baculosa</i>	3
ウスイロホウキボシ <i>Linckia multifora</i>	3	フトサオウニ <i>Stereocidaris grandis</i>	2
アズキイボヒトデ <i>Nardoa</i> sp.	1	ハリサオウニ <i>Stylocidaris reini</i>	4
イボヒトデ <i>Nardoa tuberculata</i>	2	オウサマウニ科の仲間 <i>Cidaridae</i> spp.	8
アカモンヒトデ <i>Neoferdina cumingi</i>	2	フクロウニ科 <i>Echinothuriidae</i>	
ホウキボシ科 <i>Ophidiasteridae</i>		フクロウニ科の仲間 <i>Echinothuriidae</i> spp.	5
サメハダヒトデ属の一種 <i>Nepanthia</i> sp.	2	ガンガゼ目 <i>Diadematoidea</i>	
ホウキボシ科の一種 <i>Ophidiasteridae</i> sp.3	3	ガンガゼ科 <i>Diademataidae</i>	
コブヒトデ科 <i>Oreasteridae</i>		ガンガゼ <i>Diadema setosum</i>	8
カワテブクロ <i>Choriaster granulatus</i>	22	トックリガンガゼモドキ <i>Echinothrix calamaris</i>	1
マンジュウヒトデ <i>Culcita novaeguineae</i>	42	サンショウウニ目 <i>Temnopleuroidea</i>	
アワユキヒトデ <i>Gymnanthenea globigera</i>	3	ラッパウニ科 <i>Toxopneustidae</i>	
コブヒトデモドキ <i>Protoreaster alveolatus</i>	1	マダラウニ <i>Pseudoboletia indiana</i>	4
コブヒトデ <i>Protoreaster nodosus</i>	42	シラヒゲウニ <i>Tripneustes gratilla</i>	1
コブヒトデ科の一種 <i>Protaster obtusatus</i>	2	ホンウニ目 <i>Echinoida</i>	
ノコギリヒトデ科 <i>Asteropseidae</i>		ナガウニ科 <i>Echinometridae</i>	
ノコギリヒトデ <i>Asteropsis carinifera</i>	2	パイブウニ <i>Heterocentrotus mammillatus</i>	5

和名 学名	数	和名 学名	数
海鼠綱 Holothuroidea		ナガサキトラザメ <i>Halaelurus buergeri</i>	4
楯手目 Aspidochirotida		イモリザメ <i>Parmaturus pilosus</i>	7
クロナマコ科 Holothuriidae		トラザメ <i>Scyliorhinus torazame</i>	23
ツボナマコ <i>Actinopyga echinites</i>	4	ドチザメ科 Triakidae	
オオクリイロナマコ <i>Actinopyga</i> sp.	3	イレズミエイラクブカ <i>Hemitriakis complicofasciata</i>	1
オオクロシカクナマコ <i>Actinopyga</i> sp.	1	エイラクブカ <i>Hemitriakis japonica</i>	25
ジャノメナマコ <i>Bohadschia argus</i>	1	ホシザメ <i>Mustelus manazo</i>	4
フタスジナマコ <i>Bohadschia bivittata</i>	2	タイワンザメ <i>Proscyllium habeneri</i>	3
ニセジャノメナマコ <i>Bohadschia</i> sp.	1	ヒョウザメ <i>Proscyllium venustum</i>	8
チズナマコ <i>Bohadschia vitiensis</i>	4	メジロザメ科 Carcharinidae	
クロエリナマコ <i>Personothuria graeffei</i>	14	クロヘリメジロ <i>Carcharhinus brachyurus</i>	1
ニセクロナマコ <i>Holothuria leucospirata</i>	21	オオメジロザメ <i>Carcharhinus leucas</i>	14
エクレアナマコ <i>Holothuria nigralutea</i>	1	ツماغロ <i>Carcharhinus melanopterus</i>	6
イシナマコ <i>Holothuria nobilis</i>	17	ヤジブカ <i>Carcharhinus plumbeus</i>	7
ハネジナマコ <i>Holothuria scabra</i>	6	レモンザメ <i>Negaprion acutidens</i>	8
モグラクロナマコ <i>Holothuria</i> sp.	1	ネムリブカ <i>Triaenodon obesus</i>	17
シカクナマコ科 Stichopodidae		カグラザメ目 Hexanchiformes	
シカクナマコ <i>Stichopus chloronotus</i>	2	エビスザメ科 Notorynchidae	
ヨコスジオオナマコ <i>Stichopus hermanni</i>	5	エビスザメ <i>Notorynchus cepedianus</i>	2
タマナマコ <i>Stichopus variegatus</i>	1	ツノザメ目 Squaliformes	
バイカナマコ <i>Thelenota ananas</i>	8	ツノザメ科 Squalidae	
アデヤカバイカナマコ <i>Thelenota anax</i>	1	ツマリツノザメ <i>Squalus brevirostris</i>	3
無足目 Apodida		フトツノザメ <i>Squalus mitsukurii</i>	5
イカリナマコ科 Synaptidae		ヒゲツノザメ <i>Cirrhigaleus barbifer</i>	1
オオイカリナマコ <i>Synapta maculata</i>	7	ノコギリザメ目 Pristiophoriformes	
海鼠綱の仲間 Holothuroidea spp.	8	ノコギリザメ科 Pristiophoridae	
		ノコギリザメ <i>Pristiophorus japonicus</i>	3
脊索動物門 Chordata		カスザメ目 Squatiniformes	
メクラウナギ綱 Mixini		カスザメ科 Squatinidae	
メクラウナギ目 Mixiniformes		カスザメ <i>Squatina japonica</i>	2
メクラウナギ科 Myxinidae		エイ目 Rajiformes	
ムラサキヌタウナギ <i>Eptatretus okinoseanus</i>	2	シノノメサカタザメ科 Rhinidae	
軟骨魚綱 Chondrichthys		シノノメサカタザメ <i>Rhina ancylostoma</i>	2
ネコザメ目 Heterodontiformes		トンガリサカタザメ <i>Rhynchobatus djiddensis</i>	3
ネコザメ科 Heterodontidae		ガンギエイ科 Rajidae	
ネコザメ <i>Heterodontus japonicus</i>	9	コモンカスベ <i>Raja kenoei</i>	1
テンジクザメ目 Orectolobiformes		ツマリカスベ <i>Raja schmidti</i>	2
テンジクザメ科 Hemiscylliidae		ガンギエイ科の一種 Rajidae sp.	4
イヌザメ <i>Chiloscyllium punctatum</i>	42	アカエイ科 Dasyatidae	
オオテンジクザメ科 Ginglymostomatidae		ツカエイ <i>Dasyatis sephen</i>	1
オオテンジクザメ <i>Nebrius ferrugineus</i>	19	ウシエイ <i>Dasyatis ushieii</i>	4
トラフザメ科 Stegostomatidae		オグロオトメエイ <i>Himantura fai</i>	14
トラフザメ <i>Stegostoma fasciatum</i>	19	ヒョウモンオトメエイ <i>Himantura uarnak</i>	13
ジンベエザメ科 Rhincodontidae		イバラエイ <i>Urogymnus asperrimus</i>	3
ジンベエザメ <i>Rhincodon typus</i>	5	トビエイ科 Myliobatidae	
メジロザメ目 Carcharhiniformes		マダラトビエイ <i>Aetobatus narinari</i>	26
トラザメ科 Scyliorhinidae		ウシバナトビエイ <i>Rhinoptera javanica</i>	135
ナヌカザメ <i>Cephaloscyllium umbratile</i>	13	ナンヨウマンタ <i>Manta alfredi</i>	11

和名 学名	数	和名 学名	数
条鰭綱 Actinopterygii		アンコウ目 Lophiiformes	
カライワシ目 Elopiformes		アカグツ科 Ogcocephalidae	
カライワシ科 Elopidae		ワヌケフウリュウウオ <i>Malthopsis annulifera</i>	3
カライワシ <i>Elops hawaiensis</i>	2	ゴマフウリュウウオ <i>Malthopsis tiarella</i>	1
ウナギ目 Anguilliformes		ボラ目 Mugiliformes	
ウナギ科 Anguillidae		ボラ科 Mugilidae	
オオウナギ <i>Anguilla marmorata</i>	2	ボラ科の仲間 Mugilidae spp.	12
ウツボ科 Muraenidae		ダツ目 Beloniformes	
クモウツボ <i>Echidna nebulosa</i>	1	メダカ科 Adrianichthyidae	
オナガウツボ <i>Evenchelys macrurus</i>	1	メダカ(国頭産) <i>Oryzias latipes</i>	2
ゼブラウツボ <i>Gymnomuraena zebra</i>	1	メダカ(嘉手納産) <i>Oryzias latipes</i>	15
ハワイウツボ <i>Gymnothorax berndti</i>	1	カダヤシ目 Cyprinodontiformes	
ドクウツボ <i>Gymnothorax javanicus</i>	4	カダヤシ科 Poeciliidae	
ウツボ <i>Gymnothorax kidako</i>	1	グッピー <i>Poecilia reticulata</i>	3
ユリウツボ <i>Gymnothorax leucostigma</i>	1	キンメダイ目 Beryciformes	
ニセゴイシウツボ <i>Gymnothorax melanospilus</i>	3	イトウダイ科 Holocentridae	
ミゾレウツボ <i>Gymnothorax neglectus</i>	4	ヒレグロイトウダイ <i>Neoniphon opercularis</i>	1
ヘリゴイシウツボ <i>Gymnothorax fimbriatus</i>	1	ウケグチイトウダイ <i>Neoniphon sammara</i>	8
アミウツボ <i>Gymnothorax minor</i>	1	クラカケエビス <i>Sargocentron caudimaculatum</i>	1
サビウツボ <i>Gymnothorax thyrsoideus</i>	1	テリエビス <i>Sargocentron itodai</i>	4
ナゴキカイウツボ <i>Uropterygius nagoensis</i>	1	スミツキカノコ <i>Sargocentron melanospilos</i>	1
ホラアナゴ科 Synbranchidae		アヤメエビス <i>Sargocentron ruburum</i>	4
ヒレジロアナゴ <i>Meadia abyssale</i>	12	トガリエビス <i>Sargocentron spiniferum</i>	2
ウミヘビ科 Ophichthidae		アカマツカサ <i>Myripristis berndti</i>	58
スソウミヘビ <i>Ophichthus urolophus</i>	2	キビレマツカサ <i>Myripristis chryseres</i>	2
アナゴ科 Congridae		クロオビマツカサ <i>Myripristis kuntee</i>	7
ニシキアナゴ <i>Gorgasia preclara</i>	2	エビスダイ <i>Ostichthys japonicus</i>	3
チンアナゴ <i>Heteroconger hassi</i>	49	カイエビス <i>Ostichthys kaianus</i>	2
アナゴ科の仲間 Congridae spp.	6	イトウダイ科の仲間 Holocentridae spp.	1
コイ目 Cypriniformes		マツカサウオ科 Monocentridae	
コイ科 Cyprinidae		マツカサウオ(オーストラリア産) <i>Cleidopus gloriamaris</i>	37
ギンプナ <i>Carassius auratus</i>	3	マツカサウオ <i>Monocentris japonica</i>	9
ゲンゴロウブナ <i>Carassius cuvieri</i>	1	ヒウチダイ科 Trachichthyidae	
フナ属の仲間 <i>Carassius</i> spp.	1	ハシキンメ <i>Gephyroberyx japonicus</i>	1
ナマズ目 Siluriformes		ヒカリキンメ科	
ヒレナマズ科 Clariidae		ヒカリキンメダイ <i>Anomalops katoptron</i>	174
ヒレナマズ <i>Clarias fuscus</i>	1	マトウダイ目 Zeiformes	
ゴンズイ科 Plotosidae		マトウダイ科 Zeidae	
ゴンズイ <i>Plotosus lineatus</i>	7	マトウダイ <i>Zeus faber</i>	4
サケ目 Salmoniformes		トゲウオ目 Gasterosteiformes	
アユ科 Plecoglossidae		ウミテング科 Pegasidae	
リュウキュウアユ <i>Plecoglossus altivelis ryukyuensis</i>	19	ウミテング <i>Eurypegasis draconis</i>	1
ヒメ目 Aulopiformes		カミソリウオ科 Solenostomidae	
ヒメ科 Aulopodidae		カミソリウオ <i>Solenostomus cyanopterus</i>	1
ハタダテヒメ <i>Aulopus</i> sp.	6	ヨウジウオ科 Syngnathidae	
エソ科 Synodontidae		イシヨウジ <i>Corythoichthys haematopterus</i>	7
エソ科の一種 Synodontidae sp.	3	ヒバシヨウジ <i>Doryrhamphus excisus</i>	1
		オイランヨウジ <i>Doryrhamphus dactyliophorus</i>	8

和名 学名	数	和名 学名	数
クロウミウマ <i>Hippocampus kuda</i>	67	シロブチハタ <i>Epinephelus maculatus</i>	4
サギフエ科 <i>Macroramphosidae</i>		ヤイトハタ <i>Epinephelus malabaricus</i>	2
サギフエ <i>Macroramphosus scolopax</i>	3	カンモンハタ <i>Epinephelus merra</i>	4
ヘコアユ科 <i>Centriscidae</i>		ホウキハタ <i>Epinephelus morrhua</i>	2
ヘコアユ <i>Aeoliscus strigatus</i>	25	アカハタモドキ <i>Epinephelus retouti</i>	1
タウナギ目 <i>Synbranchiformes</i>		カスリハタ <i>Epinephelus tukula</i>	4
タウナギ科 <i>Synbranchidae</i>		オオアオノメアラ <i>Plectropomus areolatus</i>	1
タウナギ <i>Monopterus albus</i>	1	コクハンアラ <i>Plectropomus laevis</i>	2
カサゴ目 <i>Scorpaeniformes</i>		アゴハタ <i>Pogonoperca punctata</i>	1
フサカサゴ科 <i>Scorpaenidae</i>		ルリハタ <i>Aulacocephalus temmincki</i>	1
ユメカサゴ <i>Helicolenus hilgendorfi</i>	1	バラスズキ <i>Liopropoma aragai</i>	2
イズカサゴ <i>Scorpaena izensis</i>	5	トゲハナスズキ <i>Liopropoma japonicum</i>	1
オニカサゴ <i>Scorpaenopsis cirrhosa</i>	1	ハタ科の仲間 <i>Serranidae</i> spp.	1
サツマカサゴ <i>Scorpaenopsis neglecta</i>	1	メギス科 <i>Pseudochromidae</i>	
ウルマカサゴ <i>Scorpaenopsis oxycephala</i>	1	メギス <i>Labracinus cyclophthalmus</i>	3
クロソイ <i>Sebastes schlegelii</i>	1	クロナイニセスズメ <i>Pseudochromis porphyreus</i>	2
ハダカハオコゼ <i>Taenianotus triacanthus</i>	1	タナバタウオ科 <i>Plesiopidae</i>	
シマヒメヤマノカミ <i>Dendrochirus brachypterus</i>	1	シモフリタナバタウオ <i>Callopleysiops altivelis</i>	1
キリンミノ <i>Dendrochirus zebra</i>	1	キントキダイ科 <i>Priacanthidae</i>	
ハナミノカサゴ <i>Pterois volitans</i>	2	チカメキントキ <i>Cookeolus japonicus</i>	1
ヒレナガカサゴ <i>Neosebastes entaxis</i>	2	ゴマヒレキントキ <i>Heteropriacanthus cruentatus</i>	1
オニダルマオコゼ <i>Synanceia verrucosa</i>	4	ミナミキントキ <i>Priacanthus sagittarius</i>	3
ホウボウ科 <i>Triglidae</i>		クルマダイ <i>Pristigenys nipponia</i>	1
ツラナガカナガシラ <i>Lepidotrigla longifaciata</i>	1	テンジクダイ科 <i>Apogonidae</i>	
ハリゴチ科 <i>Hoplichthyidae</i>		ウスモモテンジクダイ <i>Apogon giberti</i>	48
ソコハリゴチ <i>Hoplichthys gilberti</i>	1	イトヒキテンジクダイ <i>Apogon leptacanthus</i>	51
スズキ目 <i>Perciformes</i>		モンツキイシモチ <i>Apogon melas</i>	1
ホタルジャコ科 <i>Acropomatidae</i>		キンセンイシモチ <i>Apogon properuptus</i>	1
ナガオオメハタ <i>Malakichthys elegans</i>	1	リュウキュウヤライイシモチ <i>Cheilodipterus macrodon</i>	1
ハタ科 <i>Serranidae</i>		ヤライイシモチ <i>Cheilodipterus quinquelineatus</i>	27
アカイサキ <i>Caprodon schlegelii</i>	2	アトヒキテンジクダイ <i>Archamia lineolata</i>	1
ニシキハナダイ <i>plecranthias yamakawai</i>	3	ムツ科 <i>Pomatomidae</i>	
バラハナダイ <i>Holanthias katayamai</i>	1	ムツ <i>Scombrops boops</i>	7
マダラハナダイ <i>Holanthias borbonius</i>	3	コバンザメ科 <i>Echeneidae</i>	
アカネハナゴイ <i>Pseudanthias dispar</i>	384	コバンザメ <i>Echeneis naucrates</i>	12
スジハナダイ <i>Pseudanthias fasciatus</i>	1	スギ科 <i>Rachycentridae</i>	
スマレナガハナダイ <i>Pseudanthias pleurotaenia</i>	8	スギ <i>Rachycentron canadum</i>	2
キンギョハナダイ <i>Pseudanthias squamipinnis</i>	56	シイラ科 <i>Coryphaenidae</i>	
ハナゴイ <i>Pseudanthias pascualis</i>	33	シイラ <i>Coryphaena hippurus</i>	2
ハナハタ <i>Cephalopholis aurantia</i>	1	アジ科 <i>Carangidae</i>	
ヤミハタ <i>Cephalopholis boenak</i>	5	マルコバン <i>Trachinotus blochii</i>	9
シマハタ <i>Cephalopholis igarashiensis</i>	1	ミナミイケカツオ <i>Scomberoides tol</i>	5
ユカタハタ <i>Cephalopholis miniata</i>	4	ツムブリ <i>Elagatis bipinnulata</i>	7
アザハタ <i>Cephalopholis sonnerati</i>	4	ヒレナガカンバチ <i>Seriola rivoliana</i>	6
ニジハタ <i>Cephalopholis urodeta</i>	17	ウマヅラアジ <i>Alectis indicua</i>	1
クエ <i>Epinephelus bruneus</i>	1	マブタシマアジ <i>Alepes vari</i>	5
ツチホゼリ <i>Epinephelus cyanopodus</i>	1	ヨロイアジ <i>Carangoides armatus</i>	1
アカハタ <i>Epinephelus fasciatus</i>	1	ホシカイワリ <i>Carangoides fulvoguttatus</i>	1
タマカイ <i>Epinephelus lanceolatus</i>	6	ロウニンアジ <i>Caranx ignobilis</i>	2



和名 学名	数	和名 学名	数
カスミアジ <i>Caranx melampyus</i>	56	ムスジコシヨウダイ <i>Plectorhinchus orientalis</i>	2
オニヒラアジ <i>Caranx papuensis</i>	14	タイ科 Sparidae	
ギンガメアジ <i>Caranx sexfasciatus</i>	26	キビレアカレンコ <i>Dentex</i> spp.	1
モロ <i>Decapterus macrosoma</i>	64	タイワンダイ <i>Angyrops bleekeri</i>	1
ムロアジ <i>Decapterus muroadsi</i>	669	クロダイの一種 <i>Acanthopagrus</i> sp.	1
インドマルアジ <i>Decapterus russelli</i>	1	フエフキダイ科 Lethrinidae	
コガネシマアジ <i>Gnathanodon speciosus</i>	27	ノコギリダイ <i>Gnathodentex aureolineatus</i>	19
シマアジ <i>Pseudocaranx dentex</i>	2	シロダイ <i>Gymnocranius euanus</i>	2
メアジ <i>Selar crumenophthalmus</i>	477	メイチダイ <i>Gymnocranius griseus</i>	3
ホソヒラアジ <i>Selaroides leptolepis</i>	15	イトフエフキ <i>Lethrinus genivittatus</i>	1
シマガツオ科 Bramidae		ハマフエフキ <i>Lethrinus nebulosus</i>	23
ヒメシマガツオ <i>Brama dussumieri</i>	1	キツネフエフキ <i>Lethrinus olivaceus</i>	9
ハチビキ科 Emmelichthyidae		ホオアカクチビ <i>Lethrinus rubrioperculatus</i>	2
ロウソクチビキ <i>Emmelichthys struhsakeri</i>	32	イトヨリダイ科 Nemipteridae	
ハチビキ <i>Erythrocles schlegeli</i>	6	アカタマガシラ <i>Parascalopsis eriomma</i>	6
フエダイ科 Lutjanidae		タマガシラ <i>Parascalopsis inermis</i>	3
イシフエダイ <i>Aphareus furca</i>	1	キツネウオ <i>Pentapodus caninus</i>	23
アオダイ <i>Paracaesio caerulea</i>	7	フタスジタマガシラ <i>Scolopsis bilineata</i>	9
シマアオダイ <i>Paracaesio kusakarii</i>	1	ヒトスジタマガシラ <i>Scolopsis monogramma</i>	3
ウメイロ <i>Paracaesio xanthura</i>	8	ツバメコノシロ科 Polynemidae	
ハナフエダイ <i>Pristipomoides argyrogrammicus</i>	5	ツバメコノシロ <i>Polydactylus plebeius</i>	1
オオヒメ <i>Pristipomoides filamentosus</i>	5	ヒメジ科 Mullidae	
ヒメダイ <i>Pristipomoides sieboldii</i>	11	リュウキュウアカヒメジ <i>Mulloidichthys pfluegeri</i>	8
オオクチハマダイ <i>Etelis radius</i>	3	アカヒメジ <i>Mulloidichthys vanicolensis</i>	3
ハチジョウアカムツ <i>Etelis carbunculus</i>	6	インドヒメジ <i>Parupeneus barberinoides</i>	3
ハマダイ <i>Etelis coruscans</i>	2	オオスジヒメジ <i>Parupeneus barberinus</i>	4
イトヒキフエダイ <i>Symphorus nematophorus</i>	1	ホウライヒメジ <i>Parupeneus ciliatus</i>	6
ゴマフエダイ <i>Lutjanus argentimaculatus</i>	1	マルクチヒメジ <i>Parupeneus cyclostomus</i>	4
ベンガルフエダイ <i>Lutjanus bengalensis</i>	1	タカサゴヒメジ <i>Parupeneus heptacanthus</i>	8
バラフエダイ <i>Lutjanus bohar</i>	1	オジサン <i>Parupeneus multifasciatus</i>	88
アミメフエダイ <i>Lutjanus decussatus</i>	1	リュウキュウヒメジ <i>Parupeneus pleurostigma</i>	13
オキフエダイ <i>Lutjanus fulvus</i>	1	ハタンボ科 Pempheridae	
ヒメフエダイ <i>Lutjanus gibbus</i>	59	ミナミハタンボ <i>Pempheris schwenkii</i>	7
ヨスジフエダイ <i>Lutjanus kasmira</i>	49	リュウキュウハタンボ <i>Pempheris oualensis</i>	1
キンセンフエダイ <i>Lutjanus lutjanus</i>	3	ヒメツバメウオ科 Monodactylidae	
イッテンフエダイ <i>Lutjanus monostigma</i>	1	ヒメツバメウオ <i>Monodactylus argenteus</i>	39
ロクセンフエダイ <i>Lutjanus quinquelineatus</i>	1	チョウチョウウオ科 Chaetodontidae	
フエダイ <i>Lutjanus stellatus</i>	1	カガミチョウチョウウオ <i>Chaetodon argentatus</i>	3
タテフエダイ <i>Lutjanus vitta</i>	7	トゲチョウチョウウオ <i>Chaetodon auriga</i>	33
マダラタルミ <i>Macolor niger</i>	2	チョウチョウウオ <i>Chaetodon auripes</i>	32
ササムロ <i>Caesio caeruleaurea</i>	34	ミカドチョウチョウウオ <i>Chaetodon baronessa</i>	1
ユメウメイロ <i>Caesio cuning</i>	129	ウミジキチョウチョウウオ <i>Chaetodon bennetti</i>	4
ウメイロモドキ <i>Caesio teres</i>	22	ゴマチョウチョウウオ <i>Chaetodon citrinellus</i>	2
チカメタカサゴ <i>Pinjalo pinjalo</i>	1	ユウゼン <i>Chaetodon daedalma</i>	1
タカサゴ <i>Pterocaesio digramma</i>	4,932	セグロチョウチョウウオ <i>Chaetodon ephippium</i>	7
クマササハナムロ <i>Pterocaesio tile</i>	315	ミヅレチョウチョウウオ <i>Chaetodon kleinii</i>	13
イッセンタカサゴ <i>Pterocaesio trilineata</i>	5	ニセフウライチョウチョウウオ <i>Chaetodon lineolatus</i>	8
イサキ科 Haemulidae		チョウハン <i>Chaetodon lunula</i>	12
ミジイサキ <i>Pomadasys argenteus</i>	1	アケボノチョウチョウウオ <i>Chaetodon melannotus</i>	1

和名 学名	数	和名 学名	数
スミツキトノサマダイ <i>Chaetodon plebeius</i>	8	ホシゴンベ <i>Paracirrhites forsteri</i>	1
アミチョウチョウウオ <i>Chaetodon rafflesi</i>	1	タカノハダイ科 <i>Cheilodactylidae</i>	
ハクテンカタギ <i>Chaetodon reticulatus</i>	3	タカノハダイ <i>Goniistius zonatus</i>	3
トノサマダイ <i>Chaetodon speculum</i>	1	カワスズメ科 <i>Cichlidae</i>	
ヤリカタギ <i>Chaetodon trifascialis</i>	4	コンヴィクトシクリッド <i>Archocentrus nigrofasciatus</i>	2
ミスジチョウチョウウオ <i>Chaetodon trifasciatus</i>	16	モザンビークティラピア <i>Oreochromis mossambicus</i>	2
スダレチョウチョウウオ <i>Chaetodon ulietensis</i>	1	ナイルティラピア <i>Oreochromis niloticus</i>	2
イッテンチョウチョウウオ <i>Chaetodon unimaculatus</i>	1	<i>Otopharynx lithobates</i>	26
フウライチョウチョウウオ <i>Chaetodon vagabundus</i>	12	ジルティラピア <i>Tilapia zilli</i>	1
フエヤッコダイ <i>Forcipiger flavissimus</i>	18	スズメダイ科 <i>Pomacentridae</i>	
カスミチョウチョウウオ <i>Hemitaurichthys polylepis</i>	232	クマノミ <i>Amphiprion clarkii</i>	4
トンプソンチョウチョウウオ <i>Hemitaurichthys thompsoni</i>	1	ハマクマノミ <i>Amphiprion frenatus</i>	41
ハタタテダイ <i>Heniochus acuminatus</i>	13	カクレクマノミ <i>Amphiprion ocellaris</i>	7
ミナミハタタテダイ <i>Heniochus chrysostomus</i>	2	ハナビラクマノミ <i>Amphiprion perideraion</i>	3
ムレハタタテダイ <i>Heniochus diphreutes</i>	8	トウアカクマノミ <i>Amphiprion polymnus</i>	1
オニハタタテダイ <i>Heniochus monoceros</i>	6	セジロクマノミ <i>Amphiprion sandaracinos</i>	4
シマハタタテダイ <i>Heniochus singularius</i>	1	アオバスズメダイ <i>Chromis atripectoralis</i>	122
キンチャクダイ科 <i>Pomacanthidae</i>		アマミスズメダイ <i>Chromis chrysur</i>	1
シテンヤッコ <i>Apolemichthys trimaculatus</i>	4	キホシスズメダイ <i>Chromis flavomaculata</i>	22
ソメワケヤッコ <i>Centropyge bicolor</i>	1	ササスズメダイ <i>Chromis lepidolepis</i>	1
アカハラヤッコ <i>Centropyge ferrugatus</i>	1	シコクスズメダイ <i>Chromis margaritifer</i>	2
コガネヤッコ <i>Centropyge flavissimus</i>	1	トウカイスズメダイ <i>Chromis mirationis</i>	6
レンテンヤッコ <i>Centropyge interrupta</i>	1	デバスズメダイ <i>Chromis viridis</i>	1,999
アブラヤッコ <i>Centropyge tibicen</i>	4	ミスジリュウキュウスズメダイ <i>Dascyllus aruanus</i>	125
ナメラヤッコ <i>Centropyge vroliki</i>	1	フタスジリュウキュウスズメダイ <i>Dascyllus reticulatus</i>	22
チリメンヤッコ <i>Chaetodontoplus mesoleucus</i>	2	ミツボシクロスズメダイ <i>Dascyllus trimaculatus</i>	18
タデジマヤッコ <i>Genicanthus lamarck</i>	3	ロクセンズメダイ <i>Abudefduf sexfasciatus</i>	24
ヒレナガヤッコ <i>Genicanthus watanabei</i>	1	シマスズメダイ <i>Abudefduf sordidus</i>	2
スマレヤッコ <i>Holacanthus venustus</i>	2	オヤビッチャ <i>Abudefduf vaigiensis</i>	11
ワスケヤッコ <i>Pomacanthus annularis</i>	1	クラカオスズメダイ <i>Amblyglyphidodon curacao</i>	13
タデジマキンチャクダイ <i>Pomacanthus imperator</i>	4	ルリスズメダイ <i>Chrysiptera cyanea</i>	269
サザナミヤッコ <i>Pomacanthus semicirculatus</i>	3	ネズスズメダイ <i>Chrysiptera glauca</i>	1
アデヤッコ <i>Pomacanthus xanthometopon</i>	1	クロスズメダイ <i>Neoglyphidodon melas</i>	2
ニシキヤッコ <i>Pygoplites diacanthus</i>	2	ヒレナガスズメダイ <i>Neoglyphidodon nigroris</i>	2
カワビシヤ科 <i>Pentacerotidae</i>		モンツキスズメダイ <i>Pomacentrus alexanderae</i>	1
ツボダイ <i>Pentaceros japonicus</i>	22	ニセネットアイスズメダイ <i>Pomacentrus amboinensis</i>	2
カゴガキダイ科 <i>Microcanthidae</i>		オジロスズメダイ <i>Pomacentrus chrysurus</i>	2
カゴカキダイ <i>Microcanthus strigatus</i>	2	ソラスズメダイ <i>Pomacentrus coelestis</i>	19
メジナ科 <i>Girelidae</i>		ネットアイスズメダイ <i>Pomacentrus moluccensis</i>	12
オキナメジナ <i>Girella mezinga</i>	3	フィリピンズズメダイ <i>Pomacentrus philippinus</i>	4
ユゴイ科 <i>Kuhliidae</i>		セダカスズメダイ <i>Stegastes altus</i>	1
ユゴイ <i>Kuhlia marginata</i>	1	クロソラスズメダイ <i>Stegastes nigricans</i>	1
ギンユゴイ <i>Kuhlia mugil</i>	37	ベラ科 <i>Labridae</i>	
オオクチユゴイ <i>Kuhlia rupestris</i>	3	スミツキベラ <i>Bodianus axillaris</i>	1
ゴンベ科 <i>Cirrhitidae</i>		キツネベラ <i>Bodianus bilunulatus</i>	7
ヒメゴンベ <i>Cirrhichthys oxycephalus</i>	1	モンツキベラ <i>Bodianus diana</i>	2
クダゴンベ <i>Oxycirrhites typus</i>	1	ヒレグロベラ <i>Bodianus hirsutus</i>	1
メガネゴンベ <i>Paracirrhites arcatus</i>	1	アカホシキツネベラ <i>Bodianus leucostictus</i>	1
		キツネダイ <i>Bodianus oxycephalus</i>	1

和名 学名	数	和名 学名	数
タキベラ <i>Bodianus perditio</i>	3	イチモンジブダイ <i>Scarus forsteni</i>	11
アカテンモチノウオ <i>Cheilinus chlorourus</i>	2	ヒブダイ <i>Scarus ghobban</i>	1
ホホスジモチノウオ <i>Cheilinus diagrammus</i>	4	ナンヨウブダイ <i>Scarus gibbus</i>	4
ヤシヤベラ <i>Cheilinus fasciatus</i>	5	ブチブダイ <i>Scarus niger</i>	4
ヒトスジモチノウオ <i>Cheilinus rhodochrous</i>	2	ニシキブダイ <i>Scarus prasiognathos</i>	3
メガネモチノウオ <i>Cheilinus undlatus</i>	5	オウムブダイ <i>Scarus psittacus</i>	1
ミツバモチノウオ <i>Cheilinus trilobatus</i>	1	スジブダイ <i>Scarus rivulatus</i>	4
クラカケベラ <i>Choerodon jordani</i>	7	ナガブダイ <i>Scarus rubroviolaceus</i>	16
シロクラベラ <i>Choerodon schoenleinii</i>	3	オビブダイ <i>Scarus schlegeli</i>	49
クロヘリイトヒキベラ <i>Cirrhilabrus cyanopleura</i>	72	ハゲブダイ <i>Scarus sordidus</i>	14
ニシキイトヒキベラ <i>Cirrhilabrus exquisitus</i>	4	タイワンブダイ <i>Calotomus carolinus</i>	2
カンムリベラ <i>Coris aygula</i>	5	タウエガジ科 <i>Stichaenidae</i>	
スジベラ <i>Coris dorsomacula</i>	5	フサギンボ <i>Chirolophis japonicus</i>	1
ツユベラ <i>Coris gaimardi</i>	3	トラギス科 <i>Pinguipedidae</i>	
ムスメベラ <i>Coris picta</i>	2	ダンダラトラギス <i>Parapercis cylindrica</i>	1
ギチベラ <i>Epibulus insidiator</i>	1	サンゴトラギス <i>Parapercis multiplicata</i>	8
クギベラ <i>Gomphosus varius</i>	1	オグロトラギス <i>Parapercis polyophtalma</i>	1
カノコベラ <i>Halichoeres marginatus</i>	2	イソギンボ科 <i>Blenniidae</i>	
ムナテンベラ <i>Halichoeres melanochir</i>	1	イシガキカエルウオ <i>Ecsenius yaeyamaensis</i>	1
カザリキュウセン <i>Halichoeres melanurus</i>	3	カモハラギンボ <i>Meiacanthus kamoharailaudandus</i>	12
イナズマベラ <i>Halichoeres nebulosus</i>	1	ネズッポ科 <i>Callionymidae</i>	
ミツボシキュウセン <i>Halichoeres trimaculatus</i>	14	コウワンテグリ <i>Neosynchiropus ocellatus</i>	2
シマタレクチベラ <i>Hemigymnus fasciatus</i>	3	ニシキテグリ <i>Pterosynchiropus splendidus</i>	1
タレクチベラ <i>Hemigymnus melapterus</i>	3	カワアナゴ科 <i>Eleotridae</i>	
ナメラベラ <i>Hologymnosus annulatus</i>	3	ジャノメハゼ <i>Bostrychus sinensis</i>	3
シロタスキベラ <i>Hologymnosus doliatus</i>	9	タナゴモドキ <i>Hypseleotris cyprinoides</i>	1
ソメワケベラ <i>Labroides bicolor</i>	1	タメトモハゼ <i>Ophieleotris</i> sp.	2
ホンソメワケベラ <i>Labroides dimidiatus</i>	18	チチブモドキ <i>Eleotris acanthopoma</i>	47
シチセンベラ <i>Lienardella fasciata</i>	1	カワアナゴ属の仲間 <i>Eleotris</i> spp.	6
ノドクロベラ <i>Macropharyngodon meleagris</i>	6	ツバサハゼ科 <i>Rhyacichthyidae</i>	
ヤマシロベラ <i>Pseudocoris yamashiroi</i>	1	ツバサハゼ <i>Rhyacichthys aspro</i>	1
オトヒメベラ <i>Pseudojuloides elongatus</i>	1	ハゼ科 <i>Gobiidae</i>	
アカオビベラ <i>Stethojulis bandanensis</i>	4	ヤマブキハゼ <i>Amblyeleotris guttata</i>	1
ハラスジベラ <i>Stethojulis strigiventer</i>	9	クビアカハゼ <i>Amblyeleotris wheeleri</i>	1
コガシラベラ <i>Thalassoma amblycephalum</i>	9	サラサハゼ <i>Amblygobius phalaena</i>	7
ニシキベラ <i>Thalassoma cupido</i>	5	ガラスハゼ <i>Bryaninops yongei</i>	2
セナスジベラ <i>Thalassoma hardwicke</i>	36	ソメワケイソハゼ <i>Eviota nigriventris</i>	1
ヤンセンニシキベラ <i>Thalassoma janseni</i>	32	イチモンジコバンハゼ <i>Gobiodon albofasciatus</i>	3
オトメベラ <i>Thalassoma lunare</i>	2	キイロサンゴハゼ <i>Gobiodon okinawae</i>	5
ヤマブキベラ <i>Thalassoma lutescens</i>	345	アカテンコバンハゼ <i>Gobiodon rivulatus</i>	6
キヌベラ <i>Thalassoma purpureum</i>	1	コバンハゼ <i>Gobiodon</i> sp.1	5
ハコベラ <i>Thalassoma quinquevittatum</i>	1	ヒメカザリハゼ <i>Istigobius goldmanni</i>	1
リュウグウベラ <i>Thalassoma trilobatum</i>	4	マダラカザリハゼ <i>Istigobius rigilius</i>	1
オハグロベラ <i>Pteragogus aurigarius</i>	2	ミツボシゴマハゼ <i>Pandaka trimaculata</i>	2
ブダイ科 <i>Scaridae</i>		ダルマハゼ <i>Paragobiodon echinocephalus</i>	7
イロブダイ <i>Bolbometopon bicolor</i>	1	ミナミトビハゼ <i>Periophthalmus argentilineatus</i>	4
カンムリブダイ <i>Bolbometopon muricatum</i>	4	トビハゼ <i>Periophthalmus modestus</i>	2
キツネブダイ <i>Hipposcarus longiceps</i>	1	イレズミハゼ <i>Priolepis semidoliata</i>	1
カメレオンブダイ <i>Scarus chameleon</i>	6	ヒナハゼ <i>Redigobius bikolanus</i>	3

和名 学名	数	和名 学名	数
ゴクラクハゼ <i>Rhinogobius giurinus</i>	1	ニセカンランハギ <i>Acanthurus dussumieri</i>	5
ヒラヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp.DL	3	ナミダクロハギ <i>Acanthurus japonicus</i>	4
ボウズハゼ <i>Sicyopterus japonicus</i>	4	スジクロハギ <i>Acanthurus leucopareius</i>	6
カエルハゼ <i>Sicyopus leprurus</i>	3	ニジハギ <i>Acanthurus lineatus</i>	1
ナンヨウボウズハゼ <i>Stiphodon percnopterygionus</i>	1	ヒラニザ <i>Acanthurus mata</i>	36
ミズハゼ属の一種 <i>Luciogobius</i> sp.	2	メガネクロハギ <i>Acanthurus nigricans</i>	49
ヨロイボウズハゼ <i>Lentipes armatus</i>	1	クロモンツキ <i>Acanthurus nigricaudus</i>	17
ヤシヤハゼ <i>Stonogobiops</i> sp.	9	ナガニザ <i>Acanthurus nigrofuscus</i>	2
アオギハゼ <i>Trimma caudomaculatum</i>	8	モンツキハギ <i>Acanthurus olivaceus</i>	6
サザナミハゼ <i>Valenciennea longipinnis</i>	7	クロハギ <i>Acanthurus xanthopterus</i>	36
アカハチハゼ <i>Valenciennea strigata</i>	5	サザナミハギ <i>Ctenochaetus striatus</i>	6
オトメハゼ <i>Valenciennea puellaris</i>	2	カマス科 <i>Sphyraenidae</i>	
ツムギハゼ <i>Yongeichthys criniger</i>	2	オオカマス <i>Sphyraena putnamiae</i>	7
オオメワラスボ科 <i>Microdesmidae</i>		クロタチカマス科 <i>Gempylidae</i>	
ハタタテハゼ <i>Nemateleotris magnifica</i>	1	ナガタチカマス <i>Thyrsitoides marleyi</i>	3
サツキハゼ <i>Parioglossus dotui</i>	1	サバ科 <i>Scombridae</i>	
ミヤラビハゼ <i>Parioglossus raoi</i>	61	グルクマ <i>Rastrelliger kanagurta</i>	1,833
クロユリハゼ <i>Ptereleotris evides</i>	1	ヒラソウダ <i>Auxis thazard</i>	7
イトマンクロユリハゼ <i>Ptereleotris microlepis</i>	1	イソマグロ <i>Gymnosarda unicolor</i>	1
ゼブラハゼ <i>Ptereleotris zebra</i>	1	スマ <i>Euthynnus affinis</i>	19
マンジュウダイ科 <i>Ephippidae</i>		カツオ <i>Katsuwonus pelamis</i>	279
ミカツキツバメウオ <i>Platax boersii</i>	4	キハダ <i>Thunnus albacares</i>	915
ナンヨウツバメウオ <i>Platax orbicularis</i>	1	クロマグロ <i>Thunnus thynnus</i>	165
アカククリ <i>Platax pinnatus</i>	1	イボダイ科 <i>Centrolophidae</i>	
ツバメウオ <i>Platax teira</i>	5	メダイ <i>Hyperoglyphe japonica</i>	1
クロホシマンジュウダイ科 <i>Scatophagidae</i>		ゴクラクギョ科 <i>Belontiidae</i>	
クロホシマンジュウダイ <i>Scatophagus argus</i>	1	タイワンキンギョ <i>Macropodus opercularis</i>	27
アイゴ科 <i>Siganidae</i>		カレイ目 <i>Pleuronectiformes</i>	
ハナアイゴ <i>Siganus argenteus</i>	9	ダルマガレイ科 <i>Bothidae</i>	
サンゴアイゴ <i>Siganus corallinus</i>	16	ダルマガレイ科の一種 <i>Bothidae</i> sp.	2
アイゴ <i>Siganus fuscescens</i>	31	ササウシノシタ科 <i>Soleidae</i>	
ゴマアイゴ <i>Siganus guttatus</i>	2	ミナミウシノシタ <i>Pardachirus pavononinus</i>	2
マジリアイゴ <i>Siganus puellus</i>	2	サザナミウシノシタ <i>Soleichthys heterorhinos</i>	1
アマアイゴ <i>Siganus spinus</i>	88	フグ目 <i>Tetraodontiformes</i>	
ヒフキアイゴ <i>Siganus unimaculatus</i>	1	モンガラカワハギ科 <i>Balistidae</i>	
ヒメアイゴ <i>Siganus virgatus</i>	26	クマドリ <i>Balistapus undulatus</i>	3
ニザダイ科 <i>Acanthuridae</i>		モンガラカワハギ <i>Balistoides conspicillus</i>	15
ヒメテングハギ <i>Naso annulatus</i>	5	ゴマモンガラ <i>Balistoides viridescens</i>	1
テングハギモドキ <i>Naso hexacanthus</i>	76	アカモンガラ <i>Odonus niger</i>	3
ミヤコテングハギ <i>Naso lituratus</i>	2	クロモンガラ <i>Melichthys vidua</i>	1
テングハギ <i>Naso unicornis</i>	2	ムスメハギ <i>Sufflamen bursa</i>	3
トサカハギ <i>Naso tuberosus</i>	4	メガネハギ <i>Sufflamen fraenatus</i>	2
サザナミトサカハギ <i>Naso vlamingii</i>	5	カワハギ科 <i>Monacanthidae</i>	
ナンヨウハギ <i>Paracanthurus hepatus</i>	59	アミメウマヅラハギ <i>Cantherhines pardalis</i>	1
キイロハギ <i>Zebrasoma flavescens</i>	13	ヒゲハギ <i>Chaetodermis penicilligera</i>	1
ゴマハギ <i>Zebrasoma scopas</i>	1	テングカワハギ <i>Oxymonacanthus longirostris</i>	3
ヒレナガハギ <i>Zebrasoma veliferum</i>	3	ハコフグ科 <i>Ostraciidae</i>	
アカツキハギ <i>Acanthurus achilles</i>	4	コンゴウフグ <i>Lactoria cornuta</i>	3
カンランハギ <i>Acanthurus bariene</i>	2	ミナミハコフグ <i>Ostracion cubicus</i>	3

和名 学名	数	和名 学名	数
テングハコフグ <i>Ostracion rhinorhynchus</i>	1	カエル目 Anura	
ウチワフグ科 Triodontidae		アカガエル科 Rnidae	
ウチワフグ <i>Triodon macropterus</i>	1	ハナサキガエル <i>Rana narina</i>	2
フグ科 Tetraodontidae		リュウキュウアカガエル <i>Rana okinavana</i>	1
サザナミフグ <i>Arothron hispidus</i>	3	アオガエル科 Rhacophoridae	
スジモヨウフグ <i>Arothron manillensis</i>	1	モリアオガエル <i>Rhacophorus arboreus</i>	1
コグテンフグ <i>Arothron nigropunctatus</i>	3	オキナワアオガエル <i>Rhacophorus viridis viridis</i>	6
ワモンフグ <i>Arothron reticularis</i>	1	ヒメアマガエル科 Microhylidae	
シボリキンチャクフグ <i>Canthigaster janthinoptera</i>	1	ヒメアマガエル <i>Microhyla ornata</i>	1
ハリセンボン科 Diodontidae			
ハリセンボン <i>Diodon holocanthus</i>	2	<b>爬虫綱 Reptilia</b>	
ネズミフグ <i>Diodon hystrix</i>	1	カメ目 Testudines	
ヒトヅラハリセンボン <i>Diodon liturosus</i>	1	ウミガメ科 Cheloniidae	
イシガキフグ <i>Chilomycterus reticulatus</i>	1	アオウミガメ <i>Chelonia mydas</i>	1
メイトイシガキフグ <i>Cyclichthys orbicularis</i>	1	ヌマガメ科	
		ミシシッピアカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i>	2
<b>両生綱 Amphibia</b>		有鱗目 Serpentes	
サンショウウオ目 Caudata		コブラ科 Elapidae	
イモリ科 Salamandridae		エラブウミヘビ <i>Laticauda semifasciata</i>	7
シリケンイモリ <i>Cynops ensicauda</i>	4		

(2) 水槽規格

水族館

補給水：取水濾過海水 換水率：回/日

水槽	水槽寸法(m)			水量(m <sup>3</sup> )			補給水		濾過循環		総換水	
	幅	奥行	水深	水量	数	総水量	m <sup>3</sup> /時	換水率	m <sup>3</sup> /時	換水率	m <sup>3</sup> /時	換水率
サンゴ礁への旅												
タッチプール	10	3.3	0.3	9.5	1	9.5	9.5	24			9.5	24
サンゴの海	7.5	15	3 - 3.5	300	1	300	300	24			300	24
熱帯魚の海	10.5	16.5	2.5 - 6.6	700	1	700	300	10.2	350	12	650	22.2
個水槽	1.7	1.5	2.9	6.6	1	6.6	6.6	24			6.6	24
〃	5.5	2.8	1.9	35.6	1	35.6	0	0	35.6	24	35.6	24
〃	1.5	1.2	1.9	3.2	4	12.8	3.2	24			3.2	24
〃	1.4	1.5	1.9	3.9	6	23.4	3.9	24			3.9	24
〃	0.5	0.4	0.6	0.1	18	1.8	0.3	24			0.1	24
サンゴの部屋	0.6	0.6	0.6	0.2	7	1.4	0.2	24			0.2	24
水辺の生き物	0.6	0.6	0.8	0.3	5	1.5	0.3	24			0.3	24
〃	0.6	0.9	0.2	0.1	3	0.3	0.1	24			0.1	24
〃	0.8	0.9	0.7	0.5	1	0.5	0.5	24			0.5	24
〃	1	0.9	1.1	1	1	1	1	24			1	24
〃	1.6/1.1	0.9	0.8	0.8	1	0.8	0.8	24			0.8	24
黒潮への旅												
黒潮の海	35	27	10	7,500	1	7,500	1,250	4	3,750	12	5,000	16
危険ザメの海	15	15	4.2	800	1	800	130	4	400	12	530	16
深海への旅												
個水槽	4.4	2.1	2.6	24	1	24	4	4	24	24	28	28
〃	1.3	1.4	1.9	3.4	4	13.6	2.3	4	13.52	24	16	28
〃	0.5	0.4	0.6	0.1	15	1.5	0.4	4	4.58	50	5	54
深層の海	10.3	8	3.6	230	1	230	38	4	300	24	338	28
海のプラネタリウム	1.5	1.3	1.3	2.4	3	7.2	1.2	4	7.2	24	8	28
合計					77	9,672	2,052					

蓄養棟

予備槽スペース約 400m<sup>2</sup> 補給水：取水未濾過海水 換水率：回/日

水槽	形状	水槽寸法(m)			水量(m <sup>3</sup> )			補給水		総換水	
		幅	奥行	水深	水量	数	総水量	m <sup>3</sup> /時	換水率	m <sup>3</sup> /時	換水率
1F コンクリート水槽	方形	11	9	2.5	250	1	250	120	12	120	12
	円形	10		3	240	1	240	120	12	120	12
	方形	5	5	1	25	3	75	25	24	25	24
2FFRP 水槽	方形	6	5	1	54	2	108	60	24	60	24
	方形	5	3	1.5	21	6	126	21	24	21	24
	方形	5	2	1	9	6	54	9	24	9	24

生け簀

網	形状	水量(m <sup>3</sup> )	長径(m)	短径(m)	水深(m)	数
K-1	方形	9,000	20	30	15	1
K-2	方形	2,475	15	22	7.5	1
K-3	方形	4,950	15	22	15	1
M-1 - 4	円形	1,325	15	15	7.5	4

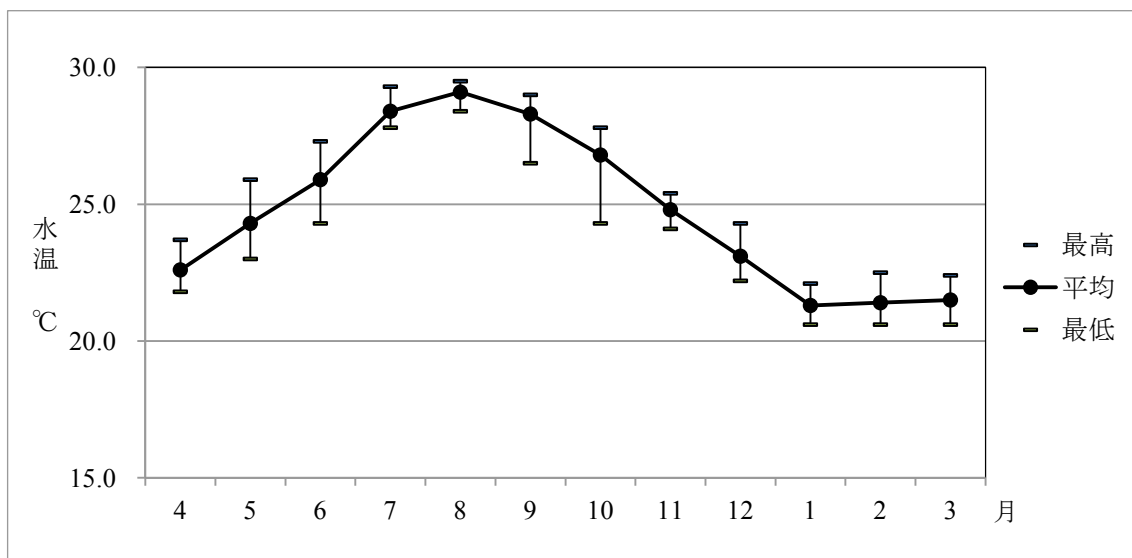
総水量：21,725m<sup>3</sup> 囲い網：106×38×20m

主な水槽の亚克力パネル

水槽	幅(m)	高さ(m)	厚さ(cm)
サンゴの海 曲面	18.136	2.95	18
熱帯魚の海 曲面	7.105	3.49	18
平面	6.5	3.45	18
黒潮の海 正面	22.5	8.2	60
カフェ側	2.6	7.4	20
アクアarium 曲面	7.45	10.6	38
コーナー	3.3	2.87	10
美ら海シアター	6.4	3.45	20
水上観覧デッキ (強化ガラス)	3.75	3.75	3
危険ザメの海	4.3	3	15
深層の海	10.15	3.15	16

(3) 取水海水温

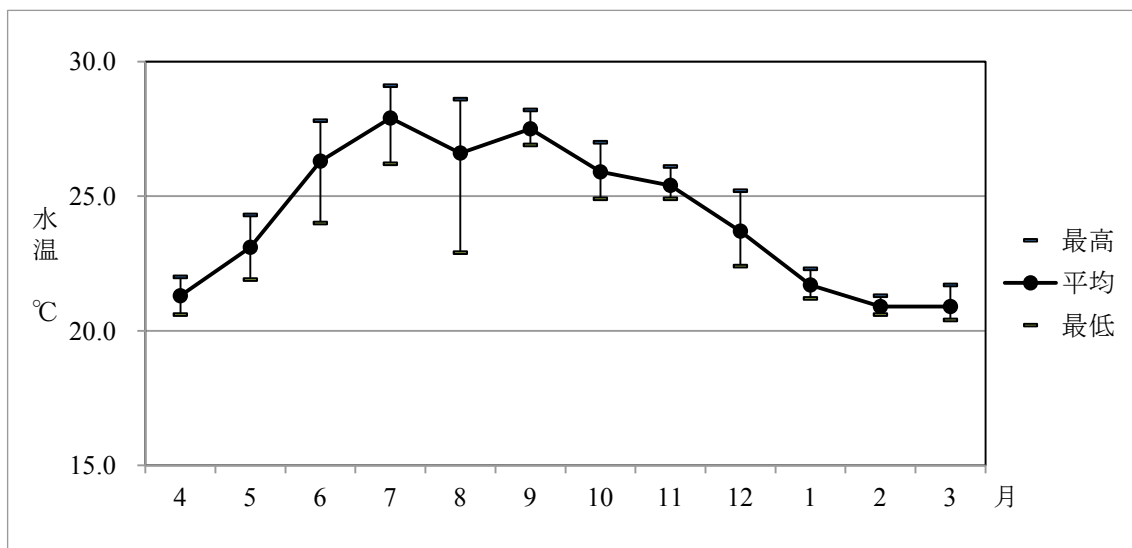
平成 22 年度



月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
最高	23.7	25.9	27.3	29.3	29.5	29.0	27.8	25.4	24.3	22.1	22.5	22.4
平均	22.6	24.3	25.9	28.4	29.1	28.3	26.8	24.8	23.1	21.3	21.4	21.5
最低	21.8	23.0	24.3	27.8	28.4	26.5	24.3	24.1	22.2	20.6	20.6	20.6

年平均 水温 : 24.8°C pH : 8.3 比重 : 26.21

平成 23 年度



月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
最高	22.0	24.3	27.8	29.1	28.6	28.2	27.0	26.1	25.2	22.3	21.3	21.7
平均	21.3	23.1	26.3	27.9	26.6	27.5	25.9	25.4	23.7	21.7	20.9	20.9
最低	20.6	21.9	24.0	26.2	22.9	26.9	24.9	24.9	22.4	21.2	20.6	20.4

年平均 水温 : 24.3°C pH : 8.3 比重 : 26.26

沖縄美ら海水族館年報 第8号 平成25年3月 印刷・発行

---

発行所 一般財団法人 沖縄美ら島財団  
沖縄県国頭郡本部町字石川 888  
電話 0980-48-3645 (代)

編集兼 池田孝之  
発行人

印刷所 沖縄高速印刷株式会社  
沖縄県南風原町字兼城 577  
電話 098-889-5513 (代)

---





沖繩美ら海水族館  
Okinawa Churaumi Aquarium

一般財団法人 沖縄美ら島財団

Okinawa Churashima Foundation